実践団体情報

記入日	2019年 12月 15日(2019年度のチャレンジプラン)
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校
代表者名	校長 若松 悠紀子
プラン全体のタイトル	わくわく防災減災―毎日、学校で防災について考えてみた
	1から分かる!学校の日常に防災教育を入れるコツと、
	生徒が活躍できる地域連携のススメ
電話番号	03-3416-1150
実践団体の説明	中高一貫の私立女子校で所在地は世田谷区(併設小学校は
	目黒区)。「被災地ボランティア研修」(2012 年~@宮城)
	での学びがきっかけとなり、2015年から学校内及び地域
	での防災教育・防災活動に取り組み始めた。防災教育を学
	校の特色の一つと位置づけ、様々な活動を展開している。
	特に「東京の私立女子校」という特性を活かした実践と災
	害時のトイレ問題の取り組みが特徴的である。防災を軸と
	した地域との連携も広げており、区と乳幼児と妊産婦を受
	け入れる「福祉避難所(母子)」の協定を結んでいる。
所属メンバー	校長 若松 悠紀子
活動地域	東京都内(世田谷区を中心とした都内各地)
	宮城県(これまでの主な活動地域:石巻市・塩釜市・仙台
	市・東松島市・山元町・亘理町)
	熊本県 (これまでの主な活動地域:熊本市・益城町)
活動開始時期・結成時期	2012年(被災地研修開始)/2015年(防災教育開始)
過去の活動履歴・受賞歴	2015年度・2016年度学校防災力向上事業参加(日本トイ
	レ研究所・世田谷区のプロジェクトに協力)、国土交通省
	「マンホールトイレ整備・運用のためのガイドライン」に
	事例として掲載(2015 年度版 p.49、2018 年度版
	p.50)、2017 年度防災甲子園 フロンティア賞受賞、2017
	年度ボランティア・スピリット・アワード コミュニティ賞
	受賞、2018年度防災教育チャレンジプラン 防災教育特別
	賞受賞

プラン全体の概要

防災教育が浸透しない理由として「多忙を極める学校現場で、教員の知識や技能が不十分」であることが、しばしば指摘されるが、なぜ本校では防災教育が実現できているのか。理由はとてもシンプルで、教員も生徒も「やりたいから」である。ただし、生徒がやる気を出す仕掛けや、教員がやる気を維持する工夫が必要となる。生徒が防災の主役になる実践を通じて、防災教育の魅力を高めたい。

◎隙あらば防災「どうすれば防災に繋げられるか」を常に 考えながら、学校生活を送っていると、色々なチャンスが 見つかる。「防災を教える」だけでなく「防災『で』教え る」が必要だ。防災教育をすれば、簡単に生徒が変わる訳 ではない。本校の生徒の意識や行動を変えたのは「ちょっ とした工夫」や「日常の小さな声がけ」の積み重ねも大き い。試行錯誤や小さな工夫も、報告・共有していきたい。

◎防災意識を高めるから「防災あたり前感覚を育む」

「中高時代は防災に対する『あたり前感覚』をつける時期」と捉えている。生徒は災害と同一視し、防災にネガティブな印象を持っているので、ポジティブに変えるには、「防災=未来の命を救うボランティア」の位置付けが効果的だ。さらに一時、教員が張り切るあまり生徒に「防災依存心」が生まれるという矛盾が生じた。「生徒に行う防災教育と、学校としてすべき災害対策は別物」と認識を改め、教えるから「引き出す」防災教育へ転換を図ったところ、より効果的に主体的に行動する態度が育つようになった。

◎直面した台風 19号

今年度の特筆すべき特色としては、水害に重点を置いたプランを展開していたところ、台風 19 号に直面した。

▽「実践したプランの内容と成果の報告」の内容

情報整理術、授業実践(教科単独/教科横断)、他校との連携、地域との連携、校外・被災地での防災学習、防災講演会、災害時のトイレ問題、訓練、教職員研修、日常の工夫

プランの年間活動記録

	プランの立案と調整	活動準備	実践活動
4月	年間の授業構想を練る・	授業づくり及び連携先(学	授業実践
	7月被災地研修企画開始	外)との打ち合わせ ⇒年間	⇒年間を通じて実施 (社会・
		を通じコンスタントに継続	理科・国語・家庭科など)
5月	防災訓練の企画開始	被災地研修下見@宮城	調理実習・言語カウィーク・
			修学旅行@熊本県
6月	社会科見学の企画開始	防災訓練リハーサル	地域連携授業・訓練・アンケ
			ート実施・青少年赤十字研修
7月	教職員研修の企画開始	被災地研修事前学習・	第 16 回被災地ボランティア
		社会科見学の打ち合わせ	研修@宮城県
8月	3月被災地研修企画開始	被災地研修下見@宮城	教職員対象研修・ポスター
9月	社会科見学の授業構想	水害についての情報収集	ミニ避難訓練
10月	教科横断型授業の担当者	地域イベント打ち合わせ・	講演会・ワークショップ・
	打ち合わせ	台風 19 号対応	「避難」について考える
11月	教職員研修の調整	イベント打ち合わせ・	携帯トイレ作成・講演会・
		資料作成・プレゼン準備	社会科見学@防災科研
12月	被災地研修の企画再開	被災地研修下見	教科横断型授業・私学教職員
			対象研修会・地域イベント
1月	復興支援イベントの生徒	年間活動のまとめ作成・	留学生授業・炊き出し・
	プロジェクトチーム結成	追悼イベント書道作品作成	被災地研修校内報告会
2月	携帯用防災グッズの検討	被災地研修下見	母子避難所訓練への参加
3月	来年度に向けての立案	イベント開催準備・	復興支援イベント@池袋・
		被災地研修事前準備	第 17 回被災地研修@宮城県

プラン全体の反省点・課題・感想	生徒が成長する防災教育の魅力にワクワクしながら、さら
	に実践を重ね、校内外での取り組みや連携が広がった。一
	方で新しい取り組みの準備に時間がかかり、プラン実施に
	追われていたので、計画性・効率性も意識していきたい。
今後の活動予定	学校現場で活用しやすい実践事例・クロスカリキュラムを
	楽しく開発すると共に、防災教育の魅力を広めたい。

記入日	2019年12月27日(2019年度のチャレンジプラン)
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校
実践番号 (団体内・年度内の通し番号)	01(情報整理術)
タイトル	学校現場で、毎日防災について考えてみた。
	(実践の中で発見した課題や疑問を追究し、防災教育に取
	り組みやすくするための情報整理術)
実践担当者のお名前	京(社会科・防災係)
実践にかかった金額	ほぼ0円
実践の準備にかかった時間	なし
実践活動を実施した日時	毎日/2019年5月・9月・12月頃にふり返りと整理
実践の所要時間	
実践の運営側で動いた人の人数	1人
防災教育の対象者の属性	教職員
防災教育の対象者の人数	1人→気づいたことを職員室で共有
実践を行った都道府県と市区町村	東京都世田谷区
実践を行った具体的な場所	目黒星美学園中学高等学校 職員室など

達成目標

【目的・目標】

- ①日々、学校現場で防災教育に取り組む中で、課題や疑問を発見し、 定期的にそれらの解決策を考えたり、原因を追究したりすること で、より良い防災教育の在り方を模索する。
- ②本校で起きたことは、他校でも起こり得ることだと思うので、事例 として共有することで、防災教育の浸透・継続に貢献できると良い と考える。

【背景・経緯】

これまでの約5年間の防災教育の実践の中で、様々な課題、疑問、矛盾、誤解、壁、思わぬ結果が表れる不思議な現象などが次々と生じた。そのことで悩んだり、防災教育へのモチベーションが下がったりもしたが、それらを1つ1つクリアすることで、また新しい手法やより良い防災教育の在り方を見つけられることに気づいた。また、経験上の1つの見方ではあるが、これらの困難が、教員が「時間がない・

知識がない」と言って、防災教育に一歩踏み出せない状況の背景にあるのではいかとも感じる。

 $\hat{\Gamma}$

今年度、意識して、定期的にそれらのことを分析・整理したことで、 モヤモヤしていたことがすっきりし、防災教育に対する教員の心理的 負担が減ることに気づいた。次の項目でいくつか具体例を挙げる。

実践内容・方法

- ① 【課題】実践の中で生じた課題等を挙げる。
- ②【追究】課題解決に向けた工夫や課題を追究した結果、見えてきたことをまとめる。
- ③【解決】どのように課題解決を図ったか、特に今年度の取り組みや工夫を報告する。

そもそもの防災教育の第一歩の踏み出し方で悩む

【課題】防災教育を始める段階で、そもそも、どうすれば防災教育が 学校で受け入れられるか悩んだ。真面目に一生懸命防災の大切さを訴 えても、なかなか生徒の関心は高まらない。

Ú

【追究】逆転の発想で、「にこにこしながら、楽しそうに防災減災と言い続けたら、どうなるか」試してみることにした。

Û

【解決】学校全体に、前向きに防災が浸透するようになった。「防災は楽しい」という感情は、教員の防災教育に対するモチベーションの維持にも繋がっている。今年度も日々、防災は楽しいという姿勢で取り組んだ。

防災を頑張っていたら「先生は災害が好き」という謎の誤解が広がる

【課題】防災に楽しく取り組んでいるうちに、「先生は災害が起こるのを喜んでいる」と生徒が誤解し、地震が起こると「嬉しかった?」と聞いてくるようになった。一方で、中1で防災教育を始めようとすると「怖いからヤダ」という声が上がることが度々あった。

Û

【追究】生徒は災害と防災を同一視して、防災に対してもネガティブ

な感情を抱いていることが、防災教育の妨げになっているのではないかと考えるようになった。実際に中1の最初の防災教育の授業で、「防災という言葉を聞いて思い浮かぶ気持ち」を書いてもらったところ、「災害をイメージして、辛い気持ち」といった回答が見られた。

↓

【解決】災害と防災は別物(間逆)であることを、教員自身が、しっかりと認識・理解した上で、生徒が感覚として理解できるように教育する。特に今年度は、教員は災害と防災に関する単語や情報を敢えて書き出し、自分なりの言葉で説明する作業を行った。その上で、繰り返し、生徒に「災害と防災は違います」と言い続けて、防災に対してポジティブな気持ちを持てるように工夫した。

▼ [例] 教員なりの言葉で説明をまとめてみる。

災害	防災
大きな災害が起こると深刻な被	これから起こる災害に備えて、
害を受け、つらい経験をするこ	やればやるほど、救われる命が
ともある。自然災害の発生を止	増える、未来志向の取り組み。
めることはできないし、日本で	過去に起きた災害の教訓からも
は様々な災害が頻発している。	学ぶことができる。

教員が張り切って防災に取り組んだ結果、却って生徒の防災依存心を 高めるという矛盾が生じた。

【課題】初期の頃、教員主導で防災を進めていたところ、授業中に地震が発生した際に「先生が何とかしてくれる」と言って、生徒が身を守る行動を取らないということが発生した。夜や休日に地震が起きた後に、学校にいる時間帯に起きた訳でもないのに、「この学校の生徒で良かった。先生がいるから良かった」という発言がしばしば生徒から聞かれるようになった。

Û

【追究】教員が張り切って防災に取り組む姿を見せることは、生徒の 関心を惹く上でも効果的だが、「先生が守ってくれる」という安心感を むやみに育てるのは、却って、生徒を危険に晒すのではないか。この 【解決】まず、教員は、「教員が学校として取り組むべき『防災・災害対策』と、生徒に対して行うべき『防災教育』は別物として捉えるべき」と認識する。

…⇒生徒には、「どこにいても何をしていても助かってほしい」という思いを真剣に伝えると共に、【教員「先生は皆さんを守りま…」生徒「せん!」】というやり取りを通じて、自分の身は自分で守るという生徒の自助意識を高める。このやり取りが恒例になった結果、地震発生時の生徒の行動が素早くなった。また、学校外で地震が起きた際も、「自分で考えて行動した」という報告をしてくるようになった。ただし、全校朝礼で初めて、宣言をしたときは、生徒はざわついた。やり取りの本質的目的を説明して、理解を得ることが必要。

「防災」って、実は曖昧かも?

【課題】災害や防災について考えていると教員には「果てしなく呆然とする気持ち」が生じる。一方で、地震の対応も水害の対応も、混同して「結局、防災って何をすればいいの?」と思う生徒も出てくる。

【追究】「防災」と「災害」と一言でまとめるのではなく、もっと1つ1つ分けて、一歩一歩取り組んでいった方が良いのではないか。
↓

【解決】今年度から始めた工夫として、「防災について学ぶ」という表現ではなく、今日はどの災害についての学びなのかを、最初にはっきり宣言してから授業を始めるようにしている。(例:「今日は台風による水害について学びます」「今日は首都直下地震のことを考えます」)

「楽しく防災に取り組むのは不謹慎」という意見を聞く

【課題】学校外で、「防災に楽しく取り組むなんて言うのは、不謹慎かもしれませんが・・・」という発言をしばしば聞くことがあった。

Û

【追究】実践担当者は、東日本大震災発生後、何もできなかったと無力感を感じていた。その中で、「今から防災に取り組めば、将来的に生徒の命を救うことに繋がるのではないか」と気づき、希望を見出した。そのため、「防災=希望」であり、わくわくする気持ちで取り組んでいるので、「防災に楽しむことが不謹慎」という感覚を不思議に感じた。生徒が、防災と災害を同一視しているのは、大人の影響ではないかと気づいた。

 $\hat{\Gamma}$

【解決】まずは、教員に対して、「防災と災害は別物で、防災は楽しく取り組む方が、生徒の教育上も望ましい」ということを説明している。「防災に取り組む=未来への希望」という視点で、防災教育自体の魅力を、教員視点でアピールしている。防災は、生徒の活躍のチャンスが大きい、課題がたくさんある分、生徒が解決策を考えるいわゆるアクティブラーニング型の授業を作りやすい、色々な教科と親和性が高く、授業内での学習が可能である。今年度は、2 教科で連携した防災教育の授業実践を増やすことができた。

得られた成果

実際の実践の中で現れた課題を考察したり、整理したりすることで、 その理由が見えて、防災教育がやりやすくなった。防災教育に取り組 むことへの心理的負担が減った。

課題・苦労・工夫 工夫 工夫

課題を客観視して、理由や解決策を考えるのは大変であり、同時に面白くもある。

★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ	
伝えたい相手	防災教育に取り組みたいと思っている先生方
伝えたい内容	防災教育を始めると、思っていなかった課題が発生することはよくあ
	ります。そこで諦めずに、課題解決を目指すと、より良い取り組みが
	見えてきます。何よりも生徒が成長します。学校現場にどうやって防
	災を入れ込むか(時間を確保するか)、は課題の1つですが、「防災を
	教える」の視点だけではなく、「防災『で』教える」の視点で日常を
	見直すとチャンスがたくさん見つかります。

記入日	2019年1月8日 (2019年度のチャレンジプラン)
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校
実践番号(団体内・年度内の通し番号)	02(授業実践①)
タイトル	【理科×社会×防災《理科編》】
	火山の噴火実験〜かたまる小麦粉で火山を再現
実践担当者のお名前	田中(理科科)・京(社会科)
実践にかかった金額	5000 円未満
実践の準備にかかった時間	数時間
実践活動を実施した日時	2019年11月25日~29日
実践の所要時間	50 分授業×2 コマ(3 クラスで実施)
実践の運営側で動いた人の人数	2人
防災教育の対象者の属性	中学生(1 年生)
防災教育の対象者の人数	約 70 人
実践を行った都道府県と市区町村	東京都世田谷区
実践を行った具体的な場所	目黒星美学園中学高等学校 化学室・普通教室
★実践に必要だった特定の能力を	理科教員、小麦粉、アクリル板、ドリル、無水エタノー
持った人・物品・ツール・知識等	ル、白衣、シリコンチューブ、注射器、火山研究をする大
	学院生

達成目標	教科書に載っていない実験方法で火山の噴火の様子を分析する。自分	
	でマグマを配合し、噴火させて固まることでマグマの粘度や火山砕屑	
	物、火山の形ででき方のイメージを具体的に持つ。	
どの力を身につけよ	知識・技能	かなり
うとしましたか?	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	かなり

実践内容・方法

1時限目(@普通教室)

火山の導入を授業で行い、動画で溶岩ドームの形成をタイムラプスで 記録した動画、成層火山の噴火動画、楯状火山の溶岩が市街地に流れ る様子の記録動画を鑑賞。火山噴出物の説明や火山が形成される地域 的特性の説明を行う。授業の終盤で最初に観た動画で出てきていたも のが溶岩であることを確認し、次授業では動画で確認できた「流れな い溶岩」と「流れる溶岩」の違いを確かめる噴火実験を行うことを予 告した。

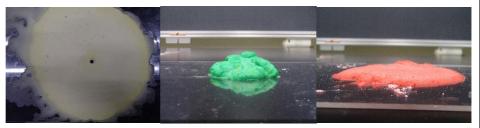
Û

2 時限目 (@化学室)

小麦粉と無水エタノールを混ぜてマグマの代替として用意する。この時、小麦粉と無水エタノールは配合の分量を変えて3段階の粘度になるように調節する。

穴の開いたアクリル板にシリコンチューブをつなげ、先端部分を紙粘土で固定する。シリコンチューブはできたマグマ液が詰められた注射器とつなげて、ゆっくりと押し出すようにする。各班は1種類のみマグマの押し出しを行い、自分以外の班の押し出しを観察させてもらい、自分たちの班のものと比較するように指示をした。

ゆっくりと押し出すことによって粘性が低いものでもアクリル板から こぼれ落ちることなく楯状火山を形成することができた。指示の解釈 が不十分で急激な押し出しがあっても、シリコンチューブから火山砕 屑物様の小麦粉が飛び出てきており、実感を持って火山砕屑物を理解 できたようである。



実験後は、地理の教員から火山の特性などの解説やそれに伴う災害に ついての紹介をしていただいた。ついさっきまで実験で行っていたこ とが実際の火山のサイズで起こることで発生する被害について想像が できていた様子であった。 実験後の課題としては、マグマの違いがなぜ生じるか。なぜ無水工タ ノールを実験材料として採用したのかを考察課題とした。実験後の完 成した火山については化学室後方の机に置き、自由に観察できるよう にしたところ、自発的に比較観察を行っている様子が確認できた。



なお、都合がついたクラスについては東京大学地震研究所で火山の研究をする大学院生に実験を見学してもらい、コメントなどを頂戴した。(▼下の写真右)生徒の実験と、大学での火山研究の話を繋げてくださったことで、生徒は自分たちが楽しく取り組んでいた実験を再評価し、学びの意義が深まっていた様子だった。





社会科の教員は TT として、実験に参加し、理科科教員の実験の説明の サポートや、実験の間は机間巡視し、適宜、実験のサポートを行っ た。(社会の教員も白衣を着て授業に参加すると、普段見ない光景に生 徒の関心が高まる。)

得られた成果	火山噴火の実験は教科書に記載のものよりも実際に固まった方が分か	
	りやすい上、白衣などの衣服に飛び散って固まったもので溶岩のイメ	
	ージを想起できる。	
どのくらい身につき	知識・技能	かなり
ましたか?	思考力・判断力・表現力	かなり
	学びに向かう力・人間性	かなり
課題・苦労・工夫	小麦粉と無水エタノールの配分は、小麦粉の粒度などでも粘度が大き	
工夫	く異なるので自分で試作することが必要です。注射器は無水エタノー	
	ルでゴム部分がかなり劣化	でするのでディスポのものが適しています。

★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ	
伝えたい相手	理科教員
伝えたい内容	噴火後に固まる材料選びを行うことで、生徒は火山のイメージが強く
	つきます。

記入日	2019年1月8日 (2019年度のチャレンジプラン)
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校
実践番号(団体内・年度内の通し番号)	03(授業実践②)
タイトル	【理科×社会×防災《社会編》】
	逆転の発想!「地域の特性ではない」災害をどう教える?
	一理科&社会コラボ授業で提案する「火山が身近でない地
	域」における火山学習のアイディア
実践担当者のお名前	京(社会科)・田中(理科科)
実践にかかった金額	1万円未満
実践の準備にかかった時間	数時間
実践活動を実施した日時	2019年11月25日~12月16日
実践の所要時間	50 分授業×1コマ+宿題(2クラスで実施)
	50 分授業×2コマ(1クラスで実施)
実践の運営側で動いた人の人数	3人:教員(2)、授業ゲスト(1)
防災教育の対象者の属性	中学生(1年生)
防災教育の対象者の人数	約 70 人
実践を行った都道府県と市区町村	東京都世田谷区
実践を行った具体的な場所	目黒星美学園中学高等学校 化学室・普通教室
★実践に必要だった特定の能力を	パワーポイント、新聞記事を使ったワークシート、火山の
持った人・物品・ツール・知識等	噴火動画、火山を研究する学生

達成目標	【目的・目標】
	①「地域の特性や実情に合わせた防災教育」の重要性は指摘される
	が、では、逆に身近ではない災害に関する教育はどうしたら効果的
	に行えるだろうか。生徒は現在住んでいる身近な地域以外で災害に
	遭う可能性も十分ある。そこで、本実践では、教科横断的授業によ
	り、生徒が災害について「頭と心で学ぶ」ことを目指す。
	②具体的には、理科と社会のコラボ授業を行うことで、理科で火山の
	噴火のメカニズムを学び、同時に社会の視点からは、「ミッション学
	習」を通じて、火山災害に対する防災意識と知識を持たせることを
	目標とした。

- ③生徒は将来的に居住や旅行、仕事などで様々な地域に行くことになる。その際に、自分が行く場所の自然特性や災害リスクをその都度、調べる意識と行動力を身につけてほしい。その際、「自分たちが安心して住むために地域を調べる」「楽しむためにリスクを調べる」という前向きな意識を持って行動してほしい。
- ④火山の噴火に関しては、「運の問題」「噴火に直面したら助からない」という意識が、地震以上に強いように感じることが、これまで何度かあった。この意識の転換を目指す。

【背景・経緯】

- ①本校は、富士山が学校から見えるものの、活火山が身近にある地域ではない。火山の学習に対して、生徒はなかなか実感を持てず、理料で実験を行っても単に「楽しかった」で終わりがちである。授業では「自分が一生の中で大きな地震に遭うと思う人?」という問いにはほぼ全員が手を挙げるが、「火山の噴火に遭うと思う人?」という問いに手を挙げるのは1~3割程度である。
- ②学校現場では、地域の特性に応じた防災教育が行われている。これは裏返すと、その地域で身近ではない災害に対しては、教育や訓練があまり行われていないということである。この点に対して、「生徒がどこにいても、何をしていても助かること」を目標に防災教育に取り組んでいる立場から、課題意識と危機感を持った。

どの力を身につけよ うとしましたか? 知識・技能かなり思考力・判断力・表現力かなり学びに向かう力・人間性大いに

実践内容・方法

1 時間目 = 《理科編》の 2 時間目に該当【実践番号 02】

※実験の手法と様子については《理科編》を参照

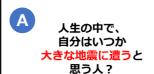
Û

2 時間目 = 社会の授業

①前時のふりかえり

実験の感想を聞いたり、大学院生のコメントを伝えたりした。

②社会科としての火山学習(パワーポイント)



B 人生の中で、 自分はいつか 火山の噴火に遭うと 思う人?

《PART1》火山アンケート



火山を登ったことのある人?



火山の近くに 住んでいたことのある人?

- (A)⇒ほぼ 100%の生徒が、迷いなく手を挙げる。
- (B)⇒1~3 割程度の生徒が手を挙げる。
 手を挙げるか戸惑う様子も見られる。
- (C)⇒富士山に登ったことがある生徒が手を挙げることが多い。
- (D)⇒静岡や鹿児島に住んでいたことのある生徒が手を挙げる。
 ※火山について小学校などで学んだか、火山学習の聞いても良い。

《PART2》各地の火山を見てみよう

- 〇九州の地名当てクイズ
- →鹿児島県では天気予報の一部で「降灰予報」が流れることを紹介する。 。ツイッターなどでも情報が出されていることを紹介する。
- 〇各地の火山…三宅島の噴火を紹介する。
- ○各地の火山…昭和新山に関して、クイズを出題する。

O. いつ誕生したでしょう?

①約80年前 ②約800年前 ③約8000年前 (正解:①)

名称で分かりそうだが、思い込みで多くの生徒は②③に挙手する。 つい最近できた火山、ということを知り、驚きの声が上がる。

⇒地理の視点から「造山帯」の話をする。

戦時中のできごとであることから、歴史の授業とも関連させる。

(例:終戦を迎えた年を確認する)

《PART3》御嶽山の噴火から私たちは何を学ぶ?

亡くなった方のカメラに残っていた御嶽山の噴火の写真を紹介する。

Ω



様々な災害、 私たちはどうすればいいの? 生徒が災害に対して、無力感を感じていることを見越して、

(E)の問いを示す。教員「地震も火山も台風も、日本は災害大国です。こういう話を聞いて、『もう助からない』と諦める人がいるかもしれません。どうしたらいいのでしょう??」



なぜ、つらいはずの体験を 話してくださるのだろう? ご遺族の方が写真を公開したこと、新聞等のインタビューに答えていることを伝える。(F)の問いを投げかける。

「備え」をして登山していたことで、噴火した御嶽山で一晩 を明かして、助かった女性のことも紹介する。

▼参考にした新聞記事(NIE 学習)→③の資料としても使用

「命かけた写真、安全対策に」池田の野口さん妻が公開

信濃毎日新聞ニュース 2014/10/03

生還女性が初めて語る「あの時」「焼け死ぬのか、溶けるのかな…」

産経ニュース 2015/09/28

 $\hat{\Gamma}$

③資料プリントの配布→各自、黙読

資料活用ワンポイント★資料をじつくり読ませるコツ

授業 プリント しっかりと読み取ってほしい新聞記事等の資料の場合は、「読み取ろう」の問いを設定し、1回目は普通に黙読、2回目は問いの答えを探しながら読むように指導する。

「どうせ災害が起きたら、自分は助からない」「だから準備しなくていいんだ」…こう思っている人、主張する人は結構います。でも、視点を変えて「災害が起きて助かる人の方が多い」という事実に目を向けましょう。そして、備えているかどうかで運命が左右されることがあります。 ☆あなたは、自分が行動することで、



※ ※ 炒なたは、日ガガ刊到するとこと、

自分自身や周りの人が助かる確率を何%上げられますか?

授業 プリント

④ポスターの作成

◎社会の考察について ★Today's ミッション★

「火山の登山をする噴火の危険性について知らない人たちに、気をつけてほしい こと(火山の噴火に関して)」について知らせるポスターを考えよう。

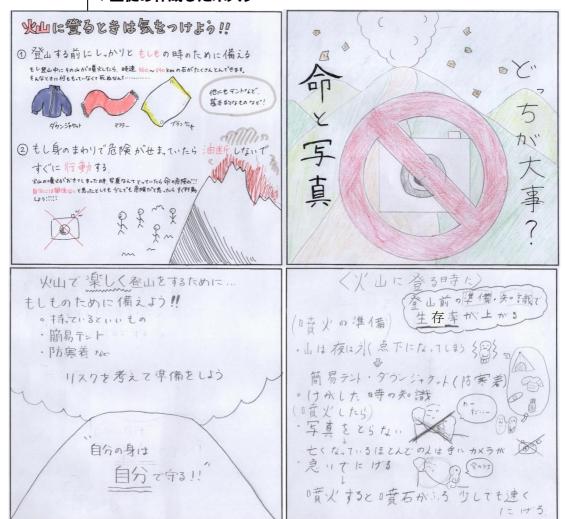
> ※2 時間目は授業時間数に余裕のあったクラスで実施した。1コマで 実施のクラスは、理科の実験の授業内に、社会の教員の解説・資料 配布(10分)を入れて、資料の読み込みとポスターは宿題とした。

得られた成果

チャレンジ!身近ではない災害を「自分事」として捉えさせる!

・ポスターを描くために、理科の資料集を熱心に見たり、火山の知識 をインターネットで調べたりする様子が見られた。

▼生徒の作成したポスター



どのくらい身につき	
ましたか?	

知識・技能	大いに
思考力・判断力・表現力	大いに
学びに向かう力・人間性	かなり

課題・苦労・工夫

課題

工夫

災害学習を重ねる際には「日本に誇りが持てなくなる」「自然を恨む気持ちが出てくる」ことにも留意しなければならない。この課題に対しては、「火山があるからこその恵み」についての資料を配布したり、調べたり考えさせたりする学習を併せて行うことが効果的である。多角的なものの見方も身に付くので、このようなメリットについての学習に定期的に取り組ませたい。

記入日	2019年1月8日 (2019年度のチャレンジプラン)
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校
実践番号	04(授業実践③)
タイトル	地震災害を分かりやすく。生徒が提案する実験授業。
実践担当者のお名前	田中 (理科科)・(京(社会科))
実践にかかった金額	1000 円未満
実践の準備にかかった時間	数時間
実践活動を実施した日時	2019年11月11日~12月5日
実践の所要時間	50 分授業×2コマ(3クラスで実施)
実践の運営側で動いた人の人数	1人
防災教育の対象者の属性	中学生(1年生)
防災教育の対象者の人数	約 70 人
実践を行った都道府県と市区町村	東京都世田谷区
実践を行った具体的な場所	目黒星美学園中学高等学校 化学室・普通教室
★実践に必要だった特定の能力を	理科教員、園芸砂、わりばし、発泡スチロール
持った人・物品・ツール・知識等	

達成目標【目的・目標】

地震の単元にある地震による災害のページでは各種の災害が文章中で 述べられているだけで生徒に実感をもって学んでもらえない。そこ で、生徒が自分たちで考案する実験を通じて、原理や実際の被害の学 習をねらいとした。

【背景・経緯】

①中学1年生の授業を担当する理科科と社会科の教員がそれぞれの教科において、防災教育上の課題を抱えていたことから、お互いの課



題を出し合い、「楽しく主体的に生徒が学ぶ方法」を目標に解決策を考えた。

②その際に、学校外の取り組みに目を向けて、ヒントを得た。

理科科の課題

「様々な災害」の単元の学習が、災害の種類の紹介で知識の羅列となり、なかなか生徒の関心が得られないが、授業・教科書では教えられない。

社会科の課題

楽しく防災を学ぶことは成功しているが、 「正しく恐れる」ためにもイメージだけで はなく、災害発生のメカニズム等の知識を 学ばせたいが、授業・教科書では教えられ ない。

課題解決のヒント♪

①防災科学技術研究所の見学の際に、「Dr.ナダレンジャーショー」に生徒が魅了される。

②ぼうさいこくたい 2019 の 会場で、子どもたちがお菓子を使って楽しく災害実験 に取り組むのを見学する。

どの力を身につけよ	知識・技能	かなり
うとしましたか?	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	かなり

|理科科&社会科教員で作戦

会議

実践内容・方法

1時限目 (普通教室)

- ・地震による災害を授業内で取り扱い、グループごとに注意する事項 や条件などを話し合いさせてから発問した。本校が私立ということ もあり、生徒たちが普段生活する地域ではなく、外出先や校外行事 という限定で想定させた。
- ・授業のまとめ時に、本時のような内容を効率よく伝えるための実験 を班ごとに考案してもらうように伝え、グループのワークシートを 配付した。

Û

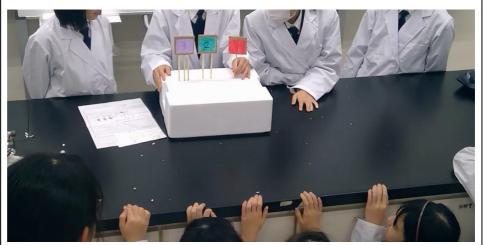
2時限目 (生物室)

- ・事前にグループから提出された実験書の中から実践可能なものを選び、演示をお願いした。また、水槽や園芸砂などを使う必要があるため実験は生物室で行い、実験は授業の導入として実施した。
- ・全クラスで異なる実験を行い、各グループに演示内容の原理説明を お願いした。採用された実験内容は液状化実験、共振実験、耐震強 度実験となった。

▼実験準備の様子



▼「共振実験」



▼「耐震強度実験」



得られた成果

生徒が自分たちで実験を構築し、学習につながる実験となるかどうか は不安ではあったものの、結果として非常に良い教材ができた。生徒 は友人の発表を真剣に聞き、自然に質問することができていた。

どのくらい身につき	知識・技能	かなり
ましたか?	思考力・判断力・表現力	かなり
	学びに向かう力・人間性	かなり
課題・苦労・工夫	・実験の考案にあたっては	は学校にある設備、かつ購入する場合も金額
課題	の制限をかけて行ったた	ため、再現性が高く、手軽に行える実験にな
	った。次年度以降は発表	できるグループ数を増やしていきたい。
工夫	・11月 16日に実施した防災社会科見学に向けての学習も兼ねて、理	
	科の学習進度を合わせた	

★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ	
伝えたい相手	中学生
伝えたい内容	自分で実験を考えることで原理を自分でよく調べ、身に付けることが
	できます。

記入日	2019年12月25日(2019年度のチャレンジプラン)
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校
実践番号(団体内・年度内の通し番号)	05(授業実践④)
タイトル	逆転の発想!!生徒「が」防災を教える防災教育
	(中 1 防災社会科見学・生徒によるプレゼンテーション)
実践担当者のお名前	京・加嶋(社会科)
実践にかかった金額	1000円未満(主にプリント印刷・文房具)
実践の準備にかかった時間	1日(主に授業作り)
実践活動を実施した日時	準備:2019年9月下旬~11月15日
	本番:11月16日13時00分~14時00分
実践の所要時間	準備:50 分授業×6 コマ(3 クラスで実施)/本番: 1 時間
実践の運営側で動いた人の人数	23 人: 防災科学技術研究所(15)・教員(9)
防災教育の対象者の属性	中学生(1年生)
防災教育の対象者の人数	約 70 人
実践を行った都道府県と市区町村	東京都世田谷区
実践を行った具体的な場所	準備:目黒星美学園中学高等学校 普通教室・パソコン室
	本番:防災科学技術研究所 和達ホール
★実践に必要だった特定の能力を	パワーポイント、プリント、ワークシート、付箋
持った人・物品・ツール・知識等	

達成目標 【目的・目標】 初めて防災の授業を受ける中1が、防災に関するアイディア・提案を 自ら考え、社会科見学で専門家の前で発表する。その中で、防災に対 する生徒自身の抵抗感を無くすこと、及びコミュニケーション能力の 向上を目指す。限られた授業時間数で実践を行い、効果を上げる。 防災を 知識を 逆転の防災教育▶ 発表する 生徒の防災に対す ● 防災に対する抵抗感(心のバリア)を無くす る「受け身意識」 ❷ 自助意識・主体性を育てる("私が"意識) の転換を図る。 防災に対する開かれた心 学びに向かう 姿勢の変化

生徒自身の防災への抵抗感を無くすには、最初に「考える」経験をさせることが有用である。特に効果的なのが、「生徒自身が防災について考え、大人に教える」という経験である。

〇防災教育の初期の段階で、生徒の意識を転換することを目指した。

- ①防災は「大人から教えてもらうもの」「誰かにやってもらうもの」で なく、「自分で考えるもの」「私自身が行動するもの」と捉える。
- ②生徒が持つ防災に対するマイナスのイメージや抵抗感を取り払い 「プラスの感情」を持たせる。
- ③自らの考えを発信する面白さを経験し、学びの意義を見出す。

どの力を身につけよ うとしましたか?

知識・技能	かなり
思考力・判断力・表現力	大いに
学びに向かう力・人間性	大いに

実践内容・方法

(1) ワークショップの流れ



- ① 3~4名でチームを作る
- ②「わくわくワークシート」…付箋にアイディアを書き出す
- ③「選択ミッション」…②で出したアイディアを土台にミッションAかBを選択し、3分間のプレゼンテーションにまとめる
- …⇒自由に出した付箋のアイディアを、「自信あり」「ちょっと良 いかも」「ありきたり」に仕分けする(別のワークシート)
- ④ クラス内で発表し、各クラス2チームを代表として選出



▼ワークショップ わくわくワークシート

授業 プリント

外国から来た旅行者が 日本で大きな地震に遭ったら どんなことに困るでしょうか。



あなた自身が言葉の通じない、 文化も違う外国で災害に遭ったら…と想像 してみるとアイディアが出てくるかも!

どうすれば皆、前向きに 「自分のための防災」に取り組んで くれるようになるでしょうか。



どうすれば、一人一人が「自分のために 備えるのが当たり前」「災害ごとに自分で 考えて行動することが当たり前」と思う ようになるでしょうか?

どうすれば「自分が得するから備えよう!」と思ってもらえるでしょうか。

どうすれば、防災のイメージアップ ができるでしょうか??

★ミッションAーオリンピック目前!おもてなしプロジェクト

皆さんは、東京オリンピックに向けて、「おもてなしぼうさいプロジェクト」の担当になったとします。外国の人たちを迎えるにあたっての 防災のためのアイディアを提案してください。 授業 プリント

☆ポイント: ただし、日本の中でも防災意識が低かったり、備えは十分ではないので「外国から来る人たちのために私たちが全部準備します!」では実現可能性はないでしょう(涙)「外国から来る人たちにやってもらうと良いこと」とそれを実現するアイディアも考えてみてください。また、迎える日本側では、どのようなことを準備しておくと、もしもオリンピック期間中に(またはそれ以外の期間もたくさんの外国人観光客が日本に来ています)、首都直下地震が発生

したときに少しでもよい対応が取れるでしょうか。 国や東京など大きな視点だけではなく、「私たち 一人一人にできること」の視点が大事です!

★ミッションB―当たり前を変えよう! 防災イメージアップ大作戦

どうすれば、皆が普段から自分のために前向きに ▲**チーム活動の様子** 備えるようになるでしょうか。日本の多くの人が持っている防災のイメージを変える アイディアも含めて、アイディアを提案してください。

☆ポイント:日本では「災害が起きたら避難する=避難所に行く」というイメージができています。そのため「国や区・市が備蓄品を十分準備しているはずだ」と誤解している人も多くいます。防災に対してネガティブなイメージを持っている人が多く、普段はみんななるべく考えないようにしています。しかし、首都直下地震ではどう考えても避難所にみんなが入ることは不可能です。自宅で工夫して生活したり、避難所に行く以外の方法をとることが必要です。いつ来るか分からない地震にしっかり備えておけば、毎年のようにやってくる台風のときにも役立ちます。「備えたのに無駄になった」と思ってしまう人もいますが、実際は、防災すれば得をします!

「偏えたのに無駄になった」と思ってしまっ人もいますが、実際は、防災すれは得をします! ただ単に「備えよう!」と言っても何をしてよいか分からない人もいます。防災のイメージを変 えるアイディア、皆に「行動しよう!」と思ってもらえるようなアイディアを期待しています♪

- ↓ ミッションAかBを選び、プレゼンに向けてアイディアを出す。
- ↓ 自由に出したアイディアを仕分けすることで、

これは自信あり!!

ちょっと良いかも♪

ありきたり(普通)かな~

(4) 代表チームのテーマ:

▼おもてなしプロジェクト

- A-1「不安から安心へ」 B-3「つながる変える防災」
- C-5「『避難所に頼らないマーク』の提案 |

▼イメージアップ大作戦

- A-3「女子中学生が考える防災の世界」
- B-1「世界への OMO TENASHI」 C-2「備えれば"得"しかない!」
- (5) プレゼンテーション本番



▼防災科研の研究員・専門員から質問して いただいたことも、貴重な経験になった。



得られた成果

チャレンジ!最初の防災教育で生徒の防災イメージを 180 度変える!

- ・防災に対する生徒のイメージをネガティブからポジティブへ、態度 を受け身から主体的なものに転換を図ることができた。
- ・防災科研の研究員の方が温かい視点で、生徒のプレゼンテーション を聴いてくださったことで、大きな自信になった。またプレゼンに 挑戦したいという気持ちを持った生徒も多く、次のステップに繋が る経験になった。

▼**生徒感想文より** (一部抜粋)

私は、今回の社会科見学の前までは、災害なんて滅多に来ないし防災なんかしなくても大丈夫だと思っていました。けれど、滅多に来ない災害の恐ろしさと備える大切さを知りました。今私たちにできる事を想像して備えていきたいです。防災は、自分を大切にする事だと思いました。



社会科見学を通して考えたことは、防災を前向きに考え、みんなにも伝えるということです。災害時落ち着いて対応できるように、普段からコミュニケーション能力を授業内で鍛えて行きたいと思いました。災害は、いつ来るか分からず、とても怖いですが、防災はとても楽しくできます。



私は防災科学技術研究所に行ったことで改めて『防災』をすることの大切さを知りました。しかし、私だけが知るだけでは意味がありません。この機会で知り、学んだことをこれから色々な人に伝え、そして伝えた人からまた違う人に伝わり繋がってゆくサイクルが増え続ければいいなと思いました。

防災の考え方、見方が変わりました。それは、私の班がプレゼンテーションをする班に選ばれたので、もっと深く考えられたのだと思います。私の班は、「おもてなしプロジェクト」に決め、発表しました。私の班の意見は、「にこにこ大作戦」、「かわいいおみやげ防災グッズ」です。一つ目の「にこにこ大作戦」は、災害時、パニックになっている時に笑顔で対応されたら相手も自然と笑顔になり、安心出来るのではないかという考えです。二つ目の「かわいいおみやげ防災グッズ」は、日本風の柄で海外の方のおみやげとしても使えるようなグッズを私たちが考え、イラストとともに発表しました。懐中電灯として使える万華鏡ライト、助けを呼ぶための桜ブザー、自分オリジナルの布製リュックサックを作る企画を立てました。これらの意見に対し、良い評価を頂けて良かったです。

私は、防災を学ぶ前は、「防災は、怖いもの」と思っていました。しかし、「防災は、一人一人が心がけなければならない大事な事」だという事が社会科見学を通して分かりました。そして、私のように怖いと思っている方が多いと思います。だから、周りの人へ防災は大事なんだという事を伝えていこうと思います。東日本大震災が起こった頃、私は幼稚園生でした。このような話をお母さんにし、災害時のリュックサックをみたら、サイズが小さい下着類が出てきました。私は、この事から季節や体に合わせたものを入れ替える必要があると思い、実行しました。

どのくらい身につき	知識・技能	大いに
ましたか?	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	大いに
課題・苦労・工夫	・ミッションのレベル設定	が課題。大きなミッションにするとプレゼ
課題	ンテーションの内容がま	とまらなくなり、テーマを絞り過ぎると生
	徒の自由な発想が出て来	なくなるので、良いバランスを見つけるの
	が試行錯誤。	
苦労	・今回、生徒たちが張り切]った分、発表内容が広がり過ぎたため、本
	番直前に、プレゼンテー	-ション指導に学年と社会科の教員総出で指
	導に当たることになった	-

記入日	2019年12月25日(2019年度のチャレンジプラン)
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校
実践番号(団体内・年度内の通し番号)	06(授業実践⑤)
タイトル	生徒の心に「防災マジック」をかけよう!
	一効果を飛躍的に高める「防災教育 1 時間目」のススメ
実践担当者のお名前	亰 (社会科)
実践にかかった金額	1000 円未満(プリント印刷)
実践の準備にかかった時間	数十分
実践活動を実施した日時	2019年9月下旬
実践の所要時間	15 分(授業の一部として、3 クラスで実施)
実践の運営側で動いた人の人数	1人
防災教育の対象者の属性	中学生(1年生)
防災教育の対象者の人数	約 70 人
実践を行った都道府県と市区町村	東京都世田谷区
実践を行った具体的な場所	目黒星美学園中学高等学校 普通教室
★実践に必要だった特定の能力を	プリント、パワーポイント
持った人・物品・ツール・知識等	

達成目標

【目的・目標】

中1の防災教育1時間目。生徒たちは浮かない顔をしている。 そこで、防災教育を始める時に、真っ先にすべきこととして「生徒の 『心のバリア』を外す工夫」を行っている。そこには、生徒の防災に 対する受け身の意識を「主体的に行動する態度」に転換するチャンス がある。

【背景・経緯】

以前、中1の授業で「防災」と言っただけで、生徒の表情が曇ったり、「怖いから止めて!」という声が上がったりしたことから、生徒の防災に対する「心のバリア」の存在に気づいた。また、生徒アンケートを通じて、生徒が災害と防災を同一視して、防災に対してネガティブな感情を抱いていることが分かった。

▼生徒が1時間目に書き出した「防災と聞いて浮かぶ気持ち」

怖い、興味がない、日常が崩れることを想像して準備するのも怖い、 やだなー、亡くなった方に失礼だからイメージがあまりよくない、 防災の先生やゲストの人の話が長くて分からなくなる、面倒くさい、 地震や災害を思い出したくない、難しそう、面倒で後回し、悲しい気 持ちになる、災害のことを考えると本当に起きてしまいそうで怖い、 結局何をするか分からない、つまらなそう

※勿論、「大切なこと、しっかりやらなければ、防災に興味がある、いつか役立つ」といった意見もあったが、上記のようなネガティブな意見が多くあった。

Ú

防災に対して、上記のようなネガティブな気持ちを持つ生徒たちを前に、危機感を高める目的であっても、「災害は怖い」というメッセージのみを送ることは、どのような効果を生むかは想像に難くない。 知識・技能を教える前に、生徒の「心のバリア」を外すことが防災教育の効果を高めると考える。

どの力を身につけよ うとしましたか?

知識・技能	少し
思考力・判断力・表現力	少し
学びに向かう力・人間性	大いに

実践内容・方法

教員が、わくわくしている雰囲気で明るく授業を始める。

▼授業用スライド

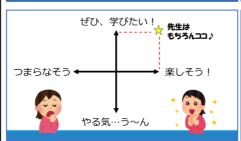
社会科見学に向けて



~もしものために今、できること~



皆さん「防災」と聞いて、やる気モードはどのくらいでしょうか?





わくわく防災減災

なぜ防災は楽しくないの?

- ①防災と聞いて…
- ・思い浮かぶもの・感じる気持ち
- ②なぜ「防災」のイメージがあまり良くないのだろう?

皆わくわくしないの何で…!?



教員「皆さんの気持ちはどの辺りですか?」

生徒「左下一」「つまらない」・・・

教員「先生はココです」(グラフ右上を指す)

生徒 (笑)



教員「皆さんも、こんな気持ちになってくれるのを待っています!でも、だからこそちょっと困っていることがあるんです。」

生徒 (?)

①防災と聞いて…
・思い浮かぶもの
・感じる気持ち
②なぜ「防災」のイメージが
あまり良くないのだろう?
※わくわくしめい何で…!?

教員「日本の社会の中に、防災意識が低いという課題があるんだけど、先生、防災が大好きだから、もはやその理由が分からなくて、困っています。だから、皆の本音を先生に教えて!」



生徒 (周囲と相談して考える様子)

教員「皆の本音をどんどん書いてください。」

- ・最初の授業の出だしから「先生が防災を教える」というスタンスで なく、「全力で取り組んでいるけれど、先生だって困っている」「だ から、皆と一緒に考えていきたい」という姿勢を前面に打ち出す。
- ・生徒の立場に立てば、「防災に詳しいはずの先生に、防災について頼まれて自由に意見を書き出す」という経験をする。
- ・「ネガティブな感情の理由」も正直に書いていい(むしろ書くと感謝 される)という体験を通じて、「小さなアイディアでも、実は有用か もしれない」という印象を持たせる。また、「防災に興味を持ってい る」と書く生徒もたまにいるので、その意見も拾い上げる。
- 「防災とはどういうものだと思いますか?」という問いだと、「大事

なこと」といった模範的な答えに偏る可能性があるため、上記のような問いで本音を書き出しやすい雰囲気づくりをする。

・防災に対するネガティブな気持ちを明るい雰囲気の中で、書き出す ことで、ネガティブな気持ちが経験の中で、いつの間にかできてき たものであることに気づく。外在化することで、あとで防災につい て関心のない人の意識を変えるアイディアを考える時に「自分だっ たらどうやったら動くか」といった思考になる。

得られた成果

▼ある日の高校生の会話・・・

私たち、防災マジックにかかって、いくらでも防災について話していられるよね~



- ・従来、防災に対して生徒のネガティブな気持ちを解消しないまま、 防災教育を行ってきたことが、防災教育がなかなか効果的に行われ ない原因の1つだったのではないだろうか。将来的に大きな災害に 繰り返し直面する可能性は誰しもが持つ。「未来に向けて考える」た めに、開かれた心をつくることが大事である。
- ・災害と防災をしっかり切り分けて、希望を持って防災に皆で取り組むという姿勢を貫くことで、生徒の「防災当たり前感覚」はポジティブなものになる。勿論、生徒によって取り組み・関心の度合いは違っているが、防災に対して、ネガティブな気持ちは払しょくできていると考える。知識は忘れやすいものであるが、卒業後も残るのは「イメージ」ではないか。(卒業生は、雑談はよく覚えている。)知識と共に、そういった、「防災に対するポジティブイメージ」を育てる防災教育が大切だと考えている。

どのくらい身につき
ましたか?

知識・技能	少し
思考力・判断力・表現力	少し
学びに向かう力・人間性	大いに

課題・苦労・工夫

工夫

・第一印象は大事であるので、教員が「これから防災について皆と考えるのがとても楽しみ!」と、わくわくしながら登場することが授業成功のコツ。

工夫

・「生徒の防災に対する心のバリアを外そう」「防災教育を通じて生徒 の成長を引き出そう」という心がまえで授業に臨んでいる。

記入日

2019年12月23日(2019年度のチャレンジプラン)

実践団体名	目黒星美学園中学高等学校
実践番号 (団体内・年度内の通し番号)	07(授業実践⑥)
タイトル	「防災選択肢」を増やそう―東京では即パンク!?
	「災害が起きたら避難所へ」を見直そう
実践担当者のお名前	亰 (社会科)
実践にかかった金額	1000 円未満(プリント印刷)
実践の準備にかかった時間	数時間
実践活動を実施した日時	2019年10月上旬
実践の所要時間	15 分(授業の一部として、3 クラスで実施)
実践の運営側で動いた人の人数	1人
防災教育の対象者の属性	中学生(1年生)
防災教育の対象者の人数	約 70 人
実践を行った都道府県と市区町村	東京都世田谷区
実践を行った具体的な場所	目黒星美学園中学高等学校 普通教室
★実践に必要だった特定の能力を	プリント、パワーポイント
持った人・物品・ツール・知識等	

達成目標

育みたい 防災あたり前 感覚

★育みたい『防災あたり前感覚』

☑ 首都圏では、人口に対して圧倒的に避難所が足りない。避難所に 入れない可能性がまず高い。入れたとしても、環境は劣悪になる可能 性もある。運営するのは行政ではなく、自分たち。

- ・「災害が起きたら避難所へ行く」を、"当たり前の常識"と思い込んでいる人が多い。2019年10月の台風19号でも、首都圏では台風に伴って開設された避難所がパンクするという事態が生じた。「行ってみて入れなくてびっくり」というケースが多発したのだ。
- ・本校は「福祉避難所(母子)」の協定を結んでいるため、福祉避難所 を開設するためには、その場所を確保する必要がある。(また、私立

学校は一般的には公的な避難所ではない。)その視点から考えると、 命を守る快適な避難所を実現するためには、避難所の役割を住民が 理解し、行くか行かないかを適切に判断することが必要になる。 ・「災害が起きたら避難所に」、そう人々が考えるようになる社会的背 景があるはずだ。同時に、生徒に「災害が起きたら避難所に行きま しょう」と教えることが、本当に災害に直面したときに生徒のため になるのか。この思いから、上記の「育みたい『防災あたり前感 覚』」を設定した。 どの力を身につけよ 知識・技能 かなり うとしましたか? 思考力・判断力・表現力 大いに 学びに向かう力・人間性 かなり 実践内容・方法 パワーポイントとプリントを使って、以下の授業を展開した。 わくわく防災減災 あなたは首都直下地震が いつか必ず来る 発生したら、すぐに避難 その日のために… しますか? 如黑統監! 並べてみよう 自宅のライフライン(電気・ A:家の前に停めて D:ライフラインの 止まっている自宅 ガス・水道)が全部止まった! いる自家用車 B:家から最寄りの E:被害が少なかった 避難所 友だちの家 F:遠くに住んでいる C:家の近くにある m 🕌 公園の広場 親戚の家 ※()内は、プリントの箇所。 教員「ライフラインが止まったら、どこで生活する可能性が高いとイ メージしますか?カードを並べ替えてみましょう(A)。ついでに 地図帳を見て、都道府県のデータも埋めてください(B)。」 生徒(プリントに書き込む)

教員「1位に選んだものはどれですか?手を挙げてください。」

▶1回目のときは、どのクラスも8割以上の生徒が何 の迷いもなく、「家から最寄りの避難所」に手を挙げ る。この時点で、生徒は「災害が起きたら避難所」と

思い込んでいることが分かる。・・・・⇒思い込んでいる理由については、 後日、ワークショップの中で書き出してもらった。

【人口密度】 益城町 550人 熊本市 1900人 1万5000人

世田谷区

【写真】テント村や車中泊など、 避難所外の生活の様子



大切なこと

たくさんの

防災選択肢

を考えられること

教員「では、写真やデータを見ながら、考えていきましょ う。熊本地震では、多くの人が車中泊など避難所以外で生 活しました。世田谷区の人口密度と比較してみましょう。 東京では、避難所に入れる人はどれくらいでしょうか?」 ※この他、最大避難者数が「東日本大震災 38 万人」「熊本 地震 18 万人」等に対して、「首都直下地震 720 万人」 と予想されていることもグラフを用いて、説明する。

生徒「えっ…!そんなに・・・?」

教員「ここで、考えるのが嫌になってパンクしてしまう、 というのが防災あるあるなんですが、今日は、皆で想像を 止めずに考えていきましょう!」「大切な事は、たくさん の『防災選択肢』を考えられることです。避難所に入れな かったどうすればいいかもう分からない、ではなく、他に 選択肢を考えていれば、行動が変わってきますね。



- 生活できる可能性が高い のはどこですか?
- 2 できれば生活したい 安心な場所はどこですか?

2回目は、首都直下地震が発生したときに生活できる可能性や、でき れば生活したい場所という基準でイメージしてもらう。再度、手を挙 げてもらうと、意見は分散する。事前に様々な人と相談しておいた り、自分で備えておくことの大切さに気づく。

授業プリント

В

いつか突然来るその日のために・・・

地震

Q. 地震が発生したら、あなたは家族と一緒に どこで生活する予定(イメージ)ですか?

首都直下地震発生。あなたの自宅の建物は無事でしたが、ライフライン(電気・ガス・水道)が、



全部止まっていて余震も続いているとします。次のカードを「災害時に生活する場所」として考えている優先順位に並べてみよう。

A:家の前に停めて いる自家用車



D:ライフラインの 止まっている自宅



B:家から最寄りの 避難所



E:被害が少なかった 友だちの家



C:家の近くにある 公園の広場



F:遠くに住んでいる 親戚の家

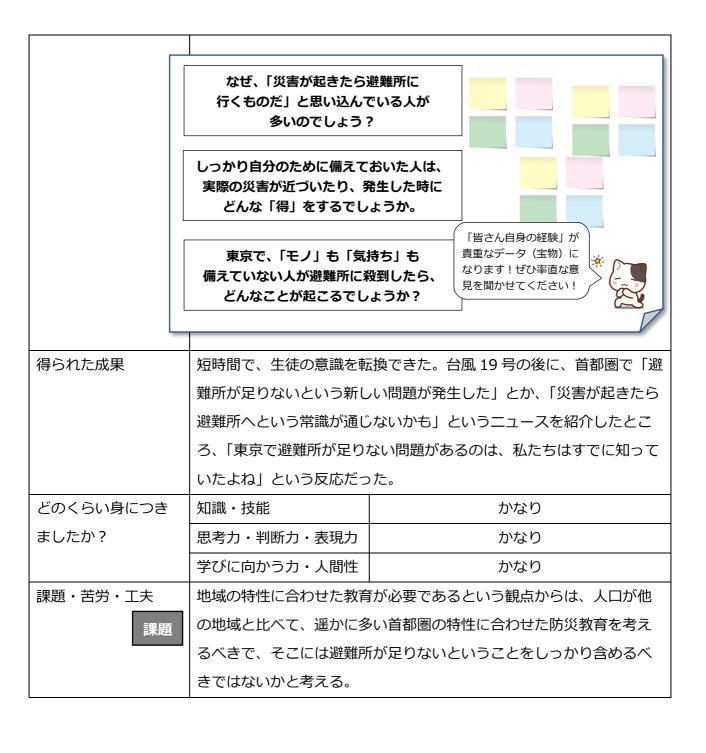


優先順位	1位	2位	3 位	4位	5位	6位
1 回目						
2 回目						

∞地図帳 p.163 を見て、表を完成させよう

=			
都道府県名	人口 単位に注意!	面積	人口密度 (人/km2)
岩手県		15、275 km²	
宮城県		7、282 km²	
福島県		13、784 km²	
熊本県		7、409 km²	
東京都		km ²	
神奈川県		km ²	

東京では電気・ガス・水道がストップするような地震が起きた時、 どんなことが起きると思いますか? 想像してみよう!



記入日	2019 年月日(2019 年度のチャレンジプラン)
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校
実践番号(団体内・年度内の通し番号)	08(授業実践⑦)
タイトル	「My 日常備蓄」を調べよう!考えよう!
	(パソコン室の使い方・調べ方学習×防災)
実践担当者のお名前	京(社会科)
実践にかかった金額	1000 円未満(プリント印刷)
実践の準備にかかった時間	数十分
実践活動を実施した日時	2019年9月下旬(1クラスは1月下旬に実施)
実践の所要時間	30分(授業の一部に組み込む、3クラスで実施)
実践の運営側で動いた人の人数	1人
防災教育の対象者の属性	中学生(1年生)
防災教育の対象者の人数	約 70 人
実践を行った都道府県と市区町村	東京都世田谷区
実践を行った具体的な場所	目黒星美学園中学高等学校 パソコン室
★実践に必要だった特定の能力を	パソコン、プリント
持った人・物品・ツール・知識等	

達成目標

- ・パソコン室の使い方・インターネットでの調べ学習を学ぶついで に、日常備蓄(ローリングストック)について学ぶ。防災に関連す る調べ学習を通じて、パソコン室の使い方とインターネットの使い 方を練習する。
- ・調べ学習の課題(ミッション)には、生徒が楽しく調べられるもの、生徒の視点の転換を図るようなものを設定する。

育みたい 防災あたり前 感覚

★育みたい『防災当たり前感覚』

☑ 災害に備えて備蓄することは、特別なことや面倒なことではなく、日常生活の一部として、わくわく取り組むこと。

☑ 自分の分は、自分に合わせて自分で備えるのが当たり前。それがいざというとき、一番自分のためになる!

どの力を身につけよ	知識・技能	かなり
うとしましたか?	思考力・判断力・表現力	かなり
	学びに向かう力・人間性	かなり

(1)授業の流れ

- ①中1は、パソコン室を使う経験が浅いので、パソコン使用のルール 確認やパソコンの使い方の説明を行う。資料の調べ方など、今後の 社会科の学習に必要な技能について説明・練習を行う。
- ②「通常の商品を防災の視点で PR している」身近な具体例をいくつか紹介し、日常備蓄(ローリング・ストック)の考え方を説明する。
 - **例)**今回の授業では、サンスターや無印良品の防災視点で作られた CM や HP を紹介した。
- ③生徒はインターネットを使って、身近な生活用品を検索して、具体 的な商品名と選んだ理由をランキング形式でまとめる。

授業 プリント

地震に備えて特に**女性**におすすめしたい**日用品**ランキング

	具体的な商品名 (メーカー名)	おすすめの理由
1		
2		
3		
4		
5		

これまで「防災グッズ」と言えば、特別なグッズをわざわざ買う、 というイメージがありました。そして、面倒くさい…と後回しにし がちな人が続出…(涙)

今、「日常備蓄 (ローリング・ストック)」が注目されています!いざというときのために普段使っているものを少し多めに買っておくという方法です。皆さんにも「おなじみの商品」が、防災の視点からPR されています!

- ・ に入る語句を変えることで、様々なバリエーションが可能。
- ・本校は女子校であることと、防災に女性の視点不足が指摘されてき たことから、「女性」向けランキングを設定している。
- ・「日用品」の部分には、具体的企業名を入れても効果的。本校では、 被災地支援活動で繋がりのある日用品を製造している具体的企業名 を入れて、その企業の HP を検索することもある。

授業 プリント

(2)別バージョン(女性をターゲットとした防災ボックスの提案) 別バージョンで次のような課題を宿題として出すこともある。

(今年度は、2月以降に実施予定)

もしものために今、できること自分目線&女性目線で備えよう!

「防災減災想像力」を働かせてビジネスアイディアを考えよう

設定: 防災用品を扱う企業で働いているあなたは、社長からプロジェクトのリーダーに任命されました。プロジェクトは「女性がほしくなる防災グッズボックスをつくる」です。あなたは、スーパーや薬局などへ行き、女性向きの防災グッズになりそうなものを探すことになりました。ただ、「防災用品」は種類が限られていて、防災用品だけを詰めると値段も高くなってしまいます。そこで、防災用品にこだわらず、普段使っているものにも目を向けてみることにしました。

女性が避難生活※を送る上で必要だと思うものを詰め合わせた女性向けの防災グッズ (1週間分)を用意してください。また、その防災グッズはすてきなボックスに入れて販売します。そのデザインイメージと、「女性が買いたくなるようなネーミング"もつけてください。



- **※避難所で生活する可能性もありますが、収容人数は限られているので、**
 - 水・電気・ガスが止まった自宅で生活を送る人も多くいます。
- ◇ 防災用品にこだわらず、広く商品を検討すること。(防災用品を入れても良いですが、身近にあるものの中にも備蓄品として準備しておくと良いものがたくさんあります。)
- √ インターネットで調べるのではなく、お店に行って考えてみること。

ボックスのデザイン イラストを描いても、何か貼っても OK!! ボックスの商品名(ネーミング) 商品のアピールポイント 具体的な 作っている いくつ およその なぜその商品を入れたいか・ 商品名 企業 入れたいか 価格(合計) おすすめポイントなど 2 3 得られた成果 チャレンジ!日常の学校生活に「防災要素」を入れる。 ・生徒たちは時間いっぱい、夢中で調べる様子が見られた。教員から の指示がなくても、「季節はいつですか?」「水が節約できるものは …」など、様々な角度から考えて、ランキングを作成していた。 ・防災ボックスに関しては、防災ボックスは好きなデザインができる ため、生徒には「思ったより楽しかった」と好評であった。(未実施 ではあるが、「美術の授業で実際にボックスを作る」という案が出た こともある。) どのくらい身につき 知識・技能 かなり ましたか? 思考力・判断力・表現力 大いに 学びに向かう力・人間性 かなり 課題・苦労・工夫 ・パソコン室の使い方の練習を兼ねて、授業数に余裕のあるクラスで 実施した。(2学期に未実施のクラスは3学期に実施予定) ・同じ作業をするにしても、楽しいミッションにすることで、防災行 工夫 動のハードルを下げるきっかけとする。

記入日	2019年12月23日(2019年度のチャレンジプラン)
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校
実践番号(団体内・年度内の通し番号)	09(授業実践⑧)
タイトル	動画を効果的に生徒に見せる工夫
	一鹿児島市の「避難行動周知動画」を活用した事例
実践担当者のお名前	京(社会科)
実践にかかった金額	1000 円未満(プリント印刷)
実践の準備にかかった時間	数時間(主に動画教材探し)
実践活動を実施した日時	①2019年10月上旬
	②2019年11月9日10時30分~10時40分
実践の所要時間	①5分 ②10分(授業の一部として3クラスで実施)
実践の運営側で動いた人の人数	5人:各クラス担任(3) 社会科教員(2)
防災教育の対象者の属性	中学生(1 年生)
防災教育の対象者の人数	約 70 人
実践を行った都道府県と市区町村	東京都世田谷区
実践を行った具体的な場所	目黒星美学園中学高等学校 普通教室
★実践に必要だった特定の能力を	【動画】鹿児島市役所危機管理局 危機管理課
持った人・物品・ツール・知識等	「市民の避難行動の周知動画」(動画 90 秒×4 本)
1	'

https://www.city.kagoshima.lg.jp/kikikanri/bosai/2019hinannkoudoudouga.html



令和元年6月末からの大雨に係る災害対応において、内閣府のガイドラインに沿って本市で初めて警戒レベル4「避難勧告」「避難指示」を発令し、「全員避難」を呼び掛けましたが、全員が避難所へ行くことなのかなどの意味と受け取られ、一部の市民において混乱が生じた面もありました。このことを踏まえ、台風など風水害に対し、市民が取るべき避難行動について周知を図るため、動画を作成しましたので、ぜひご覧ください。(鹿児島市 HP より引用)



【動画】避難指示発令に伴う、森市長から市民の皆様への メッセージ(鹿児島市 youtube チャンネル)

https://www.youtube.com/watch?v=0nxyHHuRpKg

【資料】内閣府「警戒レベルに関するチラシ」

達成目標 【目的・目標】 ①**地震だけではなく、水害教育にも重点を置く。**台風・大雨による水 害被害が頻発する中で、警戒レベルと避難行動の関係について理解 し、一人一人が適切な避難行動をとれるようになる。 ②適切な避難行動のため、「避難」の感覚を変える。 ★育みたい『防災あたり前感覚』 育みたい □「避難=どこかに行かなければ」という感覚から、「避難=危険か 防災あたり前 ら逃れるための行動を考えて、行動すること」という感覚に変える。 感覚 ☑ 自宅が安全であれば、自宅に留まる「自宅避難」も避難行動であ ることを感覚で理解する。 ☑ 危険が近づいてから慌てて行動するのではなく、普段から、自分 の住んでいる場所やいる場所の特性を知り、自ら備えを進める意識を 持たせる。 【背景・経緯】 ①「2019年7月に鹿児島市で全域に避難指示が出され、混乱が生じ た」というニュースを聞いた。 ②東京の防災関係者から、「水害と地震の対応を同じに考えている住民 が多いのではないか」という課題を聞いた。 これまで、首都直下地震に重点を置いた防災教育を行ってきたが、こ の2つの話を聞いたことがきっかけで、「水害」に着目した教育を行う ことにした。(中1社会科見学の事前学習) どの力を身につけよ 知識・技能 かなり うとしましたか? 思考力・判断力・表現力 大いに 学びに向かう力・人間性 かなり 実践内容・方法 情報収集 鹿児島市が避難指示を出したニュース動画を探していたところ、偶 然、鹿児島市役所の HP の情報を見つけた。 1 回目の視聴 ①「市民の避難行動の周知動画」を視聴する。

・MBC 南日本放送(男性のナレーション・暗めの音楽)と KYT 鹿児

島読売テレビ(女性のナレーション・明るい音楽)が対照的だった ため、2本を比較しながら視聴した。

- ・同じ内容であっても、印象が違う 2 本の動画を見て、どちらがより 内容が受け入れやすいかを比較した。
- ②動画「避難指示発令に伴う、森市長から市 民の皆様へのメッセージ」を視聴。
- ⇒もし、自分が当時、鹿児島でニュースを見ている市民だったら、どう考えて、どう行動したかを考えた。

市民への避難の呼びかけ「命を守る行動を!|

⇒「**災害情報をキャッチする訓練」**になると思った。

授業 プリント

なぜ防災が怖いの!?…防災は命を守るボランティア(*'▽')

今日の授業は、**大雨が降りそうなときと大雨が降っているときにどうするか**を一緒に「考えます」。教えるのではなく、考える。実際の災害が近づいているとき、どこにいて何をしているか分かりません。いつも先生が側にいるわけではありません。

皆さん一人一人が主役です!

授業 プリント

あなたならどうする? 「命を守る最高の行動」 を考えよう!

▷ 右のメールは、
2019年9月9日に
目黒星美の先生の携帯に届いたメールです。
あなたはこのとき何をしていましたか?

緊急速報メール



◀ メール ▶

横浜市【警戒レベル 4】避難勧告 2019/09/09 4:46

9月9日04時45分、土砂災害警戒情報の発表に伴い、横浜市の一部地域に【警戒レベル4】避難勧告を発令とるべき行動:対象区域にお住いの方は避難してください。

▷「大雨が降るとき」あなたにとって、

「いると安全だと思う場所」を5か所挙げてみよう。

2回目の視聴

「ぼうさいこくたい 2019」の会場で、鹿児島市危機管理課のブースがあり、職員の方に動画活用のご報告をした。

このことがきっかけで、「鹿児島市の担当者の方に感想を送ろう」という企画にして、再度、4つの動画を見比べて、感想を書いた。

授業 プリント

∞動画の感想を送ろう!

- ①鹿児島市の避難行動周知の動画を見て、感想を書きましょう。 (理解しやすかったか、周囲の人におススメしたいか、どこが分かりにくかったか、など自由に書いてください。)
- ②一番、良いと思った動画(=今後、大雨が降ることが分かったときに、思い出して自分の避難行動につながりそうだと思った動画)に○をつけてください。

動画1

動画 2

授業 プリント

③授業では、台風 19 号が来る前に動画を見ました。動画が役立った経験があればそれも教えてください。その他、自由に意見を書いてください。

得られた成果

チャレンジ!「避難」の意味を正しく理解する。

- ・最近、起きた災害のニュース、特に、その台風等の災害が発生する 前のニュースを用いることで、「災害情報をキャッチして、自分のこ ととして考えて行動することをイメージする訓練」ができた。
- ・動画を見るタイミングと台風 19 号が来るタイミングが合ったので、 実際に、学んだことを活かすことができた。

▼上記③に対する生徒の回答

どこかに行くことが避難ではなくて、難から逃れることが避難だということに気がつけた。/警戒レベルについて分かっていたから、メールが来た時すぐに分かった。/情報に注意することができた。

	自宅にいるのも、避難して	いることでもあると分かった。/避難の判	
	断をするときに役立った。/台風が来る前に何もしていなかったけれ		
	ど、動画を見てから色々と準備しようと思えた。/台風が来そうな前		
	日にベランダの物を片づけたり、食料を買い込んだりした。/怖い感		
	じだったので、危機感を持つことができました。		
	・動画を「見る意味」を増やしたことで、普通に流した時よりも、真		
	剣に見て、その分、内容	8の理解が深まった。比較して、感想を書く	
	ということをミッション	vにしたことで、類似の動画を繰り返し見る	
	理由付けにもなった。		
どのくらい身につき	知識・技能	大いに	
ましたか?	思考力・判断力・表現力	かなり	
	学びに向かう力・人間性	かなり	
課題・苦労・工夫	・生徒に「自分だったらどうするか?」を、リアリティを持って考え		
T±	 てもらうために、近い過去に起きた災害のニュース動画(特に、		
工夫	の災害が起きる前の呼び	がかけ)を使用している。本プランにおいて	
	は、市民の気持ちになっ	って、鹿児島市長の会見を視聴した。	
	・自分が住んでいる地域に	た危険が迫っていても、なかなか危機感を持	
	って行動が起こせない課題に対する解決策になると考える。		
	・類似の活動として、別の授業では、以下のように台風 15 号が来る前		
	の気象庁の呼びかけのニュースを視聴した。		
	あなたはあの日、何を考えた?		
	◎このニュースを見て、あ	5なたはどんなことを考えましたか?また、	
	もしこの台風の影響で自	分が住んでいる地域が千葉のような被害を	
	受けると分かっていたら	ら、どんな行動をとりましたか?	

★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体(関係者)について		
関係者の名前・団体名	鹿児島市役所 危機管理課 危機管理係	
関係者の説明	「市民の避難行動の周知動画」の制作及びテレビ放送(実際の動画制	
	作は、鹿児島のテレビ局 4 社が担当)と HP へのアップを行い、市民	
	への避難行動の周知に努めている。	
関係者の連絡先	099-224-1111(代表)	

記入日	2019年12月23日(2019年度のチャレンジプラン)
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校
実践番号(団体内・年度内の通し番号)	10(授業実践⑨)
タイトル	台風・大雨 命を救う「防災あたり前感覚」を磨く
	「避難」という言葉への挑戦!避難の誤解を感覚で解く
	―台風 19 号のとき、あなたはどんな避難をしましたか?
実践担当者のお名前	亰 (社会科)
実践にかかった金額	1000 円未満(プリント印刷)
実践の準備にかかった時間	数時間
実践活動を実施した日時	①授業 2019 年 10 上旬 ②宿題 10 月 11 日配布
実践の所要時間	①10 分(授業の一部として、3 クラスで実施) ②各自
実践の運営側で動いた人の人数	1人
防災教育の対象者の属性	中学生
防災教育の対象者の人数	①約70人(中1) ②約140人(中1・中3)
実践を行った都道府県と市区町村	東京都世田谷区
実践を行った具体的な場所	目黒星美学園中学高等学校 各普通教室
★実践に必要だった特定の能力を	授業用パワーポイント、授業用プリント、宿題用プリン
持った人・物品・ツール・知識等	ト、警戒レベルと避難行動の資料(図)

【目的・目標】
①命を守るために危険から逃れる「避難(evacuation)」の意味を感覚
で理解する。
②台風 19 号に直面し、一人一人が考えて行動を選択する。
【背景・経緯】
①「避難=避難所に行くこと」「避難=どこかに行かなければ!」と思
い込んでいる人が多い。また、防災用語に「避難」という言葉が多
用されており、紛らわし過ぎる現状がある。
②私立学校である本校は、指定避難所ではなく、かつ福祉避難所の協
定を結び、その場所を確保しなければならない立場である。その視
点から社会を見ると、「学校=避難所」という思い込みが広がってい
ることに危機感と疑問を抱いた。

10の七十白にのはよ	7-0-th 1+44.		
どの力を身につけよ	知識・技能		かなり
うとしましたか? 	思考力・判断力・表現力		大いに
	学びに向かう力・人間性		かなり
実践内容・方法	授業 ※【実践番号 07】	を同じ時	特間内に実施
	 テーマ:未来の被災者とし	て「命の	ための想像力」を伸ばそう(^^)/
	①スライドを使いながら、	生徒に以	「下のメッセージを伝えた。
	教員「今日は最初に『台風	[] や『水	(害』について考えます。 ちょう
	ど、社会科見学に向けて	の授業を	としている期間に、私たちは台風 19
	号と向き合っています。	あなた自	身と大切な人たちの『命を守る最
	高の行動』を考えましょ	:う]	
	私たちは「未来の被災者」		防災は 未来の命を守るボランティア
	これから一人一人 台風による被害 (直面します。		災害では、 助かる人の方が 多くいます。
	整理することが必要とい 前に台風・豪雨等による ・災害ごとの被害や対応を や水害について学ぶ」こ ・今年度の工夫として、「多 め、「災害では助かる人の	う気づき 水害の学 考える思 とを宣言 希望的側に の方が多っ	考をつくるために、最初に「台風
	②「避難」の意味を考えよ	う	

・「避難」は読んで字のごとく、「難を避ける」つまり、災害の危険か

ら逃げる・災害の危険を避けることを指すと、丁寧に説明する。

・避難の意味の説明としては、「危険 を避けて安全な場所にいること」、

「自宅が安全と判断して自宅に留ま



るのも避難」、「面倒だから自宅に留まるという判断はダメ」など、 試行錯誤、表現を変えながら繰り返し説明した。

宿題

台風が接近するにつれて心配になり、急遽、台風 19 号が来る前日の 6 時間目にプリント(次ページ)を作成して、帰りの HR で中 1 と中 3 に配布した。週明けの授業で、プリントを回収した。

テスト 避難の感覚を変えて、それをあたり前にするために、テスト ト問題を作成した。

[問題] 10月12日の台風19号では、私たちの住む東京や神奈川も大きな被害を受け、多くの地域に警戒レベル5が発令されました。警戒レベル4の時点で「全員避難」ということは、目黒星美学園の生徒の皆さんも一人一人がどうすべきか考えて避難したはずです。では、あなたは台風19号のときにどのような避難行動を取りましたか。必ず「避難」という言葉を用いて、報告してください。

- ・自宅避難した生徒もいれば、自宅以外に避難した生徒もいたが、概 ね、避難の意味を理解して、自分のとった行動を報告していた。
- ・「私は自宅が安全だったので、避難しませんでした。」という解答に ついては、減点した。(設問で「全員避難したと言えます」と前置き しているので、問いに対応していない解答という評価。

得られた成果

チャレンジ!避難の意味を感覚で理解できる教材と実践の提案

「授業・宿題・テスト」と「台風 19 号の経験」を通じて、ある程度、 生徒の避難に対する感覚を変えて、理解を深められたと考えている。 次ページの宿題プリントは、臨時で 30 分程度で作成したので十分では ないが、生徒が自らの行動を考える教材として、比較的意味あるもの になったと考えている。下校時に、宿題プリントを基に避難行動つい て、話し合っていた生徒がいたと他学年の生徒から報告があった。 宿題 プリント



冷静に考えよう

台風

大雨

命を守る最高の行動を 私が率先して選択します

台風 19 号が来ます。この週末、以下のシートに記入して「命を守る最高の行動」をとりましょう。(次の授業で回収します。)

- [Q1] 皆さんにとって「命を守る最高の行動」は何ですか?/何でしたか?
- [Q2] 台風 19 号に備えて、事前にどのような準備をしましたか?また、備えが足りなかった ことは何ですか?
- [Q3]「避難」とは、必ずしも「避難所(近くの公立学校)に行くこと」ではありません。「あなたの命を守れる場所を考えてその場所にいる」ということです。また、夏休みに取り組んだ、「東京防災マイタイムライン」では多くの人が避難する場所として「近くの小学校に行く」と挙げていましたが、人口の多い東京では1か所に人が集中してパンクすることも考えられます。あなたが、大型台風が来たときに安全を確保できる場所を5か所以上、考えておきましょう。「命を守れる選択肢」を考えておきましょう。
- [Q4] 今回は、台風が目前に迫っていますが、首都直下地震をはじめ様々な災害が起こる可能性があります。「どの災害でも助かる人の方が多くいること」、「備えれば助かる人が増えること」を忘れずに、一人一人が考えて行動しましょう。自分に足りていない備えを考えて、近いうちに実行できそうなことを3つ挙げましょう。またその他、報告したいことなど自由に書いてください。

▽配布したプリントには、警戒レベルと避難行動の図(政府オンラインより)を掲載

皆さんへ 「命を守る最高の行動」は、目黒星美の合言葉です。普段でも、危険が迫っているときや発生するときでもいつでも心に留めておきましょう。

警戒レベル5にある「命を守るための最善の行動」は、いよいよ災害が発生していて安全確保が難しい場合でもその場でできる最善を尽くすということです。「警戒レベル5」の段階が来る前に「命を守る最高の行動」をとっておくことが、私たちの約束です。

西日本豪雨をはじめ、危険が迫っている場所から避難するように呼びかけられても「大丈夫」と行動を起こさなかった事例が多くあります。一方で、今年の7月に全域に避難指示の出た鹿児島市では「どこに行けばいいのか」と混乱して一部の避難所に大勢が集まるということも発生しました。できるだけたくさんの「命を守る選択肢」を考えることが大切です。

	1	
どのくらい身につき	知識・技能	かなり
ましたか?	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	かなり
課題・苦労・工夫	・教員こそ、長年の経験カ	ゝら「避難=どこかに行くこと」という感覚
苦労	がある。生徒に教えなか	「ら、同時に教員自身の感覚の変える努力を
	重ねた。ひたすら「自分	自身に言い聞かせる」という手段で、感覚
	を変えていった。違和感	が無くなるまで2週間くらいかかった。
工夫	・教員自身が、「避難=どる	こかに行くこと」と思っていたので、昨年度
	より、行事名を「避難訓	練」から「防災訓練」に変更していた。来
	年度は、この行事名をま	ず「避難訓練」に戻して、避難の感覚をし
	っかりと育てていきたい	N _o
=Ⅲ 目音	・正直、「避難」という言語	葉が多用されていること自体が、課題であ
課題	り、「避難」を使った用語の言葉の違いを説明している時間があるた ら、他の防災教育に時間を使いたい。とは言え、現状に対応するな	
	らば、用語を分かりやす	「く解説する「用語集づくり」をミッション
	にすると国語力がアッフ	゚するかもしれない。
工夫	本校で「命を守る最高の)行動」というフレーズを数年前から使い、
	今年度から校内で大きく	打ち出したところ、「命を守る最善の行動」
	とやや被ってしまった。	意味は違っているので、生徒の混乱を招く
	のではなく、繰り返し伝	えることで、感覚で理解してもらえるよう
	に、工夫していきたい。	
	・宿題プリントは臨時で作成したので、中1と中3に配布したが、他	
課題	の学年にも配布すれば良	ひった。今年度からの取り組みであるの
	で、来年度、全校に「避	難教育」を広げていきたい。

★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ		
伝えたい相手	生徒の皆さん	
伝えたい内容	普段は、「命を守る最高の行動」をいつも心に留めて、選択してくだ	
	さい。いざというときは、「命を守る最善の行動」をとること。	
	でも、「命を守る最善の行動」をとる状況になる前に、「命を守る最高	
	の行動」をとっておきましょう。	

記入日	2019年12月15日(2019年度のチャレンジプラン)
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校
実践番号(団体内・年度内の通し番号)	11(授業実践⑩)
タイトル	普段の授業で防災力をつけよう!一学力の三要素を育む
	「防災参画型授業」の提案(中3公民的分野内において、
	地域・行政と連携し、社会参画までを実現する防災教育)
実践担当者のお名前	京(社会科)
実践にかかった金額	5000 円未満(プリント印刷・学年分の紙ファイル)
実践の準備にかかった時間	数日(主に複数の授業とワークショップ作成)
実践活動を実施した日時	2019年4月下旬~6月下旬
実践の所要時間	50 分授業×8 コマ
	プラン全体では、50 分授業×17 コマ(3 クラスで実施)
実践の運営側で動いた人の人数	1人
防災教育の対象者の属性	中学生(3年生)
防災教育の対象者の人数	約 70 人
実践を行った都道府県と市区町村	東京都世田谷区
実践を行った具体的な場所	目黒星美学園中学高等学校 普通教室
★実践に必要だった特定の能力を	プリント、パワーポイント、関連する動画、プリント用フ
持った人・物品・ツール・知識等	アイル(生徒 1 人 1 冊)

達成目標	【目的・目標】
	本実践は、「防災教育をしたくても決められたカリキュラムがあり、時
	間がとれない」という教員の声に応え、教科書の単元に沿いながら、
	通常の社会科の学習を深める教材として、「防災」を活用した授業を提
	案するものである。同時に、実社会と乖離しがちな社会科の学習を実
	感を持って学ばせたり、社会に還元したりする授業づくりを目指す。
	【背景・経緯】
	・「どうしても防災教育をしたい」と考えた実践担当者が、「自分の担
	当する授業を、防災の視点で展開してみよう!」と思いついた。
	・中3は、中1の社会科見学で防災に関するプレゼンテーションを経
	験しているので、その経験を土台にステップアップする。

どの力を身につけよ	知識・技能	大いに
うとしましたか?	思考力・判断力・表現力	かなり
	学びに向かう力・人間性	大いに

(1)「わくわく防災減災」プラン概要

今年で3年目の取り組み。本報告では、プランの大きな流れを紹介 し、別途、以下の通り、個別に実践の詳細を報告する形をとる。

∞本校使用教科書:東京書籍『新編 新しい社会 公民』

	授業時数
①「防災化」授業	7
②災害対策課職員による講演会 【実践番号 31】	1
③プレゼンテーション準備 【12】	6
④【国語】プレゼンテーション講座 【11】	1
⑤プレゼンテーション(クラス内及び地域)【12】	2
プラン全体時間数	計 17

★加えて、全体の流れは、以下の2点の発展学習と合致している。

①「公民にチャレンジ 私たちの政治参加」(教科書 pp.110-111)

問題把握 (地域を振り返り、課題・解決の取り組みを調べる)

→ 問題分析 | (行政職員の話を聞く、文献・ネット・統計調査)

→ **意思決定** (自分たちにできることを考え、考えを決定する)

→**提案・参加**(実際に政治参加する=❶行政などに提案する・

2実際にまちづくりに参加する)

② 「深めよう 東日本大震災からの復興と防災」(pp.112-113)

トライ ●防災・減災についての計画・取り組み・新たな課題を調 べ、まとめる 2防災減災のために自分たちにできることはないか、 グループで話し合う

(2) 「防災化」授業の展開

社会科(公民的分野)の単元を、防災の視点から学んだ。

単元	防災視点からの授業内容・授業展開例
	災害時のデマと情報モラルから災害時に誤解を招
	かない情報発信を考える。DISSANA など災害時
情報化	の有効な情報収集方法を学び、情報リテラシーを
効率と公正	身につける。支援物資のミスマッチを引き起こさ
	ない支援を議論する。
	限られた食料の分配方法を議論する。実際に母子
効率と公正▲	避難所として利用する予定の建物見取り図を使っ
	て「母子避難所の部屋割り」を考える。
	世田谷区の人口構成(乳幼児と妊産婦)を知る。
少子高齢化	地域の抱える高齢化の課題を知る。災害時の妊産
	婦の問題や体験談に関心を持つ。
グローバル化	災害時に外国人が直面する問題を資料を使って検
多文化共生	討する。災害弱者への配慮と、自分自身も当事者
異文化理解	(災害弱者)になる可能性があることに気づく。
決まり(ルール)	区と本校の間で結ばれている「福祉避難所(母
を作る・見直す	子)」の協定書を基に契約(書)について学ぶ。
	防災における人権や災害時の人権について考え
人権	る。防災における女性の視点の欠如・不足の問
	題、災害弱者など。
メディア	マスコミは、被害予想を大きく取り上げるが、
リテラシー	記事を逆の視点から読むと違って見えてくる。
	区役所の防災対策について知る。また区役所職員
地方自治・行政	の防災講演会の中で、身近な行政の仕事内容や、
	仕事の魅力についてのお話も入れていただく。
需要と供給▲	需要と供給を学ぶ際に、携帯トイレの価格を具体
一日では、日本で	例として取り上げる

- ※「▲」は、今年度の1学期(=「わくわく防災減災」実施)の時点では、未実施または今年度は省略するもの。参考のために掲載。
- ※これ以外の単元を学習する際も、防災を意識して学習を進めること を心がける。

(3)「防災化」授業の発展的展開

社会科(公民的分野)の単元として防災教育を行った場合、「防災」よ りも「公民」の目標を達成することに重点が置かれる。そのため、本 実践では「防災化」授業と連動して、防災講演会及び行政職員や地域 の防災リーダーへの提案を行った。さらに、実際の防災イベントで生 徒のアイディアを具現化した。これらの活動を通じて、社会参画や防 災教育としての質を高める工夫をした。

「公民にチャレンジ 私たちの政治参加」(教科書 pp.110-111)

問題把握 | (地域を振り返り、課題・解決の取り組みを調べる)

社会科(公民)における「防災化」授業(4月下旬~5月下旬)

問題分析

(行政職員の話を聞く、文献・ネット・統計調査)

災害対策課講演会(5/14)

講師:世田谷区災害対策課職員

「熊本地震の避難所の状況と

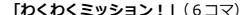
世田谷区の災害対策についてし

ゲスト (授業見学): (公財) 東京都公園協会

砧公園サービスセンター職員1名

意思決定

(自分たちにできることを考え、考えを決定する)



「ミッション」について、チームで話し合い、3分間の プレゼンテーションにまとめる。生徒のやる気を上げる ため、くじ引きでチームを決めた。

Ú

提案・参加(実際に政治参加する=❶行政などに提案する・

2実際にまちづくりに参加する)

- **①プレゼンテーション**(クラス内→全体)
- ①クラスでプレゼンテーションを行い、代表チームを選んだ。
- ②3 クラス合同授業に、防災公園職員・災害対策課の職員・母子避難

	デナセンナラが思う歌馬	
	所を担当する部署の職員・地域の防災リーダーを招いて、代表の6	
	チームから地域プレゼンテーションを行った。(6/25)	
	❷12月に実施される「砧公園防災フェスタ」で生徒のアイディアを具	
	現化したり、活用したりする。 ⇨【実践番号 23 】	
得られた成果	チャレンジ!通常の授業内で防災教育と社会参画を実現する。	
	生徒は授業で学んだ知識を	活用しながら、生き生きと主体的に取り組
	んでいた。チームで協力し、良いアイディアがたくさん出ていた。	
どのくらい身につき	知識・技能	大いに
ましたか?	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	大いに
課題・苦労・工夫	・毎年、同じ内容を繰り返すのではなく、生徒の取り組みが、年を追 うごとに積み重ねになるように、内容を設定している。ただ、前の 年度までのアイディアの共有が十分できていないので、これまでの 成果を目に見える形でまとめることが、今後の課題である。	
工夫 苦労		
課題		
	・来年度は、10月の台風 19号で地域、特に避難所で起きた事例を基	
課題	にした授業を行いたい。そのために、現在、情報収集を始めてい	
	る。生徒の提案で活動や繋がりが広がった、「ペットと防災」も取り	
	上げたいと考えている。	

★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ		
伝えたい相手	教員(特に、防災教育になかなか取り組めないと思っている先生)	
伝えたい内容	普段の授業を進めつつ、生徒が生き生きと話し合い、そして何より生	
	徒自身の防災意識も上がり、活用した知識も定着する。「防災化」授	
	業はお薦めです。また、学校外の大人に、生徒のアイディアを真剣	
	に、しかも「良いアイディアは実際に取り入れよう」という姿勢で聴	
	いてもらうのに「防災」ほど、最適なテーマはありません。防災教育	
	は、生徒を成長させるチャンスです。「限られた時間数で防災教育が	
	できない」「防災の知識が無いから防災教育ができない」と思わず、	
	「わくわく防災視点」で見てみると、たくさんのアイディアが浮かび	
	ます。希望を持って、防災と向き合うと不思議とアイディアが湧いて	
	きます。わくわく取り組んでいきましょう!	

記入日	2019年12月10日(2019年度のチャレンジプラン)
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校
実践番号(団体内・年度内の通し番号)	12(授業実践⑪)
タイトル	【国語×社会×防災】「これで誰でもプレゼン上手!」
	(中3国語・アルファ米など防災用品を、具体例として用
	いたプレゼンテーション講座)
実践担当者のお名前	浅見(国語科)・京(社会科)
実践にかかった金額	ほぼ0円
実践の準備にかかった時間	数時間
実践活動を実施した日時	2019年5月30日~6月3日
実践の所要時間	授業 1 コマ 50 分(×3 クラスで実施)
実践の運営側で動いた人の人数	2人
防災教育の対象者の属性	中学生(3年生)
防災教育の対象者の人数	約 70 人
実践を行った都道府県と市区町村	東京都世田谷区
実践を行った具体的な場所	目黒星美学園中学高等学校 普通教室
★実践に必要だった特定の能力を	授業用パワーポイント、アルファ米
持った人・物品・ツール・知識等	

社会の授業での「防災化」授業の取り組みでは、学校外へ向けてのプレゼンテーションに取り組んでいるが、プレゼン指導に十分時間が取れない課題があった。そこで、同じくプレゼンカを高めたいと考える国語科の教員と協力して、国語の授業内で本プランを実施することとなった。

どの力を身につけよ	知識・技能	かなり
うとしましたか?	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	かなり

(1)授業準備

- ①プレゼンテーション指導力の高い国語の教員が、効果的なパワーポイントのスライドの作り方と、情報のまとめ方について授業を作成した。その際、具体的な題材として、アルファ米等の防災用品を使えるように社会科兼防災係の教員からアドバイスを行った。
- ②良いプレゼンテーションと悪いプレゼンテーションの見本になるように、リハーサルを行った。(特に、防災に関心のある教員のため、「防災についてつまらなそうにプレゼンする練習」を重ねた。)

(2)授業実践



①授業の最初で生徒をつかむ

効果的なプレゼンテーションについて学ぶ国語の授業に、社会科の教員が TT として入った。 生徒にとっては、なかなか見られない光景なので、 面白そうに授業に参加していた。教員は、楽しいこ

とが始まるぞ、と予感させるように雰囲気作りを心



アルファ米の良いところ

災害時の保存食として普及しているアルファ米の利点は、五年間保存が可能である。多様な比が発売されており、種間で豊富・お譲または水で場で、一般であり、仲がらき実証されています。災害時の住力性は過去の事例からも実証・十分な美味しさが保証されている。特別な事は、十分な美味とな言教化している。特別な事はないすると、教徒とな言教の人にも対応できる点である。(イスラム教のハラールなど)

②スライドの良い例・悪い例×防災 良くないスライド例:

▲文字情報の多いスライド

社会科の教員が、スライドに書かれたアルファ米についての情報を淡々と読み上げる。(スライドの情報はところどころ間違いを含める。)

▲写真とアニメーションが多いスライド アルファ米の写真が、しつこいアニメーションと共に 次々に登場するスライドを見せる。



良いスライドの例:

◎大事なポイントを抽出したスライド

国語科の教員から情報を絞ってスライドに書くと効果 的であることを説明する。具体例として、アルファ米 についての説明のスライドをしめす。

他にもいくつか事例を挙げたり、プレゼンテーション のコツを説明したりする。

保存食の心配

- ・買い替え
- ●調理
- •美味しさ・種類

食の問題 = 命の問題

アルファ米で、美味しく備蓄!

③授業の締め

授業の最後に、社会科教員がアルファ米の実物を見せて、楽しそうに プレゼンテーションの見本を見せる。

得られた成果

- ・社会の授業で、地域プレゼンテーションの準備を始める前に、本プランを実施したので、その後のプレゼンづくりに大いに参考になっていた。
- ・特に中学生は、パワーポイント作りはまだ慣れていないので、情報 を詰め込んだり、アニメーションを多用したスライドを作りがちで あるが、予め学習していたことで、効果的なスライド作りができて いた。
- ・アルファ米について、初めて知ったという生徒もいて、関心を持た せることができた。また、「選べるギフトでアルファ米セットを注文 するように親を説得した」という報告も生徒から入った。

どのくらい身につき ましたか?

知識・技能かなり思考力・判断力・表現力大いに学びに向かう力・人間性かなり

課題・苦労・工夫

課題

授業準備に時間がかかり、予定していたプリントの作成まで至らなかった。当日は、プリントが無くても十分授業はできたが、できれば、 学習内容を残せるプリントがあると良い。

記入日	2019年1月14日(2019年度のチャレンジプラン)
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校
実践番号(団体内・年度内の通し番号)	13(授業実践⑫)
タイトル	地域プレゼンテーション「~未来の命のために、今できる
	行動を広げよう!~未来の子どもたちの命を救うために、
	住民の意識と行動を変えるアイディアを考えて実現しよ
	う!」(行政・地域と連携した防災教育)
実践担当者のお名前	亰 (社会科)
実践にかかった金額	1000 円未満(プリント印刷)
実践の準備にかかった時間	数日
実践活動を実施した日時	①準備:2019年5月半ば~6月25日
	②地域プレゼン:6月25日10時40分~11時30分
実践の所要時間	①準備:50 分授業×7コマ(3 クラスで実施)
	②地域プレゼン:50分授業×1コマ(3クラス合同)
実践の運営側で動いた人の人数	1人
防災教育の対象者の属性	中学生
防災教育の対象者の人数	約70人(中学3年生)
実践を行った都道府県と市区町村	東京都世田谷区
実践を行った具体的な場所	目黒星美学園中学高等学校 ①普通教室 ②マリアホール
★実践に必要だった特定の能力を	プリント、プライドに縛られずに生徒に対して「防災につ
持った人・物品・ツール・知識等	いて課題を抱えて困っている」「だから皆のアイディアと行
	動が必要なんだ」と言える大人

達成目標	【目的・目標】
	12月に開催される地域の防災イベントで、地域住民の防災意識と行動
	を変える防災コーナーを考えて、行政職員や地域住民を招いてプレゼ
	ンテーションし、アイディアの実現を目指す。
	【背景・経緯】
	生徒に教えたいことは、すべて生徒に教えてもらおう!
	本校の防災教育の特色の1つが、防災課題のミッション化である。「生
	徒に教えたいこと・学んでほしいことを、敢えて生徒に『ミッショ

	ン』として与えて、大人が教えてもらう」ことが、生徒の防災に対す	
	る主体的な態度を育て、防災に対する想像力を伸ばし、成長に繋がる	
	ことから、教員がその方針を持ち、年間を通じて、実践に取り組む。	
	女子中学生という立場からの提案だけではなく、生徒を様々な立場に	
	立たせて考えさせることで、多角的な視点から捉える力を養う。	
どの力を身につけよ	知識・技能	大いに
うとしましたか?	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	大いに
宇践内容,方法	3~4 人のチームを作る	ミッションを提示し、チームごとに話し合い

3~4 人のチームを作る。ミッションを提示し、チームごとに話し合い と発表用パワーポイントスライドの作成を行う。

▼ミッション設定のコツ

生徒が考えたくなるミッションを設定する。簡単過ぎても、難し過ぎ ても話し合いは活性化しない。また「どうせ大人は知っている」とい う印象を持つと、さらに活性化しない。「生徒のアイディアが本当に必 要」と伝わるミッションの設定が、大事。今年度は、「教員の失敗」を 前面に出した、実話を基にしたミッションを設定した。

授業 プリント

▼今年度のミッション-----

○Wakuwaku MISSION

皆さんは、今年の12月に砧公園(都立の防災公園)で行なわれる防災訓練(防災フェスタ)で、オリジナルの防災コーナーを出展することになりました。砧公園を管理している砧公園サービスセンター (SC) や地域の防災リーダーの人たちも皆さんの企画・アイディアにとっても!!期待しています。

昨年、先生が単独で参加した(生徒の皆さんはテスト期間でした …)訓練では、防災意識の低い赤ちゃん連れのお母さんがやってきて「全然準備していません!」と言っていたり、そもそも先生が出した防災コーナーの展示がしょぼくて、先生はその後、落ち込みました。また「災害時は、砧公園に行けば何とかなる」と誤解している住民も多くいます。

全然、備えていません! 私たちの避難所はこの公園 なんですよ〜。地震が起き たら、子どもたちと頑張っ て、ここで生活します。

- ※実話です。
- ※公園は広域避難場所であって、 避難所ではありません!!!





とにかく展示が しょぼかった。

せっかくのチャンス だったのに・・・



そこで、皆さんの防災コーナーに立ち寄った人が、「よし、自分で備えよう!」と前向きに動きたくなる工夫を考えて、アイディアをプレゼンテーションしてください。お客さんとしては、たまたま公園に遊びに来ていたファミリー層(小さな子どもたちのいる親子)が多く来ます。その他、スポーツの練習に来ていた小学生や散歩に来ていたお年寄りもやって来ます。

多くの人は、防災は大事だと思っていても動けていなかったり、防災 に面倒といったマイナスイメージを持っていたりして、なかなか取り 組もうとしません。みなさんの防災コーナーに来た人たちが、防災に 「前向きに取り組もう!」と思って行動してくれるようなアイディア を考えて実現させよう!

▼「わくわくミッション アイディアシート」

授業 プリント

★オリジナル防災コーナーのキャッチフレーズ

防災そのもののイメージアップ、これも大事です。

★防災コーナーのとっても具体的なアイディア

プレゼンを聞いた人に、「これならすぐ実現できる!やってみよう!」と思ってもらえるように、具体的なアイディアを書いてください。

★行動変容目標

皆さんの考えた防災ブースに来た人たちが、帰ってからどのよう な行動をとってくれると「成功した!」といえるでしょうか。目 標とする行動や想定できる行動の変化を書いてみよう。 「命を守る 4000 円~これであなたも生き残れます~」

「作って学ぼうわくわくスライム」(防災クイズに正解する毎に材料をもらえる)

「非常用リュック重くない?/本当に避難所は安心できる?」

「防災カフェ」

「一千万人で手を繋ごう 誰かを助けられる存在に!」

「WELCOME TO 防災 LAND」

「備蓄しないとやばたにえん/リアル参勤交代」

▼プレゼンテーション用スライド

私たちが解決すべき問題は、「公園に来れば助かる」と 思い込んでいる区民の意識 を変えること。

> 私たちの企画で 防災を身近なものに!

防災カフェ!!



・コースター

⇒飲み物を頼むとついてくるコースターに 防災についての豆知識が書いてある。

・非常食(アルファー米、カンパンなど…)

⇒作り方などを説明する。



大変です!!

- ・こんなに並んでも、もらえるのはほんの少し...
- ・必ずもらえるかわからない
- ・自分の口に合わないかもしれない...
- ・アレルギーがあったら?
- ...でも!

非常食があれば、並ばず自分の好みに合ったもの を食べることができる!

ということをお客さんに伝えるために...!

ファミリー層に防災意識を高めてもらうには...

震災の怖さを伝える



震災に遭った時の対策・解決策を教え、 体験してもらう

避難所で確保できるスペースを実際に作る

 $3 \times 3_{\text{(cm)}}$

東京で皆が避難所に行こうとすると 大変なことに、消しゴムくらいの スペースしかないかも…!?あなたは 消しゴムの上で生活できますか?

得られた成果 ・どのチームも積極的に話し合い、良いプレゼンテーションをつくり 上げていた。面白いアイディアがたくさんあり、6月25日に世田谷 区役所職員、砧公園職員、地域の防災リーダーの計 7 名をお招きし て、プレゼンテーションを行い、高く評価していただいた。 ・12月に開催された砧公園防災フェスタで、実際にいくつかのアイデ ィアを実現させた。今後もチャンスを見つけて、順次アイディアの 実現を図りたいと考えている。 どのくらい身につき 知識・技能 かなり ましたか? 思考力・判断力・表現力 大いに 学びに向かう力・人間性 大いに 課題・苦労・工夫 〇「先生、困っている」の一言が、素晴らしい防災教育の教材に ミッション化の手法は、偶然の気付きから生まれた。2015年9月に 工夫 学外から「マンホールトイレ」についての実践依頼が来た。「1か月半 の期間内にマンホールトイレのアイディアを生徒から引き出し、実際 に組み立てて、11月半ばのシンポジウムで1時間発表する」というも のであった。しかし、依頼時点で教員はマンホールトイレについて何 も知らない状況であり、ピンチに陥った。そこで、切羽詰まって、「学 校外から生徒のアイディアを聞きたいと依頼が来た」「先生は、アイデ ィアが浮かばず途方に暮れている」という状況そのものを授業化し、 生徒に正直に伝えたところ、生徒が目を輝かせ、アイディアが溢れ出 した。この経験から、ミッション化の手法を確立した。現場での防災 教育の実践が行われにくい原因として、「教員の知識・技能不足」が挙 げられるが、それを逆手にとって、「生徒と一緒に考える防災教育」を 推進していきたい。

★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ		
伝えたい相手	防災教育に取り組む先生方	
伝えたい内容	防災教育の主役は生徒です。そして、「防災で困っている大人」は、	
	生徒のアイディアを刺激する最高の教材です。教える防災教育から、	
	生徒から引き出す・生徒が考える防災教育へ。「防災について詳しく	
	ない」と遠慮せずに取り組んでみませんか。	

記入日	2019 年 12 月 18 日(2019 年度のチャレンジプラン)
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校
実践番号(団体内・年度内の通し番号)	14(授業実践⑬)
タイトル	情報の宝★探しー首都直下地震の想定から「希望の情報」
	を読み取ろう(公民「メディアリテラシー」「行政」)
実践担当者のお名前	京(社会科)
実践にかかった金額	1000 円未満(授業プリント印刷)
実践の準備にかかった時間	数十分
実践活動を実施した日時	2019年10月上旬
実践の所要時間	15 分(授業の一部として、3 クラスで実施)
実践の運営側で動いた人の人数	1人
防災教育の対象者の属性	中学生(3年生)
防災教育の対象者の人数	約 70 人
実践を行った都道府県と市区町村	東京都世田谷区
実践を行った具体的な場所	目黒星美学園中学高等学校
★実践に必要だった特定の能力を	① 中央防災会議防災対策推進検討会議
持った人・物品・ツール・知識等	首都直下地震対策検討ワーキンググループ
	「首都直下地震の被害想定と対策について(最終報告)」
	② 首都直下地震の被害想定対策のポイント (※授業では資
	料として pp.4、9、10、13、14、17 を使用)
	③ 2013年12月19日公表中央防災会議「首都直下地震
	の被害想定と対策について」の解説-速報版(東京海上日動
	リスクコンサルティング株式会社 ビジネスリスク事業部)
	④「①」の内容について報じた新聞記事

達成目標	防災化授業の一環として、メディアリテラシーを防災視点で学ぶ。防		
	災の知識を深めながら、メディアリテラシーについても理解し、技能		
	を身につける。		
どの力を身につけよ	知識・技能	大いに	
うとしましたか?	思考力・判断力・表現力	大いに	
	学びに向かう力・人間性	かなり	

「私たちにも、マスメディアから発信される情報をさまざまな角度から批判的に読み取る力であるメディアリテラシーが求められています。」(東京書籍「私たちの社会 公民的分野」p.83)に基づいて、政府発表の被害想定と対策の資料とそれが新聞記事ではどのように報じられているかを比較する。「悲惨な想定」がクローズアップされて、絶望的な気持ちになるが、よく資料を読むと、備えれば被害が減らせること、助かる可能性の方が高いことが読み取れる。

授業 プリント

[Mission!!] 逆転の発想!

資料を参考に、違った視点から新聞記事を考えよう。

人々に絶望感ではなく、防災に前向きに取り組もうという希望 を与えるような見出しと記事を考えよう!

見出し	

得られた成果

- ・防災と災害はまったくの別物という認識を当たり前の感覚にする必要がある。それと同時に、防災に取り組んでいると感じる絶望感を希望・未来志向に変えていきたい。本実践は、生徒たちの資料活用力を伸ばしながら、データに基づいて「正しく恐れる」ことに繋がると考えている。
- ・本プランを実施した2学期の授業の位置づけとしては、「高齢者の事故が増えているは本当か?」をデータを元に読み解き、逆転の視点から記事を作成するという授業学習の応用として、宿題とした。宿題の個人作業となったため、どのくらい身についたかの評価は「かなり」とした。今後、3学期中に復習予定である。

_		<u>, </u>	
どのくらい身につき	知識・技能	かなり	
ましたか?	思考力・判断力・表現力	かなり	
	学びに向かう力・人間性	かなり	
課題・苦労・工夫	1 学期は、「防災化」授業を	を軸に置いて授業展開を行ったが、「生徒が	
	飽きる・飽和する」線の見	極めも必要となる。そこで、2 学期は、社	
工夫	会科のメインテーマを「交	を通教育」に置き、時々、防災について取り	
課題	上げるという方針をとった。教科書の単元を交通・防災視点で学習す		
	るものである。尚、「子ど	もの命を救う」という目標の下、これまで防	
	災教育で確立してきた手法を交通教育に活かす実践を今年度から始め		
	た。このことは、防災教育	fの効果を上げる上でも有効であった。どう	
	しても災害ばかりを取り上げると、災害発生頻度は高いとは言え、生		
	徒にとっては「非日常感」が出てしまう。そこに交通という日々		
	るテーマを学習することで	で、交通を「日常での防災」と位置付けるこ	
	とで、日常での危機意識を	高め、周囲の環境や社会の仕組みについて	
	意識することにも役立つと	2考える。	

記入日	2020年1月14日(2019年度のチャレンジプラン)
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校
実践番号 (団体内・年度内の通し番号)	15(授業実践⑭)
タイトル	非常食のローリングストック調理実習
実践担当者のお名前	鳥井(家庭科)
実践にかかった金額	43,360 円
実践の準備にかかった時間	数時間
実践活動を実施した日時	2019年6月4日~6月28日
実践の所要時間	50 分授業×2コマ×3日 計18コマ(3クラスで実施)
実践の運営側で動いた人の人数	1人
防災教育の対象者の属性	高校生(2年生)
防災教育の対象者の人数	約80人
実践を行った都道府県と市区町村	東京都世田谷区
実践を行った具体的な場所	目黒星美学園中学高等学校で普通教室・調理室
例:〇〇小学校体育館	
★実践に必要だった特定の能力を	家庭科教員、賞味期限の近い非常食(a米・焼き鳥缶・ヒー
持った人・物品・ツール・知識等	トレスカレー等)、その他調理に必要な食材

達成目標	【目的・目標】		
	期限が迫った非常食のローリングストックの実行。日常食で美味しく		
	食べることができるようアレンジレシピ開発。		
	【背景・経緯】		
	私立学校は、独自で生徒・教職員の備蓄を準備することが必要であ		
	る。本校でも定期的に非常食を入れ替える必要があり、期限が迫った		
	食料の有効活用法を模索している。		
どの力を身につけよ	知識・技能	かなり	
うとしましたか?	思考力・判断力・表現力	かなり	
	学びに向かう力・人間性	少し	

1限目 ローリングストックを知る

https://tokusuru-bosai.jp/index.html の備蓄の心得を参考資料とし、備蓄のあり方について考えた。ローリングストックを家庭でも日常的に行っていくことの大切さを学んだ。しかし、備蓄食は日常でそのまま食べると美味しくないと感じてしまうものもある。家庭でローリングストックを行う際は、5年保存などの保存食でなくてもよいことを学んだ。普段食べなれているレトルト食品なども取り入れることで、美味しくローリングストックができることなどを知った。

2~4限目 防災食アレンジレシピコンテスト

2020年に期限を迎える備蓄食が学校に多くあった。この備蓄食をそのまま普段の食事に取り入れることは美味しくないと感じる人も多い。

(被災した際は別である) そこで、備蓄食を美味しく食べることができるよう、備蓄食品を使ったアレンジレシピコンテストを行った。

- ①まずは各自で、学校にある備蓄食(a米、ヒートレスカレー、保存用 ビスケット、えいようかん)を使ったアレンジレシピを考える。
- ②5~6名程で1グループを作り、グループ内でプレゼンし、各グループ代表レシピを選出する。
- ③代表レシピのプレゼン資料を作成。
- ④クラスでプレゼンし、投票数の多かったレシピを採用。





5・6限目 調理実習〜学校の備蓄食でローリングストック〜

まずは、a米にお湯を入れ作り方を実演。箱の中身などを全員で確認し、被災した際の実践方法をイメージする。そこから調理開始。

《採用されたアレンジレシピ》

【主菜】

・焼き鳥缶でチーズダッカルビ(やきとり缶使用)

【主食】

- ・a米カレードリア(a米、ヒートレスカレー使用)
- ・おこのめ焼き(a米使用)
- ・コロッケカレー(保存用ビスケット、焼き鳥缶、ヒートレスカレー)【デザート】
- ・ファーブルトン(保存用ビスケット使用)
- ・フルーツヨータルト(保存用ビスケット使用)
- ・えいようかんあんみつ(えいようかん使用)

特に好評だったのは、えいようかんあんみつだ。材料は、えいようかん (さいの目切りにし、あんこの代用として使用)、粉寒天、きな粉、黒蜜、みかんの缶詰)ほとんどの材料が、乾物や缶詰のため保存期間が長い食品である。さらに、寒天は常温でも固まるため冷蔵庫を使わなくてもできる。ローリングストックだけでなく、実際に被災した際にもデザートとして作ることができるのではないかと考えた。













得られた成果

学校にどのような非常食があるのかを知ることができた。さらに、どのような工程でa米を作るのか、実際どのぐらいの量のご飯ができるのかなどイメージすることができた。学校で被災した際に、a米は利用頻度が高いと思われるため、積極的に生徒が食事班に入り教員の補助にまわることができるようになると考える。

備蓄食のアレンジレシピコンテストでは、限りある材料の中でレシピを考えるため、思考力や想像力を高めることができた。そして、プレゼンテーションの資料作りやクラス内発表では、グループで協力する

	姿勢やどのように伝えれば自分たちのレシピの魅力が伝わるか考え、		
	工夫をこらしたプレゼンを見ることができた。		
どのくらい身につき	知識・技能	かなり	
ましたか?	思考力・判断力・表現力	大いに	
	学びに向かう力・人間性	かなり	
課題・苦労・工夫	アレンジレシピを考える際、料理の作り方がわからないということが		
	あった。教室で準備をしたため、パソコンを使える環境がなかったた		
	め、すぐに調べることができなかった。教室で作業する場合には、家		
	にあるレシピ集などを準備させておくとよい。もしくは、パソコン室		
	で作業すると効率よくアレンジレシピを考えることができたと思う。		
	(今回あった例:保存用ビスケットを使ってチーズケーキを作りたい		
	→チーズケーキってどうやってつくるの?分量とかもわからない等)		

★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ		
伝えたい相手	全国の料理をつくる担当の方たちへ	
伝えたい内容	家庭に眠っている非常食、期限が切れていませんか・・・?保存期間	
	3年、5年といっても、あっという間に年月は過ぎていきます!1年	
	に1度はローリングストックを行う習慣をつけ、キッチンの片付けつ	
	いでに美味しい非常食を使ったごはんを作ってみましょう。	
伝えたい相手	備蓄食を美味しくないと思っている方たちへ	
伝えたい内容	a米って美味しくなさそう、、、乾パンって食べ飽きちゃう、、、そんな	
	イメージを持っていませんか?a米をぜひ食べてみてください。美味	
	しいごはんです。パサパサしてるなぁなんて感じた場合でも大丈夫!	
	日常生活での食事では、カレードリアなどにアレンジして食べればパ	
	サパサ感も気になりません。乾パンも食べ飽きちゃった。そんな方	
	は、砕いてチーズケーキのクッキー生地に!フードロスをなくすため	
	にも、備蓄食をアレンジして美味しく食べてみてください。	

記入日	2019年1月16日 (2019年度のチャレンジプラン)	
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校	
実践番号(団体内・年度内の通し番号)	16(授業実践⑮)	
タイトル	表現しよう。防災への思いとアイディアをカタチに	
	(外部コンテスト・コンクールの活用)	
実践担当者のお名前	京(社会科・防災係)	

実践にかかった金額	3000 円未満(応募用の送料)
実践の準備にかかった時間	数時間
実践活動を実施した日時	2019 年夏休み
実践の所要時間	各自
実践の運営側で動いた人の人数	3人
防災教育の対象者の属性	中学生・高校生
防災教育の対象者の人数	約80人(高1・2、中3)
実践を行った都道府県と市区町村	東京都世田谷区
実践を行った具体的な場所	各自の自宅など
★実践に必要だった特定の能力を	外部コンテスト、コンクールの情報
持った人・物品・ツール・知識等	

達成目標【目的・目標】

- ・授業内外での防災学習・活動や被災地ボランティア研修に参加した 生徒たちが学んだことを表現し、アウトプットするために、外部コンクールやコンテストを積極的に活用する。
- ・学校には毎年、多くのコンテストやコンクールの案内が来る。生徒 が自らの関心に合わせて、表現できるように、複数のコンテスト・ コンクールを選び、生徒に提示する。

【背景・経緯】

・本校の生徒は、積極的に防災諸活動に参加し、非常に良いアイディアと行動力を見せる一方で、その経験を効果的に表現する表現力や学んだことを深める洞察力を伸ばすことが課題となっている。

どの力を身につけよ	知識・技能	かなり	
うとしましたか?	思考力・判断力・表現力	大いに	
	学びに向かう力・人間性	かなり	
実践内容・方法	①コンクール・コンテストについて、学校に届くチラシやインターネ		
	ットからなどで情報を集めて、応募する候補を選定する。		
	▼今年度活用したコンクー	-ル・コンテスト	
	・JICA エッセイコンテスト 〆切:9 月上旬		
	・スピリット・オブ・コミ	ミュニティ(ボランティア賞)〆切:9月上旬	
	・お金の作文 〆切:9月	下旬	
	・内閣府主催「防災ポスタ	7ーコンテスト」 〆切:10 月末	
	・SYD きらめきメッセーシ	ジコンテスト 〆切:11 月末	
	Û		
	②各活動(授業・地域活動	か・被災地研修など)	
	ワンポイント★教員は、活	動の中で、単に活動するだけではなく、そ	
	の中で自分なりの課題を見	つけること、課題に対しての解決策を考え	
	ることの大切さを伝える。		
	Û		
	③夏休みの宿題(中 3)や事後活動(被災地研修)として、コンクー		
	ル・コンテストへの応募作品を選択課題として課す。		
	Û		
	④作品の回収と応募作業		
得られた成果	・本プランの一環で今年度	E、初めて内閣府「防災ポスターコンテス	
	ト」に応募した。中 3 の	D選択課題としたところ、約3割の生徒が選	
	択した。		
	・メッセージコンクールに	おいては、被災地研修からの学びをまとめ	
	た高1の生徒の全国大会	会への進出が決まった。	
	・2 学期(9~11月)に防災教育を経験した中1に、学期のまとめとして、12月に即席の防災ポスター作成を課したところ、ポジティブで主体的な内容の作品が多く見られた。防災ポスターコンテストの応募期間は過ぎていたが、来年度以降にアイディアを持ちこして、		
	応募に繋げられたら良い	N _o	

どのくらい身につき	知識・技能	かなり	
ましたか?	思考力・判断力・表現力	かなり	
	学びに向かう力・人間性	かなり	
課題・苦労・工夫	・防災ポスターを選択する	5生徒が多くいたので、来年は授業で案を考	
課題	えてから作成するとより良いものができるかもしれないと思った。		
	・「課題」と言うと義務感	が出るので、「ミッション」という表現を意	
工夫	識して使っている。ただ	し、提出の自由度が高い印象になると、提	
	出率が下がるので、提出	が必須であることもしっかり伝える。	
*** ***	・中3に関しては、「防災化授業」の経験を作文にしてほしいとい		
苦労	いもあったが、その旨を伝えなかったため、作文の題材にする生物		
	はいなかった。あまり限	限定し過ぎるのは、生徒の思考を止めるので	
	避けたいが、「面白い視点に気づかせる」という意味では、ヒントと		
	して伝えた方が良かった	:かもしれない。	
課題	・外部のコンテスト・コン	クールで受賞できる人数は限られているの	
	で、選考に漏れた中でも優れた作品はあるので、「学内コン		
	として、表彰する仕組み	☆を作れると良い。	

記入日	2019 年月日(2019 年度のチャレンジプラン)
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校
実践番号 (団体内・年度内の通し番号)	17(授業実践⑰)
タイトル	言語力の向上を目指す活動を通じて、防災スキルアップも
	目指そう!(「朝の 15 分の活動」における教材として防災
	を活用する)
実践担当者のお名前	後藤(探求推進)
実践にかかった金額	1000 円未満(プリント印刷)
実践の準備にかかった時間	数時間
実践活動を実施した日時	2019年5月31日・9月26日 8時15分~8時30分
実践の所要時間	15 分(1 回あたり)
実践の運営側で動いた人の人数	15人
防災教育の対象者の属性	高校生(1・2年生)
防災教育の対象者の人数	約 160 人
実践を行った都道府県と市区町村	東京都世田谷区
実践を行った具体的な場所	目黒星美学園中学高等学校 中 1~高 2 の各普通教室
★実践に必要だった特定の能力を	コーディネータ役の教員(各クラス担任)、プリント
持った人・物品・ツール・知識等	

達成目標	【目的・目標】	
	言語力向上を目指す朝の活	動において、防災を題材にした教材を作成
	し、活用する。	
	【背景・経緯】	
	本校では言語力向上を目指	ばして、月に一度のペースで、朝の活動の時
	間 (8:15~8:30) に「言	語カウィーク」を実施している。毎回、様々
	なテーマを扱い、言語活動	を行っている。その一環で、防災を題材に
	した教材を開発・使用して	ะเงล .
どの力を身につけよ	知識・技能	大いに
うとしましたか?	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	大いに

(1) 高1「話すトレーニング」(5月実施)

「1分で、うまく読めますか?」

準備

- ・「1分間で話す」訓練をするために、防災に関する300字程度の資料を準備する。
- ・今年度の取り組みでは、「首都直下地震の想定と公助任せではなく、 自助・共助が減災を推し進めるカギになること」「時間は多く残され ていないので、住民に大都市災害の実相を知ってもらうために、災 害の歴史を学ぶ機会を提供することが博物館や資料館に求められて いること」を指摘した資料を使用した。

実践

ステップ❶1 分間で話してみよう その 1

隣の席の生徒とペアになって、相手が聞きやすい話し方を意識して、 お互いに原稿を読み合う。

Û

ステップの話しやすくなる工夫をしよう

ステップ61分間で話してみよう その2

最後に自分の読み方を評価する

「外部の方への電話、できますか? |

設定:ボランティアクラブが文化祭で、「防災を考える〜もしものために私たちができること〜」をテーマに発表会をすることになりました。〇〇さんのグループは、まず学校のある世田谷区の防災への取り組みについて取材をしたいと考えています。グループの代表として、区役所に取材依頼の電話をすることになった〇〇さんは、電話をするために取材計画をまとめました。

ステップ❶原稿を考えよう

設定を読み、電話で話す際の原稿を考える

Ú

ステップ②実際に話してみよう

隣の席の生徒とペアになり、実際に電話で話すつもりで話してみる。 片方の生徒は、電話の受け手を演じる。

Û

自分の話し方の評価をする。

(2) 高 2 「話すトレーニング」(9月実施)

①「災害伝言ダイヤル 171 に挑戦!」(実施)

ステップ❶「伝言内容を考える」(3分)

自分の置かれている状況の設定を読み、30秒の伝言内容を考える。

《設定》※生徒の実情に応じて、場面設定する。

〇月〇日〇時〇分頃、友人と〇〇で遊んでた時に震度〇の地震に見舞われた。所持していた携帯電話で、災害伝言ダイヤルを使って家族に 伝言を残すことにした。

- ・〇時頃、帰宅予定であることを事前に家族に伝えていた。
- ・公共交通機関は、すべて止まっている状態。
- ・電話など通常の連絡手段は通じない。
- ・友人も一緒にいて、けがはしていない。
- ・所持金は〇〇円程度。
- ※家族内での災害発生時の約束が決まっている人は、その内容を入れても良い。

伝言内容は文章ではなく、話すポイントを箇条書きにする。

Û

ステップ❷「実際に話すーその1」(30秒)

考えた伝言を自分で声に出して言ってみる。

Û

ステップ❸「実際に話すーその2」

教員の「171の音声ガイダンス」に従って、番号を押すジェスチャー

	を行い、隣の席の生徒とべ	ペアになって、お互いに伝言内容を話す。	
	資料として、「171 の音声ガイダンス(伝言の録音手順)」を生徒に配		
	布する。		
	Û		
	ステップ 4 「他の人の伝言	を聞いてみる」(30 秒×4)	
	教員が4名指名して、全体	*の前で伝言内容を発表させる。聞いている	
	生徒は、自分の伝言内容と	の相違を比較する。	
得られた成果	チャレンジ!朝の活動のつ	いでに防災スキルをアップする	
	・言語力向上の活動を通じ	て、171 のかけ方など、防災の知識やスキ	
	ルが身に付いた。		
	・話す力を伸ばすために、	防災に関する資料を繰り返しじっくり読む	
	ことで、防災についての	知識理解も深まった。	
どのくらい身につき	知識・技能	大いに	
ましたか?	思考力・判断力・表現力	大いに	
	学びに向かう力・人間性	大いに	
課題・苦労・工夫	・各クラスのモニターを使	って、実際に「171」にかけている動画を	
工夫	視聴した。		

記入日	2019年1月7日 (2019年度のチャレンジプラン)
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校
実践番号 (団体内・年度内の通し番号)	18 (他校との連携①)
タイトル	生徒の活躍の場が広がる!ツールとしての「魔法の携帯ト
	イレ」活用法(日本赤十字社東京都支部 青少年赤十字メン
	バー連絡協議会でのワークショップ)
実践担当者のお名前	京・市橋(社会科)
実践にかかった金額	1000 円未満(資料印刷) ※材料等は赤十字が準備
実践の準備にかかった時間	数時間
実践活動を実施した日時	2019年6月22日14時30分~16時30分
実践の所要時間	90分
実践の運営側で動いた人の人数	18 人:本校生徒(6)・青少年赤十字役員の生徒(12)
防災教育の対象者の属性	中学生・高校生・教職員・防災関係者
防災教育の対象者の人数	約 90 人
実践を行った都道府県と市区町村	東京都新宿区
実践を行った具体的な場所	日本赤十字社東京都支部大会議室
★実践に必要だった特定の能力を	携帯トイレの材料、東北福祉大学考案の「エコノミークラ
持った人・物品・ツール・知識等	ス症候群予防体操(愛称:さんあい体操)」のプリント
	https://www.tfu.ac.jp/gensai/image/economi-taisou.pdf

達成目標	【目的・目標】
	都内の青少年赤十字(JRC)加盟校の生徒が集まり、携帯トイレを校内や
	地域で普及するために作り方をマスターする。災害時のトイレ問題の
	重要性を知り、中高生視点でどのように地域に普及するか、アイディ
	アを出し合う。これらの活動を通じ、同世代の防災に取り組む仲間と
	出会い、それぞれの地域での防災活動へのモチベーションを高める。
	【背景・経緯】
	本校考案の「魔法の携帯トイレ作り」が、日本赤十字社東京都支部の
	防災教育の取り組みとして採用され、2018年度から3か年、都内の
	青少年赤十字加盟校、28 の区・市の赤十字ボランティアが地域での普
	及活動に取り組んでいる。

どの力を身につけよ	知識・技能	かなり
うとしましたか?	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	大いに

(1) 当日のワークショップについて

▼プログラム

令和元年度 東京都青少年赤十字メンバー連絡協議会 防災減災ワークショップ「災害時のトイレ問題」 災害時のトイレ問題を知り、携帯トイレの作成を体験しよう!

- ① 目黒星美学園中学高等学校の取り組み発表
- ② ワークショップ実施(話し合い→携帯トイレの作成→話し合い→発表!)
- ③ 終了・まとめ
- ① 目黒星美学園中学高等学校の取り組み発表
- ・6人の生徒がプレゼンテーションを行った。
- ・2人1チームに分かれ、3つのテーマをそれぞれ分担した。

【プレゼンテーションテーマ】

- ○「災害時のトイレ問題とは?」
- 〇「エコノミークラス症候群って何?」
- ○「本校の被災地ボランティア研修と防災活動」





▲「さんあん体操」をレクチャー

※2019年3月の被災地ボランティア研修で、東北福祉大学の提供する減災・防災教育プログラムを受けた。その中で習った、「エコノミークラス症候群予防体操(愛称:さんあい体操)」を本校生徒の指導で、全員で体験した。

プリント

・他校の J R Cンバーから、文化祭で発表した「災害時のトイレ問題」の取り組みの報告も行われた。

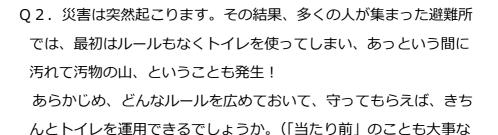
(2)配布資料

ルールです。)

Mission!! 「こころとからだを守るトイレ」をつくるために

災害時、例えば「天気の悪い夜」に 外にあるこのトイレ、行けますか?

Q 1. できるだけ快適にするために、 どのようなものがあったら良いと思いますか?



Q3.トイレに行く回数を減らすために、水分を 控えて体調を崩す人もいました。外に設置され たトイレでは、残念ながら、危険なことや不便 なことも色々ありました。どのようなルールを 決めておけば、安心・安全に災害時にトイレを 使えるでしょうか。



▼熊本地震の際に、家族がエコノミークラス症候群になった方がインタビューで「知らなかった。行政に駐車場を回って知らせてほしかった。」と答えているのを目にした。それ以来、「あらかじめ知らせる」「声がけをする」ことを生徒が活躍できる防災活動の1つだと考えて、以下のようなワークを作成した。

配布 プリント

Mission!! 「命を守る声がけをしよう」

災害が発生し、あなたの目の前に、トイレに行きたくないために 水分を控えて元気のない人がいます。このままだと命の危険があ ります。

「水分をしっかりとって、トイレに行く勇気」が出るような声が けをしましょう! 相手が「やっぱりしっかり水分をとろう!」と 思えるようなセリフを考えてください。



得られた成果

- ・当日は、中学生 22 人・高校生 66 人・指導者 5 人の参加があり、充実した研修になった。同世代の他校の生徒との出会いを通じて、大いに刺激を受けた。
- ・「魔法の携帯トイレ」の作成方法・指導方法のコツをそれぞれが身に 着けた。JRCメンバーが文化祭で来場者に教えたり、赤十字の地域 奉什団の方が中高生に教えたりと、各地で活動が展開されている。
- ・本校の生徒にとっては、これまで取り組んでいた生徒達の達成感に 繋がると同時に、低学年にとっては活動と災害時のトイレ問題のイ メージアップに繋がっている。

どのくらい身につき ましたか? 知識・技能かなり思考力・判断力・表現力大いに学びに向かう力・人間性大いに

課題・苦労・工夫

工夫

苦労

- ・防災活動を始めたばかりの 2014 年頃、教員が「本校の生徒に災害時のトイレ問題に関心を持ってほしい」と思いついたときには、まったく予想もしていなかった活動の広がりが生まれている。
- ・この動きから教員が学んだことは、防災活動に「生徒の思いとアイディア」が加わると、大人が予想しているよりも、遥かに活動が広がることと、「生徒の思い」が社会を動かす可能性を持つということである。

工夫

・研修会では、単に「携帯トイレの作り方を学ぶ」だけではなく、どうやって普及させるかのアイディアを考えたり、エコノミークラス 症候群を予防する体操を練習したり、様々な視点からメニューを考えた。

課題

- ・暗くなりがち、避けられがちな災害時のトイレ問題について、明る い雰囲気の中で考えることで、活動のイメージアップにもなった。
- ・携帯トイレに使っている吸水ポリマーシートの製造が既に終了して いるため、代替の材料が必要な状況。

★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体(関係者)について		
関係者の名前・団体名	日本赤十字社東京都支部事業部 青少年・ボランティア課青少年係	
関係者の説明	青少年赤十字は、学校教育を通して、子どもたちに"いのちの大切さ"	
	を伝えています。東京都支部は、学校現場での子どもたちの活動充実	
	のために、さまざまな支援・プログラム提供をしています。 世界	
	192 の赤十字姉妹社や国内約 14、400 校に同じ理想を掲げる青少年	
	メンバーがいます。(東京都支部 HP より)	
関係者の連絡先	TEL. 03-5273-6741(代表)	

記入日	2019年1月8日 (2019年度のチャレンジプラン)
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校
実践番号(団体内・年度内の通し番号)	19 (他校との連携②)
タイトル	いつか来るその日のために。生徒が提案する防災交流会
	―校舎見取り図をもとに避難所を想像しよう
	(宮城県亘理町立荒浜中学校との 16 回目の交流会)
実践担当者のお名前	京 (社会科・防災係)
実践にかかった金額	1000 円未満(文房具)
実践の準備にかかった時間	数時間
実践活動を実施した日時	2019年7月24日10時分~12時00分
実践の所要時間	2 時間
実践の運営側で動いた人の人数	20 人:生徒(5)・荒浜中教員(10)・本校教員(5)
防災教育の対象者の属性	中学生・高校生
防災教育の対象者の人数	75 人
実践を行った都道府県と市区町村	宮城県亘理郡亘理町
実践を行った具体的な場所	亘理町立荒浜中学校 体育館および校舎全体
★実践に必要だった特定の能力を	荒浜中学校の校舎見取り図(拡大コピー)、付箋
持った人・物品・ツール・知識等	

達成目標	【目的・目標】
	・2 校の交流会の一環として、「楽しく話し合う中で、お互いに想像力
	を活かして、災害や防災について考えることにポジティブな気持ち
	を持つ」ことを目的とする防災ワークショップを開催する。
	・荒浜中学校の校舎見取り図を使って、「次に大きな災害が起きて、地
	域の人たちの避難所になったときにどのように校舎を活用するか」
	について、両校の生徒でアイディアを出し合う。
	【背景・経緯】
	・宮城県亘理町立荒浜中学校と、2012 年 3 月の第 1 回被災地ボラン
	ティア研修から欠かさずに交流会を続けている。近年の交流会で
	は、両校の生徒が共に防災活動や防災学習に取り組みながら交流を
	することが多くある。

	・今回の企画は、交流会の企画担当の生徒が、「毎回、荒浜中学校の校		
	舎見学をしているので、より意味のある見学になるのではないか」		
	と提案したものである。		
どの力を身につけよ	知識・技能	かなり	
うとしましたか?	思考力・判断力・表現力	大いに	
	学びに向かう力・人間性	大いに	
宝胖内容,长注	(1) 交流会のプログラノ	. (2 時間)	

(1)交流会のプログラム(2時間)

- ①両校代表者からの挨拶 ②歌(お互いの校歌などを披露)
- ③チーム作り ④自己紹介アイスブレイキング ⑤校舎見学
- ⑥防災ワークショップ (チーム活動・アイディア発表)
- ⑦記念撮影…→終了

(2)防災ワークショップの流れ

- ① **チームづくり** 10 名弱の両校合同チームを作る
- ② 自己紹介 (アイスブレイキング) 雰囲気づくりのために大事!
- ③ 荒浜中学校の生徒の案内による校舎見学

どのチームもワイワイ盛り上がっていた。その後のワークショップに 関わることから、楽しみながらもいつも以上に詳しく校舎内の間取り や工夫を確認していた。

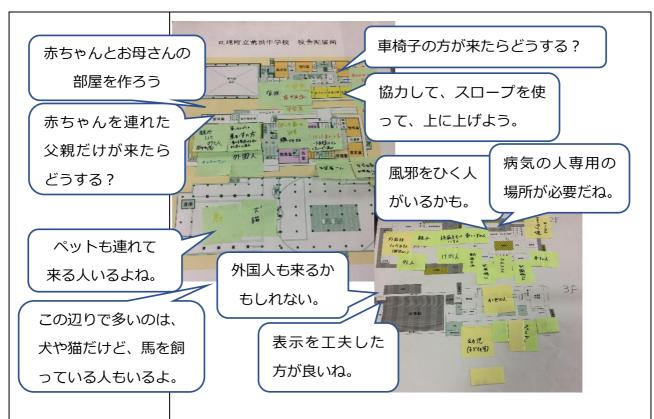
④ ワークショップ「避難所について考えよう」



《ディスカッションテーマ》

- ①どのような人が、災害発生時に荒浜 中学校にやって来るでしょう?
- ②避難所として、どのように校舎を使ったらよいでしょう?誰をどこに割り当てるとよいでしょう?

母付箋にどんどん出てきた意見を書いて貼っていった。



◎第一目的は、「想像力を伸ばす」こと(と仲良くなること)

この活動は「避難所について知ること・学ぶこと」を第一目的にした ものではなく、「楽しく話し合う中で、お互いに想像力を活かして、災 害や防災について考えることにポジティブな気持ちを持つ」ことを目 的としている。

◎一緒に考える効果

荒浜中学校の生徒は、校舎の特徴や地域の特性を把握していることから、積極的に意見を出してくれた。本校生徒も、「母子避難所」について考える授業を中3の公民で経験していたことから、その経験を活かして、意見を出していた。⇒両校の生徒の経験とアイディアが融合して、活気あるワークショップとなった。

◎教員の立ち位置

教員は、「防災を教える」役割ではなく、生徒の意見を褒めたり、意見 がなかなか出てこないチームにヒントを出したり、視点を広げたりす る役割に徹する。



⑤ アイディア発表会

一「一押しアイディア」を3つ発表しよう!

自由に発表させると、単に出てきたアイディアを読み上げて、時間だけがかかる、というパターンに陥りがち。 そこで、「一押しアイディア」を選んでもらい、絞って発表させる方法はおススメ。

大いに

得られた成果	・企画担当の生徒の狙い通り、大いに盛り上がる交流会となった。・交		
	流会の時間は、限られているため、今後の交流会の中で継続して取		
	り組んでいくことを考えている。		
どのくらい身につき	知識・技能	かなり	
ましたか?	思考力・判断力・表現力	大いに	

学びに向かう力・人間性

課題・苦労・工夫

苦労

・「1時間程度で盛り上がる内容」の設定を毎回、工夫している。テーマ設定が難しくて、なかなか話が広がらなかったことも過去にはある。ただ、失敗も含めて経験なので、教員はアドバイスや提案をしつつ、できるだけ生徒のアイディアや思いを尊重する。また、最初のアイスブレイキングで雰囲気づくりをするのは、大事である。

工夫

・教員はバックアップとサポートに徹して、全体への指示出しも含めて、できるだけ係の生徒に任せる。

工夫

・ワークショップは盛り上がって伸びる傾向にあることから、短めに制限時間を伝えておいたり、終了させたい 10 分前から「話し合いを終わらせてください」と言い始めると丁度狙った時間に終わる、といったコツがある。このような指示の出し方を、係の生徒にアドバイスする。

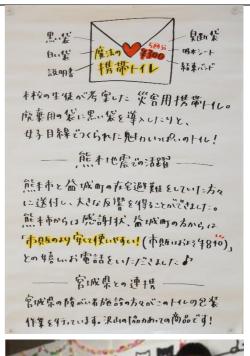
課題

・本校は世田谷区と福祉避難所(母子)の協定を結んでいることから、地域住民の受け入れを前提とした「学校を会場に地域住民を広く集めて、避難所運営訓練をする」というのは、「防災対策」上、実施しづらい現状がある。一方で、「防災教育」としては、意義あることである。……と、教員がぐるぐる思い悩んでいたところに、生徒が今回の企画を提案してきた。目からウロコであった。

記入日	2019 年月日(2019 年度のチャレンジプラン)
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校
実践番号(団体内・年度内の通し番号)	20 (他校との連携③)
タイトル	姉妹校に防災の輪を広げよう!
	(姉妹校の文化祭での交流ツールとしての防災活動)
実践担当者のお名前	在田 (ボランティアクラブ顧問)
実践にかかった金額	3万円未満(携帯トイレ材料費・模造紙)
実践の準備にかかった時間	数時間
実践活動を実施した日時	2019年9月21日~22日
実践の所要時間	2 時間
実践の運営側で動いた人の人数	14 人:2 校計生徒(9)・教員(3)
防災教育の対象者の属性	中学生・高校生・教職員・保護者・地域住民
防災教育の対象者の人数	約 50 人
実践を行った都道府県と市区町村	神奈川県横浜市
実践を行った具体的な場所	サレジオ学院中学校高等学校
★実践に必要だった特定の能力を	掲示用模造紙、携帯トイレ
持った人・物品・ツール・知識等	

達成目標	【目的・目標】		
	他校(姉妹校)の文化祭に参加し、他校の生徒と協力して、防災活動		
	の紹介や携帯トイレの普及を行う。防災をツールに、姉妹校との連携		
	を深める。		
	【背景・経緯】		
	東京の女子中高生以外を対象とした防災教育の取り組みを、今年度の		
	目標の1つにしていた。姉妹校から文化祭への参加の提案をいただ		
	き、本校からは、ボランティアグループ(アグネス会)メンバーを中		
	心に高2の生徒が参加することになった。		
どの力を身につけよ	知識・技能	少し	
うとしましたか?	思考力・判断力・表現力	大いに	
	学びに向かう力・人間性	かなり	

- ・教室にブースを設営し、携帯トイレの販売やパネルディスカッションを行った。
- ・携帯トイレは、文化祭用の5 回分の特別パックで、手作り 品の一環として販売した。携 帯トイレは、障碍者施設に作 業をお願いして作成した。販 売額の300円のうち、材 料・制作費用を除いた収益 は、寄付とした。
- ・模造紙は、携帯トイレや被災 地ボランティア研修の紹介の ものを作成した。





得られた成果

- ・第一目的は、両校の生徒の交流と連携であり、その際に防災が役立った。
- ・姉妹校の家庭への携帯トイレの普及や防災の啓発ができた。(80個400回分)
- ・あくまで手作り品の位置づけであり、収益は大きくはないが、活動をすることで「障碍者施設への仕事の提供」、「防災用品の普及」といったことに繋がるという意味で、「ソーシャルビジネス」的な経験をすることができた。

どのくらい身につき
ましたか?

知識・技能かなり思考力・判断力・表現力大いに学びに向かう力・人間性かなり

課題・苦労・工夫

工夫

前の週に開催した本校の学園祭での展示を、活かした。他校にも展示するという責任感から、より良いものを作成しようとしていた。

記入日	2019年1月13日 (2019年度のチャレンジプラン)
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校
実践番号(団体内・年度内の通し番号)	21 (他校との連携④)
タイトル	防災カルタづくりで地域(宮城)と地域(東京)をつなごう
実践担当者のお名前	京(社会科・防災係)
実践にかかった金額	1000 円未満(カード印刷・ラミネート)
実践の準備にかかった時間	数時間
実践活動を実施した日時	2019年4月中旬~下旬(及び2019年3月25日)
実践の所要時間	1時間
実践の運営側で動いた人の人数	5人:生徒(4)・教員(1)
防災教育の対象者の属性	中学生・高校生
防災教育の対象者の人数	_
実践を行った都道府県と市区町村	東京都世田谷区
実践を行った具体的な場所	目黒星美学園中学高等学校 ラウンジ
	(カルタの作成は亘理町立荒浜中学校 体育館)
★実践に必要だった特定の能力を	画用紙、ペン、プロッキー、ラミネーターとフィルム
持った人・物品・ツール・知識等	

達成目標	【目的・目標】		
	学校近隣の法人格砧町自治会が作成した「砧防災標語あかさたな」に		
	合わせた、カルタの絵札を完成させる。		
	【背景・経緯】		
	昨年度3月の荒浜中学校との交流会において、両校の生徒が協力し		
	て、防災カルタの絵札のデザインを描いた。		
どの力を身につけよ	知識・技能	少し	
うとしましたか?	思考力・判断力・表現力	かなり	
	学びに向かう力・人間性	かなり	

(2018年度3月実施)

法人格砧町自治会の方を3名お招きして、自治会が取り組んでいる防 災活動や標語を作成した思いについてお話を伺う。

Ú

交流会企画担当の生徒が、カルタづくりの方法を考える。

《ルール》両校の生徒がペアになり、割り当てられた読み札にふさわしい絵札を描く。ただし、言葉を発してはいけない。一筆ずつ描いて交代して、絵を完成させていく。

 $\hat{\Gamma}$

交流会当日に、両校の生徒混合の グループをつくり、絵札づくりに 取り組む。生徒からルールの提案 があったとき、教員はなかなかイ メージが湧かなかったが、実際に

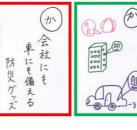


やってみたところ、とても楽しそうに取り組んでいた。体育館に設置 してある消火器を観察しに行くチームもあった。出来上がったカルタ で遊び、盛り上がっていた。

- ※昨年度の時点では、紙のままで絵札として完成できなかった。
- ・欠けている絵札の補充や色が薄いイラストの手直しを行った。
- ・スキャナーでイラストと読み札を取り込み、枠をつけた。

法人格砧町自治会に試作版をお届けした。今後、しっかりと完成させて、地域や荒浜中学校との交流会で活用していく予定である。









得られた成果	・活動の第一目的が生徒同	士の交流であり、短時間(30 分程度)で即	
工夫	席で作成したイラストであったが、枠をつけてラミネート加工する		
	と素敵な絵札になった。		
	・「『砧防災標語あかさたな』の絵札を作ってほしい」という地域の課		
	題を生徒が引き受け、他校の生徒と力を合わせて解決するという良		
	い経験ができた。また先方の先生からも良い標語がたくさんあると		
	おっしゃっていただいた。		
どのくらい身につき	知識・技能 少し		
ましたか?	思考力・判断力・表現力	かなり	
	学びに向かう力・人間性	かなり	
課題・苦労・工夫	荒浜中学校の生徒とは、作成したときに実際に使って盛り上がった		
	が、まだ地域の方と使う機会がつくれていないので、今後、その機会		
	をつくりたい。		

★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体(関係者)について		
関係者の名前・団体名	法人格砧町自治会	
関係者の説明	「砧防災標語あかさたな」について	
	http://www.houzinnkakukinuta.com/bousaihyougo%20.html	
	※団体については 【実践番号 20 】の「協力を求めた団体」参照。	
関係者の連絡先	HP: http://www.houzinnkakukinuta.com/index.html	

記入日	2019年1月5日 (2019年度のチャレンジプラン)
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校
実践番号 (団体内・年度内の通し番号)	22 (地域との連携①)
タイトル	生徒発信★ペットの命のためにできることを探そう!地域
	で活動しよう! (「ペットと防災」についての地域活動)
実践担当者のお名前	京(ボランティアクラブ顧問)
実践にかかった金額	ほぼ0円(学校負担として)
実践の準備にかかった時間	数時間
実践活動を実施した日時	①2019年7月26日10時00分~12時00分
	②2019年11月3日10時00分~15時00分
実践の所要時間	①2 時間 ②5 時間
実践の運営側で動いた人の人数	① 6人(保健所職員・教員)
	②10 人(保健所職員など・生徒ボランティア・教員)
防災教育の対象者の属性	中学生・高校生・地域住民
防災教育の対象者の人数	①2 人(生徒)
	②はイベント全体の来場者数が 14、000 人(公表値)
実践を行った都道府県と市区町村	東京都世田谷区
実践を行った具体的な場所	①世田谷保健所 ②砧公園ねむの木広場
★実践に必要だった特定の能力を	ペットと防災に関する資料

達成目標	本プランは、昨年度、社会	(公民)の授業の一環で、世田谷区の災害対策	
	課職員から区の災害対策について話を聞いた生徒 2 名が、「ペットのた		
	めの防災について自分たちなりに調べて、地域住民に呼びかけをした		
	い」と申し出てきたことがきっかけで始まった。生徒が自ら見つけた課		
	題に対して、どのような解決策があるか考え、地域で行動を起こすこと		
	を目指し、教員はそれをサポートしたものである。		
どの力を身につけよ	知識・技能	かなり	
うとしましたか?	思考力・判断力・表現力	かなり	
	学びに向かう力・人間性	大いに	

(1) 事前打ち合わせ@世田谷保健所 (7/18)

- ・生徒のヒアリング調査の前に、保健所職員と 教員で約1時間の打ち合わせを行った。
- ・打ち合わせで生徒が考えた質問項目をお伝え して、7/26 当日は、質問に合わせた資料を準 備していただくことになった。



・教員からは、区の取り組みに加えて、地域の課題や生徒に「お願い したいことの提案」も含めてくださるようにお願いした。

(2) 生徒による保健所へのヒアリング調査@保健所 (7/26)

当日は、4名の職員の方がご参加くださり、生徒の質問に丁寧にお答えくださった。事前に提出していた質問事項だけではなく、追加の質疑応答にもお答えくださった。

〇生徒からの「事前の質問と取り組みたいこと」の一部

- ・保健所で行っている防災対策を知りたいです。
- ・災害が起きたときに考えられるトラブルはどんなものがありますか
- ・防災に限らず、保健所が抱えている課題を教えてください。
- ・過去の災害でペット・動物や飼い主に起きたことから学んで、東京 で同じことが起こらないように活動したいです。
- ・ペットを飼っている人に、防災を呼びかけたいです。





《お話を伺った主な内容》

- ①保健所の什事全般について
- ②ペットと防災について、世田谷区の取り組みや保健所が配布している る資料について

③地域におけるペットと防災の課題とどのような備えが必要か ④生徒に期待していること

(3)動物フェスティバルでのボランティア活動(11/3)

- ・生徒6名が、ボランティアとして保健所のブースで活動した。保健 所ブースでは、ペットのための備えについての展示と、防災クイズ が行われ、生徒は呼び込みやクイズ対応、資料配布などを行った。
- ・ヒアリング調査に参加した生徒からは「保健所でもらった資料が詳 しくて分かりやすかったので、イベントで配布する担当をしたい」 という希望も出た。
- ・災害時の動物支援に取り組む団体のブースが複数あり、生徒は情報 収集や交流ができた。





得られた成果

①当日の成果

- ・動物フェスティバルは天気にも恵まれ、多くのペットを連れた住民が来場した(イベント全体では 14,000 人が来場)。本校としては、初めて参加するイベントだったが、生徒自身も楽しみながら活動することができた。開催時間いっぱい、途切れることなく多くの人がブースに立ち寄り、防災クイズや展示の見学をしてくださった。
- ・ヒアリング調査にご協力くださった職員の方や地域で動物のボラン ティア活動に取り組む方と一緒に、ブースを運営することで、「顔の 見える関わり」を深めることができ、生徒は社会との繋がりを広げ ることができた。
- ・動物フェスティバルには、多くのブースが出ており、「ペットと防災」を軸に取り組む団体の展示も多くあった。生徒は他のブースを見学することで、様々な情報や活動に触れて、知識を楽しく得ると

共に、活動へのモチベーションを上げていた。教員も様々なブース 展示を見ることで、12月に行われる防災フェスタのブース作りにも 活かすことができた。

・台風 19 号の後ということもあり、「ペットと防災」への関心は高い 一方で、「どこに避難すればよいのか」といった行政に頼った質問も あったので、自分のペットのために普段から自分で考えて備えてお くことの重要性をお伝えした。

②活動全体を通じて

◎三人寄れば文殊の知恵!生徒から教員が学ぶ防災教育

・実践担当者は、防災に強い関心を持っているものの、ペットは飼っていないため、正直、「ペットと防災」にあまり着目していなかった。生徒の「思い」を受けて、今回の活動をマネージする中で、教員の関心も高まり、改めて、「教員が生徒を教える防災教育」ではなく、「教員と生徒が知恵を寄せ合いながら、アイディアを出し合いながら取り組む防災教育」の有効性・素晴らしさを実感した。

◎防災活動のよいサイクルモデル

今回は、中学時代に「防災参画型授業」を受けた生徒が、高校生になって、自らの課題意識を基に行動し、実際の地域活動まで実現できた という、よいサイクルモデルになった。

> 周囲を巻き込みながら, 実際の行動に移す

自らの防災テーマ(課題) を見つけて調査する



授業を通じて, 防災に関心を持つ

地域の防災力向上 に貢献できた実感 を持つ

どのくらい身につき	知識・技能	大いに
ましたか?	思考力・判断力・表現力	かなり
	学びに向かう力・人間性	かなり

課題・苦労・丁夫

◎学外との連携における防災「教育」に対するコンセンサスは重要

工夫

- ・生徒の活動の前に教員と協力してくださる職員の間で打ち合わせを したことで、防災「教育」のコンセンサスができていたので、当日 は、生徒たちがより効果的な学びが得られた。
- ・学校側からは、「行政の対策」だけではなく、「地域の課題」についてのお話を希望した。

工夫

課題

⇒「地域にこういった課題がある」「解決方法を考えてみてほしい」と 投げかけてもらうことにより、生徒は自助意識を高めるだけでな く、社会参画の意識と責任感を持つ。(逆に、「こんな対策をとって います」という情報提供だけであると、生徒は「行政が準備してく れる」と依存心を強める可能性がある。)

工夫

⇒「地域と連携した防災教育」が推奨されているが、学外の協力者に 防災「教育」の方針を説明して、一定のコンセンサスを得ておくこ とが必要である。教育の本質を説明して理解を得るために、事前打 ち合わせが重要であると今年度のプランを通じ、改めて認識した。

課題

苦労

・今回のヒアリング調査については、中学生の段階で教員に相談が来ていたが、教員が忙しかったこともあってなかなか行動に移せなかった。生徒が自らの課題を見つけた時に、スムーズに支援できる仕組み作りを考えていく必要がある。

課題

- ・今回は、11月のイベントまでに生徒がオリジナルのチラシを作成するところまでは至らなかった。今後、活動を継続する中で、チラシや掲示物の作成までできると良い。
- ◎イベントと台風 19 号で、住民意識の変革の必要性を改めて認識
- ・本校でもペットを飼っている生徒は多い。イベントで行政に頼る意 識の質問を受けたこと、台風 19 号の際に地域でペットに関して混乱 があったことから、来年度の防災教育の重点項目の1つにしたい。

★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体(関係者)について

関係者の名前・団体名	世田谷保健所生活保健課
関係者の説明	動物担当の部署。
関係者の連絡先	TEL 03-5432-1111(代表)

記入日	2019年1月5日 (2019年度のチャレンジプラン)
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校
実践番号 (団体内・年度内の通し番号)	23 (地域との連携②)
タイトル	授業から社会参画しよう「生徒のアイディア×地域の力」
	で臨む地域防災イベント (地域防災イベントへの参加)
実践担当者のお名前	亰 (社会科)
実践にかかった金額	3万円未満(印刷代・携帯トイレ材料・展示用パネル)
実践の準備にかかった時間	1日
実践活動を実施した日時	2019年12月7日10時00分~13時00分
実践の所要時間	3 時間
実践の運営側で動いた人の人数	8 人:生徒(1)・公園職員(2)・自治会(2)・他校生徒(2)・
	教員(1)
防災教育の対象者の属性	中学生・高校生・地域住民・防災関係者
防災教育の対象者の人数	約 50 人
実践を行った都道府県と市区町村	東京都世田谷区
実践を行った具体的な場所	砧公園ねむのき広場
★実践に必要だった特定の能力を	携帯トイレづくりの材料、災害時のトイレの展示、展示物
持った人・物品・ツール・知識等	とパネル

達成目標	【目的・目標】		
	学校近隣で開催される地域住民を対象とした防災イベントにおいて、		
	地域と協力して、生徒のアイディアを活用・具現化する。		
	【背景・経緯】		
	今回で3回目のイベントで、本校では昨年度から参加している。【実践		
	番号 10】で報告した通り、イベントの実施時期と本校の試験期間が重		
	なっていることから、昨年度は、教員のみでブースを出したところ、		
	効果的に啓発活動ができずに大いに反省した。以上のような昨年度の		
	「失敗」を今年度の教材とした。		
どの力を身につけよ	知識・技能	少し	
うとしましたか?	思考力・判断力・表現力	かなり	
	学びに向かう力・人間性	大いに	

(1)準備・打ち合わせ

第 1 回打ち合わせ (10/8) 16:00~17:30

防災フェスタの各ブースを回るときに使用する、スタンプラリー用の カードのデザインについて相談した。

★スタンプラリーの第1ターゲット=ファミリー層(たまたま公園に 遊びに来た幼児~小学校低学年とその保護者)

▼生徒のアイディア

- ① スタンプラリーカードは、敢えて防災色をあまり強く出さずに、 季節に合わせてクリスマスカードをイメージしたデザインにする。 小さな子どもがスタンプを集めたくなるようなデザインにする。
- ② スタンプラリー用カードには情報を詰め込まずに、別に防災啓発 用のチラシを作成して、スタンプラリー用カードと一緒に渡して保 護者に読んでもらう。チラシには、地域で防災に取り組む人たちか ら、前向きに備えに取り組んでもらえるようなメッセージや情報を 集めて掲載する。⇒チラシ作成にあたっては、防災について学ぶ学 生や、東日本大震災を経験した方などからメッセージを集めた。



◀打ち合わせの様子

スタンプラリーカードとチラシ 作成に協力した生徒は、公園職 員に対して、新しいアイディア を出し、しっかりと意見を述べ ていた。

第2回打ち合わせ(11/7)15:00~17:30

- ① 本校の担当するブースの打ち合わせを行った。「どっきり一言カード」【実践番号 24】のメッセージ案をお渡しした。
- ② 生徒からスタンプラリー用カードのデザインを提案した。
- ※この他、メールでの打ち合わせを複数回、行った。

携帯トイレ作成(11/9)【実践番号 35】

中1が作成した携帯トイレを見本・配布用として使用する。





防災啓発用 チラシ **◆**

スタンプ ラリー カード▼





(2) 防災フェスタ当日

イベントに参加する前提として、本校生徒が防災フェスタ当日は、テスト期間で参加できなかったので、地域の皆さん(自治会と他校の中学生ボランティア)の協力を得て、ブース展示・運営を行った。



生徒が作成した壁新聞の展示・被災地ボランティア研修に参加し





▶地域のご協力で実現した本校のブー





◀携帯トイレの吸水実験コーナー

法人格砧町自治会の方が様々なタイプの携帯トイレ と尿に見立てた色水を使って、来場者に参加しても らう実験コーナーを企画・運営してくださった。来 場者は、凝固剤が水を吸う様子を非常に興味深そう に試していた。平常時に使い方を確認しておくこと は、抵抗感を無くすためにも有効である。

◀携帯トイレづくり

中学生ボランティアがすぐに指導方法をマスターし て、動き出してくれた。明るく分かりやすく説明し てくれたため、来場者も丁寧に作業を行っていた。 来場者が作業しやすいように自分たちで考えて、材 料を予め設置する工夫も素晴らしかった。

12/6の教員研修のために、宮城県からお招きした先生が、防災フェス 夕にもご参加くださった。設営段階から見学して、今後に向けてのア ドバイスや地域住民に体験談をお話くださった。中学生にも、災害時 に中学生の力は大きな助けとなるというお話もしてくださった。

得られた成果

- ・生徒のアイディアが実際の形になり、達成感があった。イベントに 直接は参加できなくても、このような貢献の方法があることを知 り、新たな社会参画の経験になった。
- ・中学生ボランティアは、防災の活動に参加するのは初めて
- ・雨天で人出は少なかったが、30名ほどに携帯トイレづくり体験にご 参加いただいた。中1が作成した見本も10個ほど配布できた。
- ・自治会の皆さんの協力があり、非常に心強かった。携帯トイレの吸 水実験の道具や展示物も用意してくださり、充実したブースになっ た。三人寄らば文殊の知恵と言うが、他団体との協力・連携してア イディアを出し合うとより良い活動が生まれると改めて実感した。

どのくらい身につき
ましたか?

知識・技能	少し
思考力・判断力・表現力	かなり
学びに向かう力・人間性	かなり

課題・苦労・工夫

工夫

・イベント主催者に、中学生には、防災イベントに一般参加者として の参加を呼び掛けるだけではなく、「ボランティア」として募集した 方が、効果があることを学校視点から提案した。(本校の生徒の場合 も、役割のあるボランティアの方が、集まりやすい傾向にある。)

工夫

- ・防災イベントに参加するときに、他校の生徒に当日、飛び入りで手 伝ってもらう場合がある。その祭、活動の説明の際に、『魔法の一 言』を付け加えると、より責任感を持って取り組んでくれる。
- **教員**「皆さんは、首都直下地震が発生したら、何人の人を救えると 思いますか?」

生徒「1人くらい…?」「助けられるかな…?」

教員「これまで大きな地震が起きるとトイレを我慢するために、食事や水分を控えて体調を崩したり、命を落とす人もいました。だから今日、皆さんが、地域の方たちに災害時のトイレ問題について説明することが、多くの人の命を救うことに繋がるかもしれません。だから、自分の言葉で考えて、伝えてみてください。」

課題

・地域との連携の場合、学校行事との兼ね合いで生徒の参加が叶わないことは、今後も出てくる。今回を好事例として、多様な参加方法を今後も模索していきたい。

★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体(関係者)について

関係者の名前・団体名	①法人格 砧町自治会 ②世田谷区砧まちづくりセンター	
	③(公財)東京都公園協会砧公園サービスセンター	
関係者の説明	①学校近隣の自治会で、積極的に防災活動に取り組んでいる。防災の	
	素晴らしいアイディアをいくつも実践しており、本校でも参考にさせ	
	ていただいている。また、2016年に本校の生徒が行った防災ワーク	
	ショップをきっかけに、災害時のトイレの啓発活動にも取り組み、研	
	修会の企画や携帯トイレの地域への普及活動等を行っている。	
関係者の連絡先	HP: http://www.houzinnkakukinuta.com/	
★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ		
伝えたい相手	ご協力くださった皆様	
伝えたい内容	本校だけでは実現できなかった企画でした。様々なアイディアを出し	
	合い、力を合わせると大きな力が生まれると思いました。	

記入日	2019年1月5日 (2019年度のチャレンジプラン)
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校
実践番号 (団体内・年度内の通し番号)	24 (地域との連携③)
タイトル	あなたはそれでも準備しませんか?
	―「どっきり一言カード」大作戦!
	(炊き出し訓練の列に並ぶ人の自助意識を高める工夫)
実践担当者のお名前	京(社会科)
実践にかかった金額	1000 円未満(カード印刷)
実践の準備にかかった時間	数十分
実践活動を実施した日時	2019年11月22日作成→2019年12月7日配布
実践の所要時間	15 分(1 人あたりの作業時間)
実践の運営側で動いた人の人数	1人(カード作成に協力した生徒は 23 人)
防災教育の対象者の属性	中学生・地域住民・防災関係者
防災教育の対象者の人数	約 100 人(=カード配布枚数)
実践を行った都道府県と市区町村	東京都世田谷区
実践を行った具体的な場所	都立砧公園 ねむのき広場
★実践に必要だった特定の能力を	「どっきり一言カード」
持った人・物品・ツール・知識等	

達成目標	【目的・目標】
	・防災イベントでふるまわれる炊き出しカレーと共に、生徒の防災一
	言アドバイスを集めた「どっきり一言カード」を配布することで、
	地域住民の防災意識をちょっと高める。
	・炊き出し訓練に並んだ人が「災害が起きたら、同じようにここに並
	べばいいんだ」と勘違いすることを防ぎ、むしろ「今日の帰りに早
	速スーパーに寄って、必要なものを探してみよう」と思って行動し
	てもらえることを目標とする。
	【背景・経緯】◆炊き出し訓練による「防災の誤謬」!
	・イベントにおいて「食べ物」は魅力的な出し物であり、防災イベン
	トにおいても集客力を高める。しかし、以前、地域で行われた炊き
	出し訓練では、たまたま通りかかった人がどんどん列に並んでカレ

	ーだけを受け取る様子か	があった。「災害が起きたら、こうやって炊き
	出しを受けられる」とい	いう防災依存心を高めているように見えた。
	・1 学期に実施した中 3 <i>の</i>)防災化授業 【実践番号 10 】で、生徒が地域
	住民の自助意識を高める防災イベントの企画を提案した。その中	
	に、「炊き出しの食べ物と一緒に、メッセージカードを付ける」とい	
	うアイディアがあり、本	プランとして採用した。
どの力を身につけよ	知識・技能	少し
うとしましたか?	思考力・判断力・表現力	かなり
	学びに向かう力・人間性	かなり

(1)カード作成の流れ

- ① 生徒による防災イベントのアイディアの提案(1 学期実施)
- ② **一言カード案の作成**(授業時間数に余裕のあった 1 クラスが協力)
- ※公民的分野の授業内での位置づけは、「行政権の拡大・行政改革」の 単元において、防災の行政依存の問題に関連させて。

授業 <u>プ</u>リント

いつか来るその日のために・・・

普段から自分で備える意識を広めよう!

12月7日の砧公園での防災フェスタでは、1学期に皆さんが提

案したアイディアが色々と採用されることになりました! その中の1つが、昨年はただカレーを配っただけの炊き出し訓練で、食べ物と一緒に「一言カード」を配るというもの。 読んだ人が、「炊き出しの列に並べばいいや、と思い込んでいたけれど、そうではなく、自分や自分の大切な人のために自分で備えよう!」「今日の帰りに早速スーパーに行ってみようかな」と思うような「メッセージのアイディア」を提案してください。(いくつでも!)メッセージやデザインなどを提案してください。

東京では電気・ガス・水道がストップするような地震が起きた時、 どんなことが起きると思いますか? 想像してみよう! Ω

③ 砧公園の職員による投票

- →得票数が多いフレーズをそれぞれの生徒に清書してもらった。
- ※生徒のメッセージは、割とストレートで遠慮のないものもあるので、配布して支障のないものを、イベントの主催者にも選んでもらった。防災活動において、言葉の選び方で誤解されるリスクは避けていきたい。

Û

④「どっきり一言カード」の作成

生徒の手書きメッセージをスキャナーで取り込んで、カードを作成 した。砧公園職員から、パソコンで打つよりも生徒の手書きの方が 良いとアドバイスをいただいた。

(2) イベント当日

赤十字婦人部担当の炊き出しコーナーで、配布していただいた。

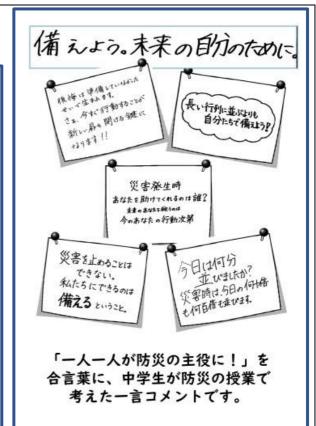






▼配布したカード





得られた成果

- ・短い作業時間にも関わらず、ミッションの内容を掴み、ユニークな 一言がたくさん出てきた。
- ・生徒のアイディアが実際の形になり、達成感があった。イベントに 直接は参加できなくても、このような貢献の方法があることを知 り、新たな社会参画の経験になった。
- ・初めての試みだったが、面白い取り組みになったと自負している。

どのくらい身につき ましたか? 知識・技能少し思考力・判断力・表現力かなり学びに向かう力・人間性かなり

課題・苦労・工夫

工夫

・生徒の手書きのメッセージをそのまま使ったので、親しみの持てる カードになったと思う。「子ども・若者には大人を動かす力がある」 と感じているが、このような形でも子ども・若者ならではの良い影 響を生むと思った。今後も、このような子どもたちの力を活かすア イディアを考えていきたい。

苦労

・当日は、雨天のため、人出は少なかったが、今後も引き続き、機会 を見つけて「どっきり一言カード」を作成・配布していきたい。

記入日	2019年月日(2019年度のチャレンジプラン)	
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校	
実践番号(団体内・年度内の通し番号)	25 (地域との連携④)	
タイトル	「私たちにできること」忘れない思いをカタチに Vol.3	
	(書道部による 3.11 追悼イベントのための大型作品・竹	
	灯篭作り)	
実践担当者のお名前	伊藤(書道科主任)・須藤(書道部顧問)	
実践にかかった金額	3万円未満(材料・送料)	
実践の準備にかかった時間	数時間	
実践活動を実施した日時	2019年12月上旬~2020年2月下旬	
実践の所要時間	36 時間	
実践の運営側で動いた人の人数	3人	
防災教育の対象者の属性	中学生・高校生(書道部部員)	
防災教育の対象者の人数	15人	
実践を行った都道府県と市区町村	①東京都世田谷区 ②宮城県亘理郡亘理町	
実践を行った具体的な場所	①目黒星美学園中学高等学校 書道室	
	②山元みんなのとしょかん敷地(追悼イベント会場)	
★実践に必要だった特定の能力を	大型作品:大型作品用書道用紙(9.5M×2本)、墨汁、イ	
持った人・物品・ツール・知識等	ベントカラー/竹灯篭用イラスト:プラスチック障子紙、	
	マジック、クレヨン	
h-		

達成目標	【目的・目標】	
	2020年3月11日に宮城	県の山元町で行われる追悼イベントの会場に
	展示する大型の書道作品を作成する。書道部部員が言葉やデザインを	
	一から考えて、協力して完成させる。	
	【背景・経緯】	
	被災地ボランティア研修で繋がりができた山元町の町民の方から、作	
	品の作成を依頼され、今回で3年目の取り組み。	
どの力を身につけよ	知識・技能	大いに
うとしましたか?	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	大いに

依頼

山元町の追悼イベントの実行委員から作品の依頼を受ける

Û

作成

- ①書道部員で話し合い、作品の構図と言葉を考える
- ★中心となる言葉:「光を灯す 心に灯す」
- ②学年ごとのメッセージを考える

学年ごとに懸命に言葉を選び、ふさわしい表現か先輩からアドバイス を受けながら推敲を重ねる。

③作品を作成する(2作品作成)





④竹灯籠作り

プラスチック障子紙を使用して、竹灯篭用のイラストも、同時並行で 作成した。

Û

⑤校内報告 (1/18)

学校行事の中で、全校生徒の前で作品と活動について紹介する。 全校生徒が被災地に心を向け、関心を持つ機会にもなっている。



 $\hat{\Gamma}$

⑥現地へ送る→2020年3月11日に追悼行事の会場に展示される

◀参考:以前の様子

(2018年3月11日撮影)

得られた成果

チャレンジ!書道部ならではのスキルを活かして被災地に貢献する

- ①生徒各自が真剣に取り組み、書いて表現し、追悼イベントに作品を 通じて参加できる経験は、指導者としては、この上ない教育活動で あると考えている。やり直しのきかない大型作品なので、失敗でき ない緊張感とプレッシャーも書道の学びとなる。
- ②生徒がオリジナルのメッセージを考え、心を込めて作品を作成した。書道部ならではの活動で貢献することで、自らのスキルを活かして社会に貢献する意識を持つことができた(=プロボノの体験)。
- ③被災地ボランティア研修に参加経験のある生徒から、参加経験のない生徒に経験を伝える機会になっている。書道部は、希望者制の「被災地ボランティア研修」への参加率が毎回、高い。部員が被災地研修に参加していたことから、この作品作りの依頼を受け、さらに作品作りを通じて下級生が関心を持ち、参加に繋がる良いサイクルが生まれている。活動を継続するのは簡単なことではないが、「思い」が先輩から後輩に受け継がれるのが、本校の防災教育・被災地支援活動の良い点であると自負している。
- ▼完成した今年度の書道作品



どのくらい身につき	知識・技能	大いに
ましたか?	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	大いに

課題・苦労・丁夫

工夫

課題

本プランは、「時間が経ってから、現地の二一ズに合わせて活動する」という方法があるという「防災『支援』教育」にも繋がる。今回の事例を授業でも、紹介していきたい。本校では、「支援する側」の防災教育の必要性にも着目している。災害発生直後に、闇雲に子どもたちの作品やメッセージを送ることは、「支援物資のミスマッチ」に繋がる可能性があり、課題と捉えている。

記入日	2019年12月27日(2019年度のチャレンジプラン)
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校
実践番号(団体内・年度内の通し番号)	26 (地域との連携⑤)
タイトル	「どうせ助からない」を減らすために
	(地域交流会での生徒によるミニ防災講座)
実践担当者のお名前	京(ボランティアクラブ顧問)
実践にかかった金額	ほぼ0円
実践の準備にかかった時間	数十分
実践活動を実施した日時	①2019年7月16日14時00分~16時00分
	②2019年12月17日14時00~16時00分
実践の所要時間	5~10 分(2 時間のイベントの一環として)
実践の運営側で動いた人の人数	①4人 ②1人 (指導した生徒数)
防災教育の対象者の属性	中学生・高校生・地域住民
防災教育の対象者の人数	①約50人 ②約40人
実践を行った都道府県と市区町村	東京都世田谷区
実践を行った具体的な場所	学校近隣の団地集会所
★実践に必要だった特定の能力を	(知識)東北福祉大学考案の「エコノミークラス症候群予
持った人・物品・ツール・知識等	防体操(愛称:さんあい体操)」
	https://www.tfu.ac.jp/gensai/image/economi-taisou.pdf

達成目標	【目的・目標】
	・災害に対して「諦めの意識」を持つ住民に対して、生徒が明るく防
	災について、呼びかけることで、少しでも前向きに防災に取り組ん
	でもらえることを目指す。
	・この経験を通じて、生徒自身がエコノミークラス症候群予防の知識
	と技能を身につけ、主体的に行動する態度を養う。
	【背景・経緯】
	①宮城県の私立学校教員から、東日本大震災を経験して、分かったこ
	ととして、「地域との連携が無ければ、災害は乗り越えられない」と
	いうアドバイスを受ける。

=	⇒現状としては、公立に比べて、私立学校は地域との関係が薄くなり
	がちであるため、校内の防災対策を進めるのと同時に地域との連携
	も模索してきた。その実践の中で、「災害時の連携」を目指すのであ
	れば、「普段からの繋がり」が必要であることに気づき、防災以外で
	も地域との交流の機会を増やしている。

- ②地域住民と交流する中で、生徒から「防災の話題を出したら、『災害が起きたら、私は助からないから諦めている』『備えても災害が来たらどうしようもないから…』と言われた」という報告があった。
- ⇒被害想定が大きい沿岸部に限らず、学校の近隣でも「住民の諦め」 意識が課題であることが浮かび上がった。

どの力を身につけよ
うとしましたか?

知識・技能	かなり
思考力・判断力・表現力	かなり
学びに向かう力・人間性	かなり

実践内容・方法



定期的に本校の生徒が参加している地域住民との交流会の中で、生徒による「ミニ防災講座」の時間をとらせてもらっている。

今年度の交流会では、エコノミークラス症候群を予防する「さんあい体操」を実践している。

体操の前に、生徒がエコノミークラス症候群や備えることの大切さについて説明してから、実践している。

得られた成果

- ・温かい雰囲気の中で、参加者全員で楽しく明るく体操ができた。
- ・初めて体験する生徒も多いが、「一緒に体験する」「自分たちが教える側になる」という経験を通じて、しっかりと身体を動かす様子が見られた。実践しながら、身につけることができた。

どのくらい身につき ましたか?

知識・技能 かなり

思考力・判断力・表現力かなり学びに向かう力・人間性大いに

課題・苦労・工夫



・短い時間の取り組みなので、どの程度、住民の意識改革や行動変容 につながっているかは分からないが、少なくとも明るい印象作りに は貢献できていると思う。また、参加した生徒自身の意識向上と技 能習得には確実につながっている。

記入日	2019年1月10日 (2019年度のチャレンジプラン)
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校
実践番号(団体内・年度内の通し番号)	27 (校外・被災地での防災学習①)
タイトル	歩いて感じて考えよう!修学旅行で行く熊本城復興ツアー
	(熊本での修学旅行における「災害スタディツアー」)
実践担当者のお名前	青木(キャリア教育)・雪城(高2主任)
実践にかかった金額	非公開 (個別にお問い合わせください)
実践の準備にかかった時間	数時間
実践活動を実施した日時	2019年5月11日13時00分~14時00分
実践の所要時間	1時間
実践の運営側で動いた人の人数	15 人:教員(7)・旅行会社(2)・ガイド(6)
防災教育の対象者の属性	高校生
防災教育の対象者の人数	約80人
実践を行った都道府県と市区町村	東京都世田谷区
実践を行った具体的な場所	目黒星美学園中学高等学校
★実践に必要だった特定の能力を	防災ツアーのガイド
持った人・物品・ツール・知識等	

達成目標

【目的・目標】

本校では、5月上旬に九州での修学旅行を実施している。例年、最終日に熊本城と阿蘇山を見学する行程を取っていたが、2016年4月の熊本地震の影響で、熊本のコースを中断していた。昨年から熊本をコースに戻し、新たに「災害スタディツアー」として実施した。

【背景・経緯】

本校では、熊本地震発生直後、生徒が立ち上がり、1万7000回分の 携帯トイレを作成して現地に送り、益城町の方から、「在宅避難で途方 に暮れていたときに届いて、とても助かった」というご連絡を頂くと いう経験をした。多くの生徒が、早朝から作業を行い、修学旅行に行 けなくなった当時の高校2年生も、修学旅行の事前研修に使うはずだ った時間を使って、作業を行ったり、募金活動を行ったりした。修学 旅行に行った現高校2年生は、当時中学2年生として一連の活動に携

わった。 以上のような背景があり、関わりを持った熊本市を実際に目で見る学 習を行わせたいと考えた。送って終わりではなく、その地域を実際に 訪れることで、活動に継続性を持たせる機会とした。また、「現地にお 金を落とすという支援の形にもなる」というアドバイスも受け、昨年 度より、熊本にルートを戻すことになった。 どの力を身につけよ 知識・技能 かなり

うとしましたか?

思考力・判断力・表現力 少し 学びに向かう力・人間性 かなり

実践内容・方法

(1)企画

修学旅行をコーディネートしている旅行代理店に、防災学習コースを 含めたプランの提案を依頼した。

観光ボランティアガイド「(一社) くまもとよかとこ案内人の会」をご 紹介いただいた。

(2) 当日

①被災直後のドローン空撮映像と CG による熊本城再現映像を視聴 (@城彩苑わくわく座)

Û

②復元途中の熊本城の見学(ボランティアガイドの案内で、熊本城西 側の外壁沿いを歩き、天守閣を遠目から見学するコース)





得られた成果	・空撮映像では、言葉が出ないほど衝撃を受けていた。		
	・生徒たちは積極に関心を持って説明を受けたり、質問をしたりして		
	いた。がれきを見て、当時を思い出している様子だった。		
	・宮城県での「被災地ボランティア研修」は希望者制であるが、本実		
	践では、学年全員が被災地を訪れて学ぶ経験を持つことができるの		
	がメリットである。		
	・災害スタディツアーを通じて、実際に現地を歩くことで、地震の爪		
	痕を実感し、一人一人が防災意識を高めている。		
どのくらい身につき	知識・技能	かなり	
ましたか?	思考力・判断力・表現力	少し	
	学びに向かう力・人間性	かなり	
課題・苦労・工夫	・災害スタディツアーは、	昨年度からの企画のため、内容は、旅行代	
苦労・課題	理店に相談しながら試行錯誤している。効果的な事前学習も併せて		
	課題である。		

記入日	2019年1月4日 (2019年度のチャレンジプラン)
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校
実践番号(団体内・年度内の通し番号)	28 (校外・被災地での防災学習②)
タイトル	生徒が「参加したくなる」被災地での防災学習の工夫
	一第 16 回被災地ボランティア研修《概要編》
	(生徒の多様なニーズと活動先の現状に沿う研修の工夫)
実践担当者のお名前	京(被災地研修企画担当)
実践にかかった金額	約 150 万円(バス借上・宿泊・食事・保険・印刷・謝礼・
	その他活動にかかる費用)
実践の準備にかかった時間	数日
実践活動を実施した日時	①宮城での研修: 2019 年 7 月 22 日~7 月 24 日
	②事前事後活動:2019年5月~9月
実践の所要時間	①3 日間 ②10 時間
実践の運営側で動いた人の人数	5人
防災教育の対象者の属性	中学生・高校生
防災教育の対象者の人数	38 人(高 1・2 の希望者)
実践を行った都道府県と市区町村	①宮城県亘理町・仙台市・塩釜市・東松島市・名取市・石
	巻市 ②東京都世田谷区
実践を行った具体的な場所	①宮城県東松島市:東松島市役所・野蒜市民センター・防
	災体験型宿泊施設KIBOTCHA/石巻市:南浜のビニールハ
	ウス(NPO こころの森)・カリタスジャパン石巻ベース・
	南浜つなぐ館・こどもセンターらいつ・石巻ニューゼ・パ
	ン工房パオ・いしのまき元気いちば/仙台市:元寺小路教
	会会議室/亘理町:荒浜中学校 体育館と校舎・鳥の海ふれ
	あい市場
	②目黒星美学園中学高等学校 マリアホール、砧公園
★実践に必要だった特定の能力を	マンホールトイレの普及活動に取り組む東松島市役所職員
持った人・物品・ツール・知識等	他、宮城県内で様々な活動に取り組む個人や団体・移動手
	段(大型バス借り上げ)と宿泊場所

達成目標 【目的・目標】 試行錯誤しながら手作りで企画する中で、目標や目的を柔軟に変えな がら、活動を継続している。現在の主な達成目標は以下の通り。 (1)防災学習を通し、生徒自身の防災意識を高める機会とする。宮城で の学びを自分たちの住む地域(首都圏)に還元する意識を育てる。 (2)宮城での活動では、「知る」ことを重視し、その上で自分たちにで きる活動を行う。その中で「自分に出来ることは何か」を考える。 (3)復興の現状を直接知ることで、自分たちが災害に直面し、当事者に なったときに、長期的視点で復興に貢献できる視点を持つ。 (4)一人一人が研修を作るという自覚を持ち、主体性を持って参加する ことで、より良い研修を作り上げる。その中で、失敗も糧にする。 (5)学外の様々な人との出会いと関わりを通じて、生徒のコミュニケー ション能力を高め、学びに向かう力を育てる。 (6)宮城県の魅力を知ってもらい、交流人口を増やす。(実践担当者の 出身地であり、この目標も企画継続のモチベーションになっている。) 【背景・経緯】 東日本大震災発生後、生徒から「東北に行って、何かできることをし たい! という申し出があったことがきっかけで、2012年3月から年 に2回、研修を実施している。 どの力を身につけよ 知識・技能 大いに うとしましたか? 思考力・判断力・表現力 大いに 学びに向かう力・人間性 大いに 実践内容・方法 企画の立て方 イメージとしては、以下の表を埋めて、パズルを完成させる感覚。 1日目 2 日目 3日目 朝 朝食 朝食 午前 一移動一 活動 3 活動 5 尽 昼食 昼食 昼食 午後 活動 1 活動 4 **—移動—** 活動 2 ふり返り 夜 夕食・宿泊 夕食・宿泊

〇下見と打ち合わせ(4月末~5月GW中・6月末)

1回目は「活動探し」、2回目は「具体的打ち合わせ」を行った。

募集〜出発までの流れ

①参加者募集(4月下旬)…高1・2に募集要項を配布

過去最高の60人以上の応募があったため、初めて参加者の選抜を行った。(志望理由書とくじ引き)

②オリエンテーション(5月~7月)

お昼休み(15分)を使って、係決めや連絡等を行う。

- ③事前研修(7月中旬~下旬)
- (1)プレゼンテーション講座
- (2)防災公園でのマンホールトイレ組み立て体験(砧公園)



研修当日

7月22日(月)

マンホールトイレ組み立て体験と研修(東松島市)被災地取材を続ける新聞記者による研修 火災発生による避難訓練 防災教育体験宿泊施設キボッチャに宿泊

7月23日(火)

東松島市長表敬訪問(寄附を渡す)

NPO 法人こころの森のビニールハウスでの作業 コース別研修(地域住民との交流会・まちづくりに取り 組む団体のワークショップ・新聞社訪問・語り部)

7月24日(水)

百理町立荒浜中学校との交流会



参加者が多く、試行錯誤して企画をしたが、全体的に満足度の高い研修になった。多い生徒では5回連続で参加し、卒業してからも続けて宮城を訪れる生徒もいる。多感な中高生が参加したくなるプログラム作りの経験をさらに一歩深めることができた。天候になかなか恵まれず、屋外の活動で苦労した場面もあったが、生徒たちは前向きに活動に取り組み、それぞれが防災意識を高めていた。

どのくらい身につき	知識・技能	大いに
ましたか?	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	大いに

課題・苦労・工夫

〇多様な関心・ニーズに応える工夫

参加者が多い分、研修に期待するものもそれぞれであることから、活動への関心が高まるように、各コースにネーミングをつけた。

ボランティアコース

…カリタスジャパン石巻ベースでの地域住民との交流会

新聞発信コース&復興支援ビジネスコース

…石巻日日新聞が運営する石巻ニューゼの見学と震災講話 手作りパン工房パオの訪問

まちあるき未来コース

…公益社団法人 3.11 みらいサポートいしのまきの震災学習プログラム (語り部と歩く 3.11) を利用

復興まちづくりコース

…ISHINOMAKI 2.0 での研修 こどもセンターらいつでのまちづくりワークショップ

Oアンテナを張った情報収集が企画のカギ

本校では、旅行代理店に頼らずに企画しているため、常に情報収集を している。常にアンテナを張って情報収集をし、ニュースやインター ネットなどで気になる情報を見つけたら、すぐに連絡してみるという 行動力が、企画に結びつく。

〇「学習」と「活動」のバランスの苦労

「目に見えて満足感の得られるボランティア活動をしたい」というニーズが生徒の中にあるが、実際は短期間で生徒の出来ることは限られている。生徒の思いを大切にしながらも、現実も伝えるようにしている。数日の活動の中で一喜一憂するのではなく、何ができるか考える第一歩にするように指導している。一方で、活動先のニーズに応じながら、生徒が地域に貢献できる活動の機会も常に探している。

〇失敗こそチャンスの視点転換

生徒が張り切って活動しようとしても、失敗したり、思うようにいか

ないこともある。「うまくいかなかった時」に教員はすかさず「良かったね!」と声がけをして、生徒の視点の転換を図るようにしている。 生徒が失敗をバネに大きく成長する姿を見ることも、教員の活動継続 のモチベーションになる。また、「過去の先輩の失敗」を予め公にする ことで、生徒に望ましい活動態度について考えてもらっている。

〇活動の意義の模索

「なぜ、東京の女子中高生を被災地に連れて行くのか」、自問自答しながら企画を続ける中で、前述したような「達成目標」が見えた。以前、教員は「どのくらい生徒を被災地の役に立たせられるか」を意識しがちであった。発想を転換し、「いつか被災する可能性のある生徒が学ぶ機会」「生徒が自分がこれから何をすべきか、何ができるかを考える第一歩になる活動」と位置づけたところ、腑に落ちるものがあり、企画しやすくなった。単に「研修」として受け身にならないように「ボランティア研修」という名称にしているのも工夫の一つである。

★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体(関係者)について		
関係者の名前・団体名 みやぎ教育旅行等コーディネート支援センター		
関係者の説明	宮城県へのボランティアツアーの円滑な実施や震災の経験についての	
	学習・研修を目的として宮城県を訪れる観光の支援を行っていくこと	
	を目的に、宮城県が設置しているセンター。学校の旅行目的に合わせ	
	て、様々な情報提供やご提案、サポートをしてくださいます。実践担	
	当者が、年に2回の研修実施に難しさを感じていた一昨年、「東北教	
	育旅行セミナー」で知り合い、サポートを受けて無事に研修が続けら	
	れています。	
関係者の連絡先	https://www.pref.miyagi.jp/site/kankou/shien-center.html	
関係者の名前・団体名	「東北教育旅行セミナー」主催: (一社)東北観光推進機構	
関係者の説明	学校と旅行会社を対象としたセミナーで、東京では例年、7月下旬に	
	開催されています。「"こころ"と"いのち"の教育旅行・東北まなび	
	旅」をキャッチフレーズに、事例発表や学習メニューの情報などを豊	
	富に仕入れることができ、非常に有益です。	

記入日	2019年12月28日(2019年度のチャレンジプラン)
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校
実践番号(団体内・年度内の通し番号)	29 (校外・被災地での防災学習③)
タイトル	防災「支援」教育―東松島市に寄付を届けよう
	(東松島市長表敬訪問・寄付贈呈式)
実践担当者のお名前	京 (社会科・防災係)
実践にかかった金額	ほぼ0円(寄付金は別)
実践の準備にかかった時間	数十分
実践活動を実施した日時	2019年7月23日9時00分~10時00分
実践の所要時間	60分
実践の運営側で動いた人の人数	9人:教員(5)・東松島市役所職員(4)
防災教育の対象者の属性	中学生・高校生
防災教育の対象者の人数	38人
実践を行った都道府県と市区町村	宮城県東松島市
実践を行った具体的な場所	東松島市役所 会議室
★実践に必要だった特定の能力を	
持った人・物品・ツール・知識等	

達成目標

【目的・目標】

生徒が自らの活動(学園祭の収益や募金活動)で得た寄付金を、繋がりのある自治体や団体に直接お届けすることで、達成感を得ると共に、被災した地域への意識や関心の持続を図る機会とする。また、お預かりした寄付金を届ける役割を担うことで、責任感を持たせる。場合によっては、目的を定めた寄付をすることで、寄付の使い道にも関心を持つ。「支援教育」の一環として、本プランを位置づける。

【背景・経緯】

日本では、寄付文化がまだまだ根づいていないと言われるが、ミッション校である本校では、募金や物の支援をする文化が根付いている。 その一方で、「良いこと」であるという認識があっても、どこに送るか、実際にどのように役立てられているのかといったところまで生徒は意識していないこともある。

どの力を身につけよ	知識・技能	かなり
うとしましたか?	思考力・判断力・表現力	少し
	学びに向かう力・人間性	かなり

実践内容・方法

(1) 本プランの内容

毎年、被災した地域への支援を学園祭の意向

マンホールトイレの活動で繋がりができた東松島市に、本校の学園祭 の収益 (昨年度のもの) をお届けした。

(2)贈呈式のプログラム

東松島市側で贈呈式を企画してくださり、生徒にとっては貴重な社会勉強の機会となった。

- 1. 生徒代表による挨拶
- 2. 寄付金贈呈…2018 年度学園祭収益の一部をマンホールトイレの整備のために寄付
- 3. 東松島市 市長・教育長挨拶
- 4. 記念撮影
- 5. 閉会





- ・今年度の学園祭実行委員の生徒から寄付をお渡しした。
- ・渥美市長からは、東松島市の復興の現状や取り組みについて、お話 をお伺いした。

得られた成果	・直接、感謝の言葉をいただいたことで、今年度の学園祭で頑張るモ		
	チベーションが高まった。		
	・防災「支援」教育の一環として、		
	良い活動のサイクルが実	現	
	できた。		
	学び・活動・ 支援のサイクル▶	学園祭の収益が 活動の意義が分 東松島市のマン かる・関心を持 ホールトイレの 続する・活動を 整備に役立つ 続ける	
		東松島市の皆さんと共に マンホールトイレを組み 立てる・共に考える	
	【メディア等への掲載】		
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		巻かほく」「石巻日日新聞」に贈呈式様子や	
.	生徒のインタビューの記事が掲載された。		
	▼「市報 ひがしまつしま	2019 年 8 月 15 日号」p.7 に掲載	
	http://www.city.higashimats	ushima.miyagi.jp/index.cfm/1	
	6、16677、c、html/16677/20190813-165946.pdf		
どのくらい身につき	知識・技能	かなり	
ましたか?	思考力・判断力・表現力	かなり	
	学びに向かう力・人間性	大いに	
課題・苦労・工夫	・学校側からの挨拶や寄付	の贈呈を生徒の代表に任せた。このような	
工夫	機会のときには、教員はバックアップに回り、できるだけ生徒を主 役にしている。		

★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体(関係者)について		
関係者の名前・団体名	東松島市役所 小田島 毅 氏	
関係者の説明	東日本大震災でマンホールトイレの運用を担当した。現在は、東松島	
	市の危機対策専門員を務め、マンホールトイレの啓発・普及活動のた	
	め、各地で講演や指導を行っている。	
関係者の連絡先	東松島市役所:TEL 0225-82-1111(代表)	

記入日	2019年1月16日 (2019年度のチャレンジプラン)
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校
実践番号(団体内・年度内の通し番号)	30 (校外・被災地での防災学習④)
タイトル	わくわくしながら、防災研究の最先端に触れよう!
	(防災科学技術研究所での中 1 防災社会科見学)
実践担当者のお名前	京 (社会科・防災係)
実践にかかった金額	30万円未満(主に交通費(バス借り上げ・高速代))
実践の準備にかかった時間	数時間
実践活動を実施した日時	2019年11月16日10時00分~15時00分
実践の所要時間	5 時間
実践の運営側で動いた人の人数	23 人: 防災科学技術研究所(15)・教員(9)
防災教育の対象者の属性	中学生
防災教育の対象者の人数	約 70 人
実践を行った都道府県と市区町村	茨城県つくば市
実践を行った具体的な場所	防災科学技術研究所
★実践に必要だった特定の能力を	生徒の発表を聞いてくださる専門家(防災科研)、授業・ワ
持った人・物品・ツール・知識等	ークショップ用教材(プリント・パワーポイント、映像資
	料)、文具(模造紙・付箋・プロッキー・コピー用紙)、・見
	学地までの交通手段(大型バス 2 台借り上げ)

達成目標【目的・目標】

入学後、初めて防災の授業を受ける中1が、防災に関するアイディア・提案を自ら考え、社会科見学で専門家の前で発表する。防災に対する生徒自身の抵抗感を無くすこと、及びコミュニケーション能力の向上を目指す。限られた授業時間数で実践を行い、効果を上げる。

【背景・経緯】

昨年度に続き、防災教育チャレンジプランの実践校として、防災科学技術研究所にご協力いただいた。元々実施していた社会科見学に「防災の視点」を入れるようになった。防災社会科見学は、中1の生徒が受ける最初の防災授業であり、以下のような目標を立てて、防災教育の初期の段階で、生徒の意識の転換を目指している。

 ①防災は「大人から教えてもらうもの」「誰かにやってもらうもの」ではなく、「自分で考えるもの」「私自身が行動するもの」と捉える。

 ②生徒が持つ防災に対するマイナスのイメージや抵抗感を取り払う。

 ③様々な視点を取り上げることで、「1つの答えを覚える」ではなく、「多様な防災選択肢を持つことが大切」という認識を持つ。

 ④自らの考えを発信する面白さを経験し、学びの意義を見出す。

 どの力を身につけようとしましたか?
 知識・技能
 大いに

 ラとしましたか?
 思考力・判断力・表現力
 かなり

 学びに向かう力・人間性
 大いに

実践内容・方法

打ち合わせ

第1回打ち合わせ(7月30日)@防災科研東京会議室 第2回打ち合わせ(11月16日)@目黒星美学園中学高等学校

防災社会科見学当日 午前中は施設見学(2 チームに分かれて見学)

①防災科研紹介 DVD 視聴

▼②地震ザブトン



代表者が体験した。

見ている生徒も様々な揺れの 恐ろしさを実感できた様子だ った。

▼3大型耐震実験施設・4大型降雨実験施設の見学



迫力ある施設に、圧倒されて いた。

▼⑤Dr.ナダレンジャーの自然災害科学実験教室



楽しみながら多くのことを学 んだ。自然災害と、理科への 関心と理解が高まった。

昼食(自然災害情報室で「防災キャンプ」の実物展示を自由見学)

午後は、プレゼンテーションとワークショップ ⑥生徒からのプレゼンテーションと防災ワークショップ









前半の生徒からの防災プレゼンテーション【**実践番号 05**】は、代表の6チームの生徒が発表した。後半のワークショップは生徒全員が、グループに分かれ、防災科研の研究員・専門員の方がそれぞれのグループに入って下さった。40分と時間が短かったため、慌ただしくなったが、全員に発言のチャンスがあったので、良い経験となった。

防災ワークショップについて

今年度、本校のアドバイザーを担当してくださった三浦先生からいただいたアドバイスや情報を基に、教員が、生徒が話やすい(慣れている)ミッションの形にして、パワーポイントを作成した。特に、「避難」について生徒が考え、理解する機会とすることを目指した。

①「まさ家!族」を動かそう ※災害への危機感が薄いことを、生徒に分かりやすく「まさ家!族」とネーミングした。

▼ワークショップ用のパワーポイント

「まさ家!族」を動かそう!

次のような3人の人がいます。 まずは、発言に注目してください。

てきとうおにいさん



え〜? 大雨? 大丈夫だっ て。**今まで何とかなった**じゃ ん。ニュースで騒いでるだけ でしょ。うちの辺りは平気平 気。**まさか自分が被害にあう** なんて、ありえないねー。

いらいらおねえさん



もしどこかに避難しても、何 もなかったら大げさだし恥ず かしいじゃない。みんなが 行ったら私も行くからそれで いいでしょ。わざわざ自分か ら行くなんて時間の無駄よ。

あきらめおじいさん



ワシはもう年寄りだし、体を 動かすのも大変じゃ。避難所 に**行っても迷惑**だし、家の周 りには川もある。**どうせ助か らない**から家におることにす るよ。放っておいておくれ。

「まさ家!族」を動かそう!

どうでしょうか?

どうすればこのような人たちが、 ①あらかじめ住んでいる場所の危険性を自分で確認し、 ②災害時に安全を確保してくれるようになるでしょうか。

「まさ家!族」を動かそう!

話し合いスタート (10分)

今まで何とかなった。まさか自分が被害にあうなんて。

大げさだし恥ずかしい。みんなが行ったら私も行く。

4行っても迷惑。どうせ助からない。

①あらかじめ住んでいる場所の**危険性を自分で確認**し、 ②災害時に**安全を確保**してくれるようになるか。

プラス「全員が避難所に行く」のも困ります。 以上を踏まえて、楽しいアイデア・素敵なアイデアを!

- ▲付箋にどんどんアイディアを書いて、模造紙に貼っていった。
- ②未来の防災を考えよう「当然、全員安全確保!」
- ▼模造紙にペンで一人ずつ宣言を書き込んでいった。

未来の防災を考えよう!

皆が次のように考えて行動する社会が理想です。 まずは、発言に注目してください。

誰でもしっかりぼうさい



防災?当然やっています! 自分のために備えるのは 当たり前だよね! 誰もが「未来の被災者」に なる可能性があるからね! 備えあればうれいなし!

誰もが早めに安全確保



猛烈な台風が近づいているから、**今回も私は早めに親戚の家に避難しよう**。前回は何事もなくて良かったけど、こういう時は必ず避難だよね。

未来の防災を考えよう!

こんな未来を実現するには?

①こんな社会を実現するために、できることを考えよう。②「誰かがやること」でなく「私にできること」を考えよう!③小さなこと、身近なアイディアでOK。

得られた成果

- ・最先端の研究に触れると共に、生徒は自分で考えて発信する経験もあり、充実した社会科見学になった。防災科研の方が生徒たちの活動に温かくご協力くださったことで、生徒たちの防災に対する主体性と意識が高まった。知識と理解を深めることもできた。
- ・昨年度、防災社会科見学を経験した生徒から、台風 19 号の後に「防 災の活動に取り組みたい」と申し出があった。時間が経ってから経 験や学びが活きてくることがあると改めて分かった。

どのくらい身につき ましたか?

知識・技能大いに思考力・判断力・表現力かなり学びに向かう力・人間性大いに

課題・苦労・工夫

- ・「新たに水害学習を含む授業づくり」「今年度ならではのミッション」「プレゼンテーション指導」「当日ワークショップ案」と新規に考える企画が多く、教員の準備時間が足りなくなり、特に直前は慌ただしく準備することになってしまった。企画のノウハウの活用と、教員間の状況共有・協力体制を早めに確立することが大事。
- ・学校外の協力者の方に、教育方針(=生徒自身の学びのために、大人が「教えよう」ではなく、「生徒のアイディアを聞きたい」という姿勢を持つこと)へのご理解とご協力をお願いする。「ご協力くださる大人」を探すことは、企画を継続する上での課題である。

記入日	2019 年 12 月 28 日(2019 年度のチャレンジプラン)
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校
実践番号(団体内・年度内の通し番号)	31(防災講演会①)
タイトル	新聞記者になって防災講演会を聴こう
	―生徒を主体的態度で講演会に参加させるヒント
	(災害対策課講演会「熊本地震支援と世田谷区の防災」)
実践担当者のお名前	亰 (社会科)
実践にかかった金額	1000 円未満(プリント印刷)
実践の準備にかかった時間	数時間
実践活動を実施した日時	2019年5月14日10時40分~11時30分
実践の所要時間	50分
実践の運営側で動いた人の人数	1人
防災教育の対象者の属性	中学生
防災教育の対象者の人数	約 70 名
実践を行った都道府県と市区町村	東京都世田谷区
実践を行った具体的な場所	目黒星美学園中学高等学校 4階多目的室
★実践に必要だった特定の能力を	被災地支援の経験を持つ行政職員、プリント、同じイベン
持った人・物品・ツール・知識等	ト(防災や被災地に関するもの)を取り上げた 2 本の新聞
	記事、新聞の書き方についての資料

達成目標	【目的・目標】
	・被災地支援活動を経験した行政職員の講演を聞くことで、実際の被
	災直後の状況を知り、イメージを持つ。行政職員の仕事についても
	理解を深める。
	・防災講演会に参加する生徒が、より主体性を持って話を聴く態度を
	持てるように、工夫を行う。今年度は、「新聞記者となって記事を書
	く」というミッションを設定することで、講演会の学びをより良い
	形でアウトプットすることを目指した。
	【背景・経緯】
	・防災講演会は、防災教育においてよく行われる手法であるが、「生徒
	が受け身で聞いてしまう」様子がしばしば見られることが課題であ

+	/4 \ = #### ##_A	
	学びに向かう力・人間性	かなり
うとしましたか?	思考力・判断力・表現力	大いに
どの力を身につけよ	知識・技能	かなり
	直接お願いしたことがきっかけで、授業にご協力いただいている。	
	震支援報告があった。その報告を聴き、ぜひ生徒にも聴かせたいと	
	に地域の避難所運営本部	3の集まりに参加した際に、職員から熊本地
	・本プランは、今年度で 3	3回目の実践。授業担当者が、2017年3月
	は新たにミッションを設	定することで、課題解決を図った。
	る。そこで、例年、行っ	ている防災講演会の実施にあたり、今年度

実践内容・方法

(1)事前準備・打ち合わせ

- @(公財)東京都公園協会砧公園サービスセンター(4/23)
- @世田谷区役所危機管理室災害対策課(4/25)
- ・毎年、事前に、1時間程度の打ち合わせを行っている。
- ・例年、生徒が受け身で聞くだけになることを防ぐために、生徒への 問いかけを多めに入れることをお願いしている。
- ・今年度は新たに、公民的分野の「地方自治」の学習およびキャリア 教育の一環として、「行政の仕事のやりがいや魅力」についてのお話 も加えることを依頼した。

(2) + a 新聞記事を書こう

- ①新聞の書き方講座…新聞の基本的な書き方について学習した。
- ※授業づくりの参考として、以下の動画を参考にした。

模擬授業ムービー「プロの記者が教える記事の書き方・見出しのつけ 方 一NIE 入門講座 模擬出前授業」 https://nie.jp/movie/movie01.html



②新聞の読み比べ

同じ講演会について書かれた2本の記事を読み比べることで、講演会 を取材した記事の書き方を学ぶ。

③防災 de 一石二鳥♪

「記事の読み比べ」には、東日本大震災の語り部をしている若者によるトークイベントについての記事を取り上げた。事例として使用する 記事をできるだけ防災関連のものから選ぶようにしている。 $\hat{\Gamma}$

新聞記事に対して、「事実を書き出したもの」「事務的な硬い内容」というイメージを持つ生徒もいる。このような作業を通じて、新聞記事が単に「事実を書き出したもの」ではなく、記者によって同じ話題でも違った記事になることを体感でき、メディアリテラシーの理解が深まった。

(3) 当日の流れ

30 分 講演会

メモを取りがら熱心に聞く 様子が見られた。



熊本地震の避難所の状況と 世田谷区の災害対策について



令和元年5月14日(火) 世田谷区危機管理室災害対策課

- 1 熊本地震の被災状況、避難所の様子
- 2 熊本地震で浮かびあがった課題
- 3 世田谷区の主な災害対策
- 4 世田谷区の災害対策での課題
- 5 目黒星美学園の生徒の皆さんに

◀講演

スライド

育みたい ^{防災あたり前} 感覚

育みたい「防災あたり前感覚」

☑「熊本地震の支援中に、一番嬉しかったのは、『ありがとう』と言われたことだった」という話題を入れることを毎年リクエストしている。災害対策について行政に対する期待が大きい分、実際の災害発生時は、住民からの不満が出やすい状況になることが予想される。だからこそ、平時からのこういった学びは重要であると考える。災害に直面した時はなかなか難しさもあるかと思うが、「少しでも良い環境を作る配慮をしよう」という意識は、普段から育てておきたい。

工夫

5分 質疑応答 「質問がある人」と言っても、自主的にすぐ質問が出てくることは少ない。そこで、以下の2つの工夫をすることで、質問タイムの活性化を図っている。

①「ざわざわタイム」を取り、周囲の人と話し合って、必ず3つ以上質問を考える。

② 講師の方にクラスと番号(出席番号)をランダムに挙げてもらい、 該当する生徒に質問をしてもらう。

 $\hat{\Gamma}$

当たった生徒からは「災害時のペット問題」についての質問が出た。 多くの生徒も関心を持っている様子だった。

⇒教員は、「質問したからこそ、分かったことですね!」と質問したこ とを褒めて、質問することへのポジティブな環境作りに努める。

5分 砧公園職員からのコメント

砧公園サービスセンター職員もご参加くださり、5分程度お話いただ いた。防災公園である砧公園の役割についてのお話に加えて、「生徒の アイディアを楽しみにしている」ということも一言加えてくださった ことで、生徒のモチベーションアップにも繋がった。

得られた成果

事後課題として、講演会についての新聞記事を作成した。

▼生徒の書いた新聞記事

大規模な被害をもたらし

う時のために、日頃から準備 しなければいけない。いざとい の課題が浮かび上がった。災害 が起きた場合、我々は、自助、 熊本地震を通じて、たくさん 題等を語った。

公助を心にとめて行動

がある。 りの人の身の安全まで守れる てくる。また、一人一人が周 ように防災意識を高める必 山の課題が浮かび上がった。 熊本地震で避難所に関して

意識することが重要になっ

本地震の避難所を訪れた、世本地震の避難所を訪れた、世間谷区危機管理室災害対策理、近、熊本地震で最も大観測した、ここ最近で最も大観測した、ここ最近で最も大観測した、ここ最近で最も大観測した、ここ最近で最も大地域で被害をもたらした。災地域で被害をもたらした。災地域で被害をもたらした。災地域で被害をもたらした。災地域で被害をもたらした。災地域で被害をもたらした。災地域で被害をもたらした。災地域で被害をもたらした。災害対策。 地震の避難所を訪れた、二〇一六年四月に起きた **所を訪れた、世四月に起きた熊**

が重要になってくる。 準備し、自分で処理すること

自分の必要な分だけの食料を るべく生ゴミを出さないよう、 落とす危険性も出てくる。 かかったりすると、

最悪命

なを

において食中毒や感染病に

一の生ゴミが

.発生した。

衛

が救われることで、より多くの人りがなることで、より多くの人 活動として、トイレの衛生管部屋を作ったり、ボランティア決案で、女性を優先にとした きた場合、誰かに助けてもら 理などが必要になってくる。 る。これらの問題に対する解 少数や環境汚染による不便さ る場所がないことや、トイレの もって生活するべきであると、 などが問題に挙げられてい 点での悩みとして着替えをす 世田谷区で、もし災害が また、避難所内で女 、害対策課職員は話した。 側ではなく、 常に防災に対する意識 自ら行動でき 性の 起 視 とし

面量は、 るゴミに関 山の人が集まるため て、 ける 避 難 問 所 内で 題。 避難 発 生 生大所

日頃から備えるべき! に対する防災意識

未来の被災者を

世 田谷区 私が救う

世田谷区の災害対策」につ本地震の避難所の状況と学校の生徒に向けて「熊十四日、目黒星美学園中 かした。 び上 て、自身の感じた思いをあ 課職員は熊本地震で浮か いて講演した。災害対策 対世 田 がった課題を踏まえ 策 谷 、課に勤める職員が 区 危 機管 理室災

平成二十六年に決めの受け入れを行うの

成二十六年に決定

し

その家族に対して避難

と難を所

わし乳幼児や妊産婦及びは、世田谷区と協定を交

に、さまざまな課題が浮した。避難所を訪れた際住民のために熱心に活動 生徒もいた。れ、積極的に 職員として赴き、地域の前に発生した熊本地震に 真剣に聞くようすが見ら演の内容をメモしながら 実現した。生徒たちが講世田谷区のコラボ授業が 災害対策課職員は三年 積極的に質問をし [谷区のコラボ授業が黒星美学園中学校と

ことでなければいけないうための活動は、大きなない。未来の被災者を救れは今日起こるかもしれ は計り知れない。 パーセントもある現在、 ことになるかもしれない。 て考えるだけでも、もし 地震が起こる確率が七十 かすると自分自身を救う わけではない。災害につい え、活動している。 三十年以内に首都 人一人が自助・共助・公 の意識をもつて生活す 直 そ

る 目 黒星

区では対策を進めていことについて考え、世田谷 しての 配 慮が足りなかった

・教員が期待する以上に、生徒は良い記事に仕上げていた。「感想文」 の場合は、比較的似た内容の感想が集まることが多いが、「新聞記 事」は、生徒がどのような話題に注目し、どのような学びを得たの かがはっきり分かるものになった。

一体となって過ごしやすの視点を取り入れ、学校た。女子中学生ならでは

い避難所とはなにかを考一体となって過ごしやす

どのくらい身につき	知識・技能	かなり
ましたか?	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	大いに
	悪字ヘル サオップレビ	シー・シーンを問いてくださるさんの「笠

目黒星美学

課題・苦労・工夫

かび上がっていた。なかで

工夫

・講演会は、生徒のプレゼンテーションを聞いてくださる方との「顔 合わせ」の機会にもなる。プレゼンテーションの相手の顔が見える とイメージが湧き、その後のワークショップへの生徒の参加姿勢が より良いものとなる。

★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体(関係者)について	
関係者の名前・団体名	世田谷区危機管理室災害対策課 職員
関係者の説明	2016年4月に熊本地震が発生した際に、世田谷区から最初の応援と
	して現地に派遣された経験を持つ職員の方。
関係者の連絡先	TEL 03-5432-1111(代表)

記入日	2019年1月2日 (2019年度のチャレンジプラン)
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校
実践番号(団体内・年度内の通し番号)	32(防災講演会②)
タイトル	新聞記者と考える「私が伝える意味」
	(第 16 回被災地ボランティア研修)
実践担当者のお名前	京(研修企画担当)
実践にかかった金額	非公開 (個別にお問い合わせください)
実践の準備にかかった時間	数時間
実践活動を実施した日時	2019年7月22日19時30分~20時30分
実践の所要時間	1時間
実践の運営側で動いた人の人数	6人:講師(新聞記者)(1)・引率教員(5)
防災教育の対象者の属性	高校生
防災教育の対象者の人数	38人
実践を行った都道府県と市区町村	宮城県東松島市
実践を行った具体的な場所	KIBOTCHA(キボッチャ)研修室
★実践に必要だった特定の能力を	被災地での取材経験を持つ新聞記者、その記者が書いた新
持った人・物品・ツール・知識等	聞記事

達成目標【目的・目標】

- ・東日本大震災発生直後から、現地での取材活動を重ねる新聞記者の 方との対話を通じて、「伝える意味」を考え、生徒なりの答えを模索 する機会とする。
- ・「話を聴く」活動であっても、受け身ではなく、主体的に学びを深めるために、積極的に質問する姿勢を持つ。
- ・新聞を読む習慣のない生徒も多い中で、新聞記者の方のお話を伺う ことで、新聞そのものや記者の仕事、また新聞の果たす役割に関心 を持つ機会とする。(キャリア教育)

【背景・経緯】

・これまで16回、宮城県での被災地ボランティア研修に引率する中で、自分に何ができるのか悩む生徒の心の揺れ動きを見てきた。同

時に、教員にとっても、「東京の中高生を連れてくる意味」を考え続 ける期間でもあった。 ・何度か研修を実施する中で、多くの生徒が共通で見出すキーワード が「伝える」であることに気づいた。 ◎生徒と「伝えること」 ①今の自分にできる一番のことは「伝えること」と気づく ②自分が見聞きしたことを「伝えたい」という強い思いを持つ ③実際には周囲になかなか「伝わらない」というもどかしさを感じる Ú この点に気づいてから、被災地研修の企画にあたって、被災経験を持 つ方の体験談だけではなく、日々「伝える」ことに取り組むマスコミ の方からお話を聞くプログラムを積極的に取り入れるようになった。 どの力を身につけよ 知識・技能 かなり うとしましたか? 思考力・判断力・表現力 かなり 学びに向かう力・人間性 かなり 震災後から石巻市に取材に入り、宮城の若者を温かい視点で書いた記 実践内容・方法 事や、ご遺族を丁寧に取材して寄り添った記事を書き続けている新聞 記者の方をお招きし、お話を伺った。 研修の流れ:研修内容については、事前にメールや直接の打ち合わせ を通じて、相談した。 ①事前研修 お話を聴く記者の方が出演している動画を視聴する。 →あらかじめ「質問」を考える。 まいもく(72)「東日本大震災8年 語り部の思い」 https://video.mainichi.jp/detail/video/6013829379001 ②研修当日 「悲しみを伝える意味」と「『私』が伝える意味」の2つのテーマで、 生徒と対話しながら、お話してくださった。また、ご自身が書かれた 記事の紹介と共に、震災取材のきっかけや取材する時に大切にしてい ること、被災地取材の難しさといったことも、お話くださった。

▶研修の様子

参加した生徒たちは、真剣 に話を聞いて、深く考えて いる様子だった。

③生徒活動の取材

荒浜中学校との交流会を取

材して、記事にしてくださった。

毎日新聞宮城版 2019/7/27 掲載



亘理の中学生 東京の高校生と防災学習

避難所運営で意見を交換『自分から動かないと』

得られた成果

- ・研修 1 日目の夜に本研修を実施したことで、その後のプログラムにおいて、生徒たちに積極的に相手の話に耳を傾けて、質問しようとする姿勢が見られた。
- ・「外から入って当事者の方からお話を聞いて発信する」という新聞記者という立場が、生徒が活動の中で自ら自覚していく「自分自身の役割」と合致する部分があり、生徒たちは共感しながら話を聴いていた。
- ・講師の問いに対する参加者の答えが、人によって違っていたことか ら、多様な考えを知る機会となった。

▼生徒の感想文より

何度かこの研修に参加して感じたのは、私たちに話をしてくださる方達は、二度とこんな思いをしたくない、他の人がこんな思いをして欲しくない、ということを伝えたいと思っている、ということです。このことを広く伝えるためにも、話を聞いた人達はその人なりに、ご遺族や被災者の声を伝えることが重要だと思います。伝えることについて、百武さんや他の生徒の意見も聞くことができて、自分とは違う意見などもあって勉強になりました。

そして、宮城県の魅力も研修を通してたくさん知ることが できたのでまた宮城県に行きたいなと思いました。 百武さんの問いかけの中で、「悲しみを伝える意味とは」というものがありました。お話を聞いた直後は、本当に悲しみを伝えていて、意味はあるのかと答えを出せずにいました。しかし翌日、お子さんを亡くされたご遺族の案内で、実際に自分の足で歩きながら、ご遺族の方のお話を聞きました。そして高台から何もかも消えていってしまった街の姿を見て、本当に見ないと分からないものってあるんだ、と感じました。もし、自分があまりよく被災地の悲しみを知らずにこの景色を見ていたら、また違った、もっと薄い思いしかなかったのではと思いました。そして、悲しみを伝える意味は、伝えているからもっと知りたいと思えるし、伝え続けるから何回聞いてもその悲しみの深さを知り続けることができ、被災者の方が恐れている風化を防ぐことがあると、私は考えました。

私はあまり記者という仕事に関心がなく、どのような仕事か知りませんでしたが、百武さんのお話を聞いて少し分かりました。百武さんのお話の中に「悲しみを伝える意味」というテーマがありました。なぜ伝えるのか。その答えは教訓として残すためだと思います。その教訓を次につなげれば、更に新しい良い世界をつくることも可能になると思いました。また、もう一つのテーマとして「私が伝える意味」というものがありました。これについては、私が伝えることで、普段、新聞を目にしない若者世代に伝えられたり、身近な人から聞く話の方が、相手に伝わりやすくなるかもしれません。被災者ではない私ができること、それは身近な人に伝える

ことです。

今回、百武さんから聞いた話を、私は早速家族に話しました。そこで生まれた色々な話は、伝えなかったら生まれなかった会話であり、共有できなかったものなので、誰かに伝えることの大切さを改めて実感できました。そして前よりもメディアに興味を持つことができました。自分から話しかけにいくのに少し勇気がいりましたが、進路の話やメディアについて直接お話が聞けて、

また一歩、私の中でコミュニケーションするという 目標もできたと思います。



どのくらい身につき	
ましたか?	

知識・技能かなり思考力・判断力・表現力大いに学びに向かう力・人間性大いに

課題・苦労・工夫

苦労

・生徒が研修中に抱いた思いは、日常に戻ると薄れていくものである。それはある意味、仕方のないことなので、教員側は、生徒の伝えたいという思いを形にする機会を作ったり、何かの折に思い出す機会を作ったりする。

工夫

・一方で、教員が期待していた以上に、生徒の中に学んだことや考え たことが残っているものなので、引き続き、生徒の考えを深める研 修を企画していきたい。

課題

・確かに得たこと・感じたことが様々あっても、なかなかうまく表現できない様子も見られる。そういった生徒の表現力を高める工夫は、今後の課題である。

★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体(関係者)について	
関係者の名前・団体名	毎日新聞社 百武信幸記者
関係者の説明	東日本大震災発生直後から、石巻市に取材に入った。2015 年から宮
	城県石巻通信部。宮城県の若者を温かい視点で捉えた毎日新聞の記事
	を見つけて、学校から新聞社に連絡したことがきっかけとなり、
	2015年から本研修に度々、ご協力いただいている。
関係者の連絡先	

記入日	2019年1月10日 (2019年度のチャレンジプラン)
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校
実践番号(団体内・年度内の通し番号)	33(防災講演会③)
タイトル	防災の専門家をお招きして、防災について聴こう!知ろ
	う!考えよう!(中1防災の専門家による講演会)
実践担当者のお名前	大柳(中1主任)・亰(社会科)
実践にかかった金額	1000 円未満(プリント印刷)
実践の準備にかかった時間	数時間
実践活動を実施した日時	2019年10月16日15時05分~15時45分
実践の所要時間	40 分
実践の運営側で動いた人の人数	9人:防災科研研究員(1)・学年及び社会科教員(8)
防災教育の対象者の属性	中学生(1年生)
防災教育の対象者の人数	約 70 人
実践を行った都道府県と市区町村	東京都世田谷区
実践を行った具体的な場所	目黒星美学園中学高等学校 マリアホール
★実践に必要だった特定の能力を	防災科研のパンフレット、講演会資料
持った人・物品・ツール・知識等	
h	

達成目標

【目的・目標】

- ・防災学習を始めたばかりの生徒が、1か月半後に研究者の前で防災 について、自分たちのアイディア・提案をプレゼンテーションする 防災社会科見学【実践番号 30】の一環として、本プランを実施し た。
- ・講演会を取り組みの中間に挟むことで、前半の講義型の授業から、 後半のワークショップ型の授業に移る中間点で、本プランを実施す ることで、前半は防災に対して受け身の生徒が、後半は、主体性を 持って話し合う転換点とする。(次ページの図参照)

【背景・経緯】

中1の生徒は、防災教育の初期段階(9月下旬)においては、防災そのものに対しても、防災学習に対してもネガティブな印象かつ受け身 意識を持っている場合が多い。11月中旬に実施する防災社会科見学に 向けて、短期間で視点の転換を図り、ポジティブかつ主体的な態度を 持たせるために、インパクトある工夫を必要とする。

→【実践番号 06】参照

▼本プランの取り組み全体における位置づけ



- 中学に入って、最初の防災教育の授業を受ける
- ●防災に対して、受け身・ネガティブな姿勢を持つ

講演会

- •研究員と対面することで社会科見学に行く自覚を持つ
- ◆社会の課題を知り、一人一人が考える必要性に気づく



- ●答えのない問いに、ミッションとして取り組む
- ●一人一人が主体性を持って、話し合う

どの力を身につける	ょ
うとしましたか?	

知識・技能	大いに
思考力・判断力・表現力	少し
学びに向かう力・人間性	かなり

実践内容・方法

準備・打ち合わせ

- ①社会科見学を含めた打ち合わせ
 - @防災科学技術研究所東京会議室(7/30)
- ②メールでの打ち合わせ(随時)
- ③当日打ち合わせ(授業前)

Û

特別授業当日

「私たちの住む社会と防災を考える

~これまでの災害とこれからの防災~」

【講演会の内容】

- 1. 今年の災害から分かったこと
- 2. 災害が起こる度に言われることは?
- 3. 「さいがい」と「ぼうさい」の違いは?

- 4. 避難をしようとしない人を説得するには?
- 5. この5年の災害の傾向は?
- 6. 来年のオリンピック・パラリンピックで想定される災害は?
- 7. 未来の防災を考えてみよう
- 8. 防災だけでない防災 備えて楽しむ



得られた成果

チャレンジ!生徒を活動の主役にするターニングポイントにする。

- ・講演会は 40 分と限られた時間ではあったが、内容が充実していて、 学ぶことが多くあった。
- ・社会科見学で訪問する防災科研の研究員の方から、直接お話をお伺いしたことで、その後の取り組みに対する生徒たちのモチベーションが飛躍的に上がった。
- ・台風 15 号・19 号の被害状況の調査を踏まえた最新のお話を伺うことができた。被災地域の写真を見て、状況を知ることができた。
- ・三浦先生から、実際の防災の現場で課題となっている事例を生徒への問い(クイズ)の形で、提示していただいた。このことにより、生徒が、答えのない問いに対して、解決策を考えるきっかけを得ることができた。
- ・台風 15 号の被災地域の様子など最新の情報を知ることができた。
- ・日本だけではなく、地球温暖化を含め、地球レベルのお話があり、 視野を広げることができた。
- ・「備えて楽しむ」をテーマに、防災キャンプやキャラクターを使った

	啓発活動等、防災科研のユニークな取り組みを知り、その後のワー クショップのヒントになった。	
	クショックのCクトにな 	\ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \
どのくらい身につき	知識・技能	大いに
ましたか?	思考力・判断力・表現力	かなり
	学びに向かう力・人間性	大いに
課題・苦労・工夫	・工夫としては、学校外の協力者に、本校の防災教育の方針(=生徒	
	自身の学びのために、「教えよう」ではなく、「生徒のアイディアを	
	聞きたい」という姿勢を大人が持つこと) へのご理解とご協力をお	
	願いしている。	
	・今回、講演会の位置づけをワークショップに向けて、生徒が主体的	
	参加者になるターニングポイントとし、三浦先生のご協力の下、十	
	分に狙いが達成できた。	
	・一方で、教育視点から見ると、大人の「子どもたちに教えてあげよ	
	う」という意識が強い故に、生徒の防災に対する姿勢を受け身にし	
	てしまう防災講演会や研修会も、これまでしばしば目にしてきた。	
	教員は防災については、詳しくないとしても、教育と受け持ってい	
	る生徒の性質については	は詳しいはずである。防災講演会を実施する
	際に、教育面からのお願	いや打ち合わせを、思い切ってすることは
	大事ではないかと考える	0.

★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体(関係者)について		
関係者の名前・団体名	国立研究開発法人 防災科学技術研究所(NIED)	
	防災情報研究部門 主幹研究員 三浦 伸也先生	
関係者の説明	防災情報研究部門主幹研究員であり、防災教育チャレンジプラン実行	
	委員の先生。今年度、本校のアドバイザーとして、プラン実施のため	
	のご助言やご協力、また防災教育に有用な様々な情報提供をしてくだ	
	さった。	

記入日	2019年1月7日 (2019年度のチャレンジプラン)
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校
実践番号(団体内・年度内の通し番号)	34(防災講演会④)
タイトル	(中1 防災社会科見学 事前学習)
実践担当者のお名前	大柳 (中1主任)・亰 (社会科)
実践にかかった金額	非公開 (個別にお問い合わせください)
実践の準備にかかった時間	数時間
実践活動を実施した日時	2019年11月9日11時00分~11時30分
実践の所要時間	30分
実践の運営側で動いた人の人数	10 人:外部講師(2)・教員(8)
防災教育の対象者の属性	中学生(1年生)
防災教育の対象者の人数	約 70 人
実践を行った都道府県と市区町村	東京都世田谷区
実践を行った具体的な場所	目黒星美学園中学高等学校 マリアホール
★実践に必要だった特定の能力を	防災に取り組む企業(特に生徒に身近な業務を担っていた
持った人・物品・ツール・知識等	り、ユニークな取り組みが見られる企業)

達成目標

【目的・目標】

防災社会科見学**【実践番号 30】**の事前学習一環として、実施した。防災に工夫したり、楽しく取り組んだりすることで、社会に防災を浸透させる試みをしている企業の方のお話を伺うことで、生徒の視野を広げ、生徒の持つ防災のイメージをネガティブから、ポジティブへと転換を図る。防災に様々な形で関わっている人・企業の存在を知ることで、生徒の社会的な視点を増やす。

【背景・経緯】

10月にぼうさいこくたい 2019 に参加したことがきっかけで、緊急地震速報のアプリ等の開発を行う「アールシーソリューション株式会社」の企業活動を知った。「ゆれくるコールのうた」を web 上で見つけ、ユニークな視点で防災に取り組む姿勢に共感した。丁度、中1の社会科見学の事前学習とキャリア教育を兼ねて、お招きする講師を検討していたこともあり、講演を依頼した。

どの力を身につけよ	知識・技能	かなり
うとしましたか?	思考力・判断力・表現力	少し
	学びに向かう力・人間性	かなり

実践内容・方法

事前打ち合わせ

講演会テーマ:「ゆれくるコール」と防災・減災ソリューションの取組

- ・「ゆれくるコールのうた」の動画
- ・「あめふるコール」普及に向けた工夫
- ・緊急地震速報「ゆれくるコール」の普及の経緯
- ・会社の技術が社会の中で役立っている事例
- ・防災マンガを掲載する『ちゃぐりん』の紹介
- ・生徒へのメッセージ

Û

- ・質問タイム
- ・生徒から『携帯トイレ』のプレゼント





◀「ゆれくるコールのうた」から講演会スタート

ユニークなラップ調の歌に、生徒たちは楽しそうに聞き入っていた。歌やマンガを使って、防災に楽しく取り組む思いや工夫についてお話しくださった。

⇒ **《学びの効果》**実際の社会の最前線で、思いを持って防災に取り組む方との出会いを通じて、「防災に取り組むことへの前向きの印象づけ」ができたと思う。

◀「あめるふコール」の技術と普及のための工夫

アプリの技術と仕組みに加えて、多くの人に使っても らうための工夫やコツについてお話くださった。

⇒ **《学びの効果》**役立つアプリ開発だけではなく、普及するための工夫も必要である点は、生徒たちが取り組んだ「防災イメージアップ大作戦」に共通するところがあり、興味深そうに聞いていた。



◀「ゆれくるコール」の説明と、普及の経緯

東日本大震災のあとに、役立つアプリとして、口コミ で急速に広まった経緯をお話しくださった。減災とい う言葉がまだまだ一般的ではなかったころから、開発 に乗り出していたお話は、「社会の課題を見つけて解決 策を考える力」が求められる現在の教育とも結びつく お話だった。

⇒ **《学びの効果》**いち早く社会の必要性を見つけて行動することの大切さを学ぶと同時に、社会の変化の中で思わぬ形で発展・普及することがあることを学んだ。生徒は、防災社会科見学に向けて、「防災をどのように広めていくか」について考えるワークショップを経験していたので、その経験に繋がるお話だった。

▲生徒へのメッセージ

最後のまとめに、生徒たちが普段からできることのヒントをくださった。災害時に声がけできる関係をつくるために、普段のあいさつを大事にすることなど、身近で実行できることを挙げてくださったことで、生徒からは「やってみようと思った」といった感想が上がった。



得られた成果

◀生徒からのプレゼント

生徒が、その日作成した携帯トイレを記念にお渡した。「直接お渡しして喜んでいただく」という場面を作ることで、生徒たち自身の中で、 携帯トイレの活動に対するイメージアップに繋がる効果がある。

明るく楽しい雰囲気で、講演会が行われ、生徒も教員も学ぶことの多い講演会となった。

◎生徒が自らの取り組みを再評価するきっかけに

講演会は、生徒に自らの取り組み(ミッション)の意義を理解させる効果があった。つまり、生徒は自分たちが考えてきた「どうすれば防災のイメージアップを図れるか」という課題(ミッション)に対して、企業活動を通じて同じ課題に取り組んでいる方の講演を直接聴く、という貴重な経験を通じて、自らの取り組みにも社会的意義があると意識できた。

◎生徒の思考が深まる

防災を広めるにあたって成功事例ばかりでなく、苦労していることや 工夫して課題を克服したといったお話もしてくださり、生徒は考えた り、試行錯誤したりするプロセスの重要性についても、学ぶことがで きた。また、「企業活動を通じて、社会に貢献する」という公民的視点 を得ることもできた。

【実施報告】

①目黒星美学園中学高等学校 HP(2019/11/27)

http://www.meguroseibi.ed.jp/tabid/72/Default.aspx?itemid=2111&dispmid=390

②(株)アールシーソリューション HP 講演情報

https://www.rcsc.co.jp/meguroseibi

どのくらい身につき ましたか? 知識・技能かなり思考力・判断力・表現力大いに学びに向かう力・人間性大いに

課題・苦労・工夫

◎講演時間を 30 分に設定

工夫

他の行事の後であったこともあり、生徒の集中力を考慮して、「30分」という時間設定にした。講演会にしては短い印象かもしれないが、長い時間をとって、生徒の興味が薄れるよりも、30分で集中して濃いお話を聴くのも効果的であると感じた。ただし、講演者の理解と協力が必要になる。

★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体(関係者)について		
関係者の名前・団体名	アールシーソリューション株式会社 代表取締役社長 栗山 章 氏	
関係者の説明	「防災・減災ソリューションで人と社会の安心・安全に貢献する。」	
	を経営理念とする会社。「減災」という言葉が一般的ではなかった頃	
	から、開発のキーワードに取り上げて、IT を活用して様々なサービ	
	スをリリースしてきた。	
関係者の連絡先	HP: https://www.rcsc.co.jp/	

記入日	2019年12月23日(2019年度のチャレンジプラン)
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校
実践番号(団体内・年度内の通し番号)	35 (災害時のトイレ問題①)
タイトル	子どもたちをあっという間に主役にする
	ツールとしての「魔法の携帯トイレ」活用術
	(中1の学年活動における「携帯トイレ」作成事例)
実践担当者のお名前	大柳(中1主任)・亰(防災係)
実践にかかった金額	30~50円(1個当たりの材料費)
実践の準備にかかった時間	数十分
実践活動を実施した日時	2019年11月9日10時30分~10時50分
実践の所要時間	20分(携帯トイレ1個の作成時間は5分程度)
実践の運営側で動いた人の人数	13 人:教員(7)・生徒(6)=クラス委員
防災教育の対象者の属性	中学生(1 年生)
防災教育の対象者の人数	約 70 人
実践を行った都道府県と市区町村	東京都世田谷区
実践を行った具体的な場所	目黒星美学園中学高等学校を各クラス教室
★実践に必要だった特定の能力を	携帯トイレの材料(説明書・吸水ポリマーシート・黒い 20L
持った人・物品・ツール・知識等	ポリ袋・臭断袋・結束バンド・透明封筒(OPP 袋))

達成目標

※最初の防災教育で何を取り上げるか、第一印象は重要である。本校の生徒が主体的に行動するようになる上で、効果的であったことから、1つのアイディアとして「携帯トイレ」を挙げる。本項目では、「魔法の携帯トイレの普及活動」の概要について述べ、「実践報告・内容」では、の具体的事例として、中1の学年活動を報告する。

【目的・目標】

- ・本校が考案した「魔法の携帯トイレづくり」を通じて、生徒が「災 害時のトイレ問題」に関心を持つと共に、防災活動に対しての主体 的な態度を養う。
- ・「魔法の携帯トイレ」の作り方をマスターし、次は校内外で作り方を 教えられるスキルを身につける。

【背景・経緯】

〇防災教育の入り口としての効果

2012年に交流している宮城県の中学校の被災した旧校舎で、3.11 当日の体験談を聞いた。「避難者が多くいた校舎では、深刻なトイレ問題が発生し、卒業式のために飾ったペーパーフラワーをトイレットペーパー代わりに使った」という体験談を聞いたことがきっかけとなり、本校で防災活動を始める際に、最初に着目したのが「災害時のトイレ問題」であった。

〇どうやって年頃の女子中高生(=未来の災害弱者の可能性)に、 災害時のトイレ問題に向き合わせるか

トイレを心配して水分や食事を控えてエコノミークラス症候群にかかるのは女性の割合が高いという点を、女子校である本校にとって、生徒が当事者になり得ることから重要視した。実際、備蓄品として携帯トイレを揃えたものの、「生徒は抵抗感を持って、使いたがらないのではないか」と心配になった。ハード面だけではなく、ソフト面(災害時に水分を控えることは危険であること、深刻なトイレ問題が発生することを知っていること)

〇生徒の「防災減災想像力」を刺激する

防災教育において、災害について想像させること が重要であることが指摘されている。しかし、実 際の現場では、災害が起きた時のことをイメージ



させようとしても、生徒自身が恐怖心を持ち、なかなか想像を広げよ うとしない様子が見られる。

そこで、最初は、生き残った後のことである「トイレ問題」を取り上げることで、災害について想像する心理的ハードルを下げる。「これまでの災害で、水分を控えて体調を崩す人が多くいた」という課題の解決策を考えることで、「防災は答えを教わって覚えるのではなく、想像して皆で考えるもの」という「防災あたり前感覚」を持たせる。

生き残った後のことを積極的に考えさせることで、「どうせ災害が起き たら助からない」という思考を持つ余地を無くし、長期的視野で考え る土台をつくる効果もある。

どの力を身につけよ	知識・技能	かなり
うとしましたか?	思考力・判断力・表現力	少し
	学びに向かう力・人間性	かなり
実践内容・方法	準備	
	ほとんどの生徒が初めて作	F成するので、教員だけでは、混乱する可能

性があった。前日に、クラス委員を集めて、作成方法を説明した。

- 教員「皆さんは教える側に回って、指導してください。クラスをよろ しくお願いします!」
- ⇒ 作成方法を簡単に覚えられて、すぐに生徒が「防災活動の指導側 (即席リーダー)」になれるのが、本活動のメリット。

当日

教員から作成方法の説明・材料の配布

近くの人とグループを作り、助け合いながら作成する 教員とクラス委員は、適宜、指導やサポートに回る。







黒いビニール袋は、しっかり空気を抜いてから、折りたたむことが、 うまく作るコツだが、空気が残ることも多い。そこで、今回は、作業 を丁寧にする「合言葉」を考えた。小さな工夫だが、生徒のアイディ

アを拾いながら、改善を重ねて いる。

「誰かのために」「役立つよう に」(合言葉)と言いながら、 空気を抜くのがコツです!



得られた成果

- ・1 人 2 個ずつ作成した。1 個は自分のバックに入れて、1 個はイベント等で配るために学校のストックとした。今回作成したものは、社会科見学でお世話になった方たちにもお渡しした。
- 生徒全員が作り方をマスターしたので、次から教える側に回ることができる体制ができた。
- 「携帯トイレ」というツールがあることで、中高生が教えたり、発表したりするチャンスを得ることができる。



どのくらい身につき ましたか? 知識・技能大いに思考力・判断力・表現力少し学びに向かう力・人間性かなり

課題・苦労・工夫

工夫

工夫

工夫

・教員が一人で教えようとすると慌ただしくなるので、即席のリーダ ーを育てると良い。

・中1から「防災はみんなでやること」という体験をすることで、それを「防災あたり前感覚」にしていく。

・「優先すべきは、災害発生時に命を守る学習であり、災害時のトイレ 問題は二の次」というご意見をしばしばいただくことがあるが、前 述した通り、災害発生時のことに向き合わせるための前段階のステ ップとしても、非常に有用である。

★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ		
伝えたい相手	防災教育をこれから始めようと思っている先生	
伝えたい内容	もし「何から始めたらいいか分からない」というときに、「災害時の	
	トイレ問題」はお薦めです!	
	自分たちのアイディアが誰かの命を救うことにつながるかもしれな	
	い、と生徒が自覚した時、生徒の防災減災想像力が、動き始めます。	
	また、見落とされがちな問題である分、地域でも活躍のチャンスが多	
	くあります。	

記入日	2019年 12月 28日(2019年度のチャレンジプラン)	
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校	
実践番号(団体内・年度内の通し番号)	36 (災害時のトイレ問題②)	
タイトル	マンホールトイレ大作戦 in 宮城県東松島市 vol.3	
	(第 16 回被災地ボランティア研修)	
実践担当者のお名前	京(研修企画担当)	
実践にかかった金額	1000 円未満	
実践の準備にかかった時間	数時間	
実践活動を実施した日時	①2019年7月22日15時00分~16時00分	
	②2019年7月22日16時30分~17時30分	
実践の所要時間	① 1 時間 ② 1 時間	
実践の運営側で動いた人の人数	8人:東松島市職員(4)・引率教員(4)	
防災教育の対象者の属性	高校生(1・2年生の希望者)	
防災教育の対象者の人数	38人	
実践を行った都道府県と市区町村	東京都世田谷区	
実践を行った具体的な場所	①野蒜市民センター前のマンホールトイレ設置場所	
	②KIBOTCHA(キボッチャ)研修室	
★実践に必要だった特定の能力を	人材:マンホールトイレの啓発活動を担当する市役所職員	
持った人・物品・ツール・知識等	物品:マンホールトイレおよび備品、ポンプ、軍手	

達成目標	【目的・目標】
	生徒が、自らのアイディアが具現化したマンホールトイレの組み立て
	を経験することを通して、以下のことを目指した。
	①生徒自身の災害時のトイレへの抵抗感を無くす。
	②マンホールトイレ組み立ての技能を身につける。
	③授業で出したアイディアが、実際に社会の中で役立つ経験をするこ
	とで、学びの意義を見出す。
	④マンホールトイレ活用の先進的事例を学び、地域のマンホールトイ
	レと比較したり、普及方法について考えたりすることで、自らの住
	む地域への還元を目指す。

【背景・経緯】

2015年に国土交通省からの依頼で、「マンホールトイレの理想的な環境」について女子校生視点で提案を行った。

※成果は、国土交通省「マンホールトイレ整備・運用のためのガイドライン」に事例として掲載(2015年度版 p.49、2018年度版 p.50)



※写真は、本校の廊下に設置した 生徒のアイディアを具現化したマ ンホールトイレ(2015 年撮影)

⇒宮城県東松島市は、東日本大震災発生時に実際にマンホールトイレを活用した。震災の経験を踏まえて、マンホールトイレ環境の改善を目指す中で、生徒が出したアイディアを参考にしてくださった。このご縁で、昨年から被災地ボランティア研修の一環で、東松島市を訪れ、マンホールトイレの組み立て訓練や、より良い環境作りについて考えるワークショップなどを行っている。今回で3回目。

どの力を身につけよ うとしましたか?

知識・技能	大いに
思考力・判断力・表現力	大いに
学びに向かう力・人間性	大いに

実践内容・方法

(1) マンホールトイレ組み立て体験

(組み立て~片付けで約1時間)

- ・6 基のマンホールトイレとポンプを組み立てた。
- (4 基が女性用・グリーン、2 基が男性用・ブルー)
- ・市役所職員の指示を受けなが ら、倉庫からの運搬、マンホ ールトイレの上屋の組み立て と備品の設置、ポンプの組み 立て、片付けまで、一連の流 れを経験した。









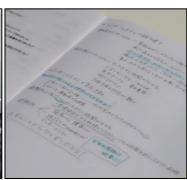
(2) マンホールトイレワークショップ(WS)

WS テーマ:マンホールトイレの普及のために必要なことを考えよう

マンホールトイレは、災害時に有効だと知られているが、まだまだ知られていなかったり、普及が進んでいない地域も多い。そこで、多様な視点から、普及するためのアイディアをグループごとに考えた。







得られた成果

- ・事前研修でもマンホールトイレの組み立てを経験していたこともあり、最初からテキパキ作業を行っていた。倉庫からの運び出しから 片づけまで一連の流れを経験することで、技能が身についた。
- ・生徒は、自分たちのアイディアが具現化して役立っていることを目の当たりにし、達成感を感じていた。「冷たい印象のブルーではない色が良い」「流水音発生装置や防犯ブザーの設置が必要」「自動でつくライトがあると衛生的で安心」といった意見が実現されているのを、実際に見ることで、女性視点・女性に配慮した防災対策への関心がより高まった。
- ・自分たちで考えた防災のアイディアを、次のステップとして、どのように地域に広めるかをワークショップで考えたことで、より「自分に何ができるか」という視点を得ることができた。

▼生徒の感想文より

日頃から学校で災害時のトイレ問題について触れていますが、学校では携帯トイレについて考えることが多く、マンホールトイレの問題は少し新鮮でした。東松島市で組み立てたトイレは「行こう」と思えるトイレでした。しかし、実際に災害時に使用したらどうなるのか、誰が掃除するのか、掃除道具はどこにあるのかなど問題はまだあると思います。その問題を解決するためにも、まずはこの問題を多くの人に知ってもらい、どうすればよいのか一人一人考えることが大切だと思いました。

この研修のマンホールトイレの組み立てで、工夫をすればするほど、良いものになることを知ったので、少しでも多くの工夫を、まずは近くから広めて行ければと思います。

東松島市は、私たちが考えたマンホールトイレのアイディアを採用してくださった場所です。中学生の頃に皆が安全に安心して利用できるものをと提案したので、今回訪問できて、とても嬉しかったです。私たちの提案した音姫やライト、防犯ブザーなどが準備されていて自分たちの考えたことが実現し、誰かの役に立つという喜びを感じました。

マンホールトイレなど、言葉自体を知っていても、それだけでは 役に立たないと分かりました。知識を役立つものとするために、実際に行動してみることの大切さを痛感しました。今回の訪問がいつ か来る地震に備えて、どのように被害を減らしていくか、災害が起こってしまったら、どのように行動するかを具体的に考えるきっかけとなりました。私たち目黒星美学園の生徒はとても防災意識が高く、災害時に何をすべきかを考えることができます。授業で避難所や災害時の問題について考え、触れる機会が多いです。これが他の学校でも当たり前になれば、災害に強い国につながると考えます。

だからこそ、私たちに今何ができて、災害時に 何ができるかを考えていきたいと思います。

どのくらい身につき	知識・技能	大いに	
ましたか?	思考力・判断力・表現力	かなり	
	学びに向かう力・人間性	大いに	
課題・苦労・工夫	・地域の防災訓練では、「ご	大人の男性がトイレを組み立てるのを、子ど	
工夫	もたちは見ている」というケースが多いように思うが、経験やサポ		
	ート、指示があれば、女	子生徒でも無理なく出来る。「自分で組み立	
	てる経験」というのは、	災害時のトイレへの抵抗感を下げ、主体的	
	な防災意識を持つことに	繋がることが改めて分かった。	
工夫	・災害時のトイレ問題の解決には、「ハード=トイレそのもの」の整備		
	も重要であるが、特に女性の場合は「ソフト=トイレに行くことの		
	重要性の認識と行く勇気」を育てることも重要である。この点から も本プランの取り組みは、その両面をバランス良く学べるものだと		
	思う。		
課題	・昨年度から継続の課題であるが、本校で、マンホールトイレを組み立てたのは、過去1回だけなので、定期的な組み立て体験が必要。 再度、学校での取り組みも深めていきたい。本校では、災害時のト		
price.			
	イレの「実際の使用体験」まではできていないのが現状である。東		
	松島市ではお祭りなどの	イベントの際に、設置して住民に体験して	
	もらう取り組みを進めて	いるので、参考にしたい。	

★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体(関係者)について		
関係者の名前・団体名	東松島市役所 小田島 毅氏	
関係者の説明	東日本大震災でマンホールトイレの運用を担当した。現在は、東松島	
	市の危機対策専門員を務め、マンホールトイレの啓発・普及活動のた	
	め、各地で講演や指導を行っている。	
関係者の連絡先	東松島市役所: TEL 0225-82-1111 (代表)	

記入日	2019年1月16日 (2019年度のチャレンジプラン)	
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校	
実践番号(団体内・年度内の通し番号)	37 (訓練①)	
タイトル	リニューアル防災訓練! vol.2 パターン分けでマンネリ化を	
	打破&生徒を真面目に参加させるコツ	
	(全校防災・避難訓練における工夫)	
実践担当者のお名前	安達・浅見(生徒教育部防災係)	
実践にかかった金額	1000 円未満(プリント印刷・訓練用 CD)	
実践の準備にかかった時間	1日	
実践活動を実施した日時	2019年6月18日14時30分~16時30分	
実践の所要時間	2 時間	
実践の運営側で動いた人の人数	15 人:教員(6)・生徒(6)・消防署員(3)	
防災教育の対象者の属性	中学生・高校生・教職員	
防災教育の対象者の人数	約 500 人	
実践を行った都道府県と市区町村	東京都世田谷区	
実践を行った具体的な場所	目黒星美学園中学高等学校 各授業場所・調理室前・体育	
	館・スクールバス (校庭に待機)	
★実践に必要だった特定の能力を	消防署署員、緊急地震速報(訓練用)、病人・けが人力ー	
持った人・物品・ツール・知識等	ド、校舎見回りカード、ダンボール(炎作り)、マジック、	
	スクールバス、スクールバス訓練用 CD、消火器(消防署	
	からの貸し出し)	

達成目標	【目的・目標】
	昨年リニューアルした訓練の第2弾。どう行動すべきか、なぜ避難する
	のかを生徒も教職員も「考える訓練」にすることが目標。従来の訓練
	は、「合図があったら机の下にもぐってから避難」のパターン通り動くだ
	けで、「考える」のが少ないのが課題であった。「考える作業の無いパタ
	一ン化」が、実際に地震が発生した際、揺れている最中に机を探してウ
	ロウロする、慌てて飛び出すといった行動に繋がるのではないかと考え
	た。また学校の防災訓練の在り方が、避難の必要性の有無を考えずに
	「地震が起きたら避難所へ行く」という刷り込みにも繋がると考えた。

【背景・経緯】

- ・従来の「地震の発生→放送で生徒は机の下にもぐる→放送で避難指示
 →校庭へ」というよくあるパターンの訓練の有効性に疑問を感じたことから、昨年度より避難訓練ではなく、「防災訓練」という名称に変更して、内容も刷新した。従来の訓練では受け身の参加姿勢が目立ち、また単に指示されたとおり避難するだけなので「災害が起きたら避難所へ行けばよい」という安易な刷り込みにも繋がっていると考えた。
- ・教員向けの防災研修会等で、「生徒が防災訓練に真面目に参加しない」 という悩みを聞くことがしばしばある。多くの現場が抱えるこの悩み のヒントになる取り組みを目指した。

どの力を身につけよ うとしましたか?

知識・技能	大いに
思考力・判断力・表現力	大いに
学びに向かう力・人間性	大いに

実践内容・方法

(1)事前準備

- ①消防との打ち合わせ: 昨年は、直接消防署を訪れて打ち合わせを行ったが、今年度は時間が無く、電話のみでになった。
- ②全校朝礼で心構えを話す(6/17)

▽生徒を真面目に参加させる話のポイント・工夫

- ●開口一番、「いよいよこの日がやって来ました!」と明るく宣言。真剣に取り組まない場合は、容赦なくやり直しすることも笑顔で告げる。⇒「特別な日が来た」(少なくとも先生はとても張り切っている)という意識と「やり直しは本気だ」という危機感を持たせる。
- ②本来は、いつどこにいるときに災害に遭うか分からないので、その場で取るべき行動を一人一人が自分で「考える」ように話す。
- ⇒教員と生徒間で、「先生は皆さんを助けま…」「せん!」のやり取りを行う。(=本校で生徒の自助意識を高めるために、敢えて行ってる生徒―教員間のお馴染みのやり取り)
- ❸今年度から、防災に対してポジティブ・希望を持たせるため、逆転の視点から、「災害で亡くなる人よりも助かる人の方が多い」「備えれば、助かる確率が高まる・被害が減らせる」ということを強調するようにした。

(2)訓練当日(6/17)

- ・調理室前に段ボール炎を設置する(防災係以外には場所を伏せる)
- ・「けが人」「病人」と症状を書いた用紙を担当の生徒に渡しておく
- ①消防職員による講話・おんぶ紐の使い方確認 (14:30~14:45)
- ②地震発生時の訓練及び避難訓練(14:55~15:50・・・②~8)

パターン1:軽度な地震が発生

緊急地震速報の 30 秒後に地震が来る設定→ (30 秒の間に飛んできそう な物があれば、無理のない範囲で床に降ろす) →各自で身を守る姿勢を 取る (放送は無し) →授業再開の放送

パターン2:強い揺れが発生 ▽**揺れの音も入った CD を作成**

- (1)緊急地震速報が鳴る→各自で身を守る姿勢を取る(放送は無し)
- (2)教員による見回りと報告(職員室にいる教員で「役割カード」を基に 役割分担し、見落としがないようにする)
- (3)各教室では「けが人」「病人」などが発生→担当の生徒・教員は「けが人」「病人」の演技をする。周囲の生徒が教員に報告する。

!!!一旦、地震発生の訓練終了の放送を入れて切り替え!!!

続いて、火災や不審者侵入による避難訓練に移ります。

晴天でも雨天でも「体育館に避難」とする。「どこにいても、一人一人が考えて、真剣に避難できるようにする訓練」と位置付けて、割り切った。また、校庭が地割れ等で避難できないケースも考えられる。生徒には「あくまでも『避難する』訓練。体育館は天井が落ちるかもしれないし、入り口も少ないので、実際は避難先としてふさわしくない可能性がある」ということも強く伝える。

パターン3:火災が発生(今回は、化学室)

- ・教職員は、消火器を持ち、火災現場へ行き、消火活動を行う。
- ・火災発生と避難指示の放送を入れる。
- ・防災係の生徒が、避難する生徒の取り組みの様子をチェックする。
- ③避難状況報告(防災係生徒・教員)→チェックポイントに立った防災 係の生徒から、避難の様子の報告を受け、全校にフィードバックする。
- ④振り返り・講評(防災係教員・消防署職員)

⑤消火器訓練/⑥スクールバス訓練(個別訓練)

スクールバスに乗車しているときに災害が起きた場合の行動を確認した。(名簿チェック、バス備蓄品の確認、非常口の開け方の説明等)

⑦体育館での地震発生時の行動確認→退場

退場時に、天井の一部や、落下物に見立てた段ボールを設置し、お互いに「気を付けて!」といった声がけをしながら戻るようにした。

⑧事後振り返り(クラウドサービスのアンケート機能を利用)

得られた成果

- ・防災科学技術研究所の「防災意識尺度」と、訓練に関するアンケートを実施。生徒から厳しい意見や真面目に取り組めなかった反省等が見られるが、それもまた生徒が主体性を持って参加している結果だと捉えている。今年度は生徒アンケートへのフィードバックも行った。
- ・反省点としては、消防署員からの講評について、「教育」的な効果を狙って講評をお願いしたが、事前の打ち合わせが不十分であったこともあり、教員に対してのマイナスの講評が長く続くという事態が発生した。外部との防災教育の連携においては、相手に防災「教育」の方針を説明し、理解を得ておくことが重要と改めて学んだ。また、抜き打ちの訓練はまだ実施できていないが、生徒からの要望もあるので、今後検討していきたい。

防災訓練の生徒感想・意見と防災減災について考えていること

- ・去年より、真剣に取り組む事ができた。災害が起きたら、やはりみんなで協力しなければならないと改めて思った。 防災訓練は真面目に取り組まないといけないし、いつ災害が起きてもおかしくないので、日頃から冷静な判断ができるようになりたい。
- ・学校での防災減災が進んでも、それは学校にいる間しか適用されない ので、家の防災減災にも取り組むきっかけにしたい。
- ・朝の先生のお話で、災害は必ず死ぬ人より生きてる人の数の方が多い と聞きました。しっかり自分の身は自分で守っていつ災害が起こって もいいようにしたいです。
- ・この学校にいる間に大きな地震が起こらなかったとしても、私が生き ている間には地震は必ず起こるので、この6年間防災訓練で学んだこ

とを忘れずにこれからも生活していこうと思った。

・東京で災害が起こった時に被災地ボランティア等を通して学んだことを生かして率先して動けるような人になりたいです。今回の防災訓練を通して、生徒だけでなく先生も一丸となってさらに防災教育に励むべきだなと感じました。

▼学年問わず、鋭い指摘や要望をする感想も多く見られた。

- ・消防士の方が注意して下さったことは、生徒はもちろん先生方もメモを取るようにした方がいいと思います。 訓練だから、決まった行動をすればいいと思ってしまうと思いますが、生徒も先生も実際に地震や火事が起きていると想像し、自分で考えて行動出来るようにしていけたらいいと思います。
- ・訓練で、意識の差が大きな違いを生むことが感じられました。 学校にいる人全員が当事者意識を持たないと、これからもっと目黒星美を防災に強い学校にすることは出来ないのではないかと思いました。
- ・私たち高校3年生が卒業するまでに、予告なしの訓練をやってほしい。今日は予告ありの訓練だったため、地震がくる時間も、どのように行動するかなどもあらかじめ考えておくことができた。でも、いつか本当に地震や災害が起きた時、今日みたいに動けるかはわからない、むしろ、いくら訓練を真面目に受けていたとしても、本番、訓練通りに動ける可能性は少ないと思う。できれば、1学期に一回くらいのペースで訓練や講習のようなものをしてほしい。

どのくらい身につき	知識・技能	かなり
ましたか?	思考力・判断力・表現力	かなり
	学びに向かう力・人間性	大いに

課題・苦労・丁夫

課題

・来年度は、日程をずらして、もう少し時間に余裕を持って取り組める ことになったので、過去2回の訓練を活かして、実施したい。全校炊 き出し訓練も行いたい。

工夫

・訓練では厳しい講評も受けたが、日常の中での改善や夏の教員研修で の再度の訓練などを行い、その結果を生徒にもフィードバックした。

工夫

・昨年、音響設備がうまく使えなかった反省を活かして、今年度は予め、音量を調節し、効果音(揺れの音)も入れた CD を作成した。

記入日	2019年11月5日 (2019年度のチャレンジプラン)
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校
実践番号 (団体内・年度内の通し番号)	38 (訓練②)
タイトル	知らないは無力!大切な人を、家族を、命を守るための技
	術と心を磨こう! (生徒対象救命講習)
実践担当者のお名前	安達 (養護教諭)
実践にかかった金額	1000 円未満
実践の準備にかかった時間	数時間
実践活動を実施した日時	2019年9月3日12時30分~15時30分
実践の所要時間	3時間
実践の運営側で動いた人の人数	2人
防災教育の対象者の属性	中学生・高校生
防災教育の対象者の人数	38人
実践を行った都道府県と市区町村	東京都世田谷区
実践を行った具体的な場所	目黒星美学園中学高等学校 多目的室
★実践に必要だった特定の能力を	・指導員(消防署に派遣を依頼)
持った人・物品・ツール・知識等	・テキストブック&マウスピース(参加者が購入)
	・レサシアン人形 ・AED

達成目標	①心肺蘇生、人工呼吸、A	ED の使用方法、応急処置について理解し、		
	技術をみにつけることができる。			
	②傷病者対応は、救急隊や	②傷病者対応は、救急隊や医師が行うだけではなく、第一段階として		
	バイスタンダーが行う応急手当が重要だということを理解する。			
	③自分と他者を大切にする、守る術を身につける。			
どの力を身につけよ	知識・技能	大いに		
うとしましたか?	思考力・判断力・表現力	大いに		
	学びに向かう力・人間性	大いに		

実践内容:成城消防署員1名、東京防災救急協会3名、1名の指導の下、普通救命講習テキスト(ガイドライン2015対応)に基づき、レサシアン人形・AEDを使用した心肺蘇生、人工呼吸の演習実施。

実践方法:

① 4月上旬:成城消防署に普通救命講習を依頼。電話で実施希望日と 実施可能かどうかを確認後、「救命講習依頼書」を FAX にて消防署へ 送付。(日時を押さえる)

Û

② 6月下旬~7月上旬:中1~高3の参加希望者を募り、人数が確定したところで消防署へ報告。

Ú

- ③8月下旬:参加者名簿(性別・名簿・生年月日・学校住所)を公益 財団法人東京防災救急協会救急事業部救急指導科へメールで送信。
- →当日、受講申請書の記入を省くことができ、救命技能認定証を生徒 に配付できる。

Ú

4)当日:

- ・実施約1~2時間前に用務員に人形や AED などの必要物品を消防署 へ車で取りに行ってもらう。
- ・約1時間前に消防署員・東京防災救急協会・消防団の方が到着する ため、会場に案内をする。
- ・終了後は、生徒たちも一緒に片付け。
- ・感想をクラウドサービスのアンケート機能を通じて提出させた。

⇒結果は、「得られた成果」





得られた成果

・生徒が防災意識を高めながら、実践的スキルを身に着けることができた。

問1. 今回、救命講習に参加しようと思った理由を書いてください。

- ・保健の授業で習った心肺蘇生のやり方や AED の使い方を詳しく知りたかったから。
- ・いざというときに勇気ある行動を取ることができるように学んでおきたかったからです。
- ・私が救命講習に参加し、AED などを使って人を助けた場合 1 人の 命が救えるということを思ったので参加しました。 そして、この ような機会がこれから無いかもしれないと思い、今回がチャンス だと思ったからです。

問2. 今回の救命講習で学んだこと、今後に生かしたいこと等を自由 に書いてください。また、講習中には聞けなかった疑問点などもあれ ば書いてください。

- ・心肺蘇生で手を組んだ時に指先をつけないように押すということを 初めて知りました。また、心肺蘇生は心臓の代わりだと聞いて、参 考になりました。
- ・AED を使うとき、周りに助けを求めるために大声を出すのを学びました。また、人が倒れていても助けに動かない人がいるので自分自身で指示をするのが大切であると思いました。
- ・自分が救急手当をして万が一の場合があっても罪にとわれない。
- ・今まではやはり AED を使ったり、緊急の手当てをしたりすることに対して自分でできるのだろうか、という気持ちがありましたが、今回実際に AED を使ってみると音声でどうしたら良いかを教えてくれたりしたので自分 1 人で全てをやろうとせず周りの人と協力しながら手当てをすることも大切だと学びました。
- ・いざとなった時に、「AED を持ってきてください」と言われても、初めて来た場所だったり、よく知らない場所だとどこにあるかわからないと思います。「日本全国 AED マップ」の情報を、多くの人が利用する Google マップなどに重ねればより多くの人が AED の設置場所が分かって良いと思いました。

どのくらい身につき	知識・技能	かなり
ましたか?	思考力・判断力・表現力	かなり
	学びに向かう力・人間性	かなり
課題・苦労・工夫	例年、生徒から出る質問な	どを予め消防署の方たちに伝えておくと、
課題	講習の中に入れてくれる為	る、より有意義な時間になると感じた。

記入日	2019年12月10日(2019年度のチャレンジプラン)
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校
実践番号 (団体内・年度内の通し番号)	39 (教員研修①)
タイトル	教員の防災防犯1日研修
実践担当者のお名前	安達(防災係)
実践にかかった金額	3万円未満(炊き出し訓練、文房具)
実践の準備にかかった時間	数時間
実践活動を実施した日時	2019年8月30日9時00分~15時00分
実践の所要時間	6 時間
実践の運営側で動いた人の人数	7人
防災教育の対象者の属性	教職員
防災教育の対象者の人数	約 50 人
実践を行った都道府県と市区町村	東京都世田谷区
実践を行った具体的な場所	目黒星美学園中学高等学校 大会議室・調理室・ラウンジ
★実践に必要だった特定の能力を	炊き出し訓練:アルファ米炊き出しセット・カレー
持った人・物品・ツール・知識等	(賞味期限の近いものを消費)
	ヒヤリハットマップ:近隣地図・丸いシール
	救命講習:救命講習指導員・AED・訓練用人形

達成目標	【目的・目標】
	・防災が非常時に向けた危機意識の向上であるのに対し、防犯は日常
	の危機意識の向上と言える。防災と防犯の両面から取り組みを強化
	することで、全体の意識向上を目指す。
	【背景・経緯】
	・本校では、4年前から教職員を対象とした「一日防災研修」を実施
	している。例年、地震対応に重点を置いた研修をすることが多い
	が、今年度は防犯・防災両面を強化する研修を行うことにした。

(1)事前準備

- ・救命講習申し込み(4月)→管轄の消防署
- ・炊き出し訓練の準備・備蓄食料の期限確認(7月)
- ・防犯研修用パワーポイント・資料作成(7月)
- ・近隣地図のコピー(8月)
- ・シールの購入(8月)
- ・火災報知器・防火扉の管理業者への連絡(8月)

(2)プログラム・当日の流れ

9:00~9:30 地震発生時の初動訓練

9:30~12:00 防犯研修

12:00~13:30 昼食(炊き出し訓練)&ヒヤリハットマップ作り

校内防犯ツアー・発電機試運転

13:30~15:00 救命講習(90分コース)

15:00~15:30 火災報知器・防火扉訓練

地震発生時の初動訓練

6月の全校防災訓練の経験を踏まえて、「地震発生時に管理職がいない」という設定で、初動訓練を行った。

防犯研修 (詳細は省略)

これまでは、地震発生を想定した研修を行ってきたが、今年度は、日常の危機意識を高めるために、午前中は防犯研修を行った。

炊き出し訓練

メニュー:アルファ米(白米)とカレー

ヒヤリハットマップ作り(ワークショップ)

昼食のテーブルごとに、マップ作りに取り組んだ。

「防災」「防犯」「日常」の視点から、気づいたこと・気になることを 出し合い、色別のシールを貼った。





救命講習(90 分コース)

年によっては、3時間コースを受講している。

火災報知器・防火扉訓練

- 6月の全校防災訓練の際に消防からの講評の中で、火災報知器が鳴ったときの教員の動作について、不十分だったと指摘を受けた。
- →実際に、訓練として火災報知機を鳴らして、警報盤の表示を確認したり、防火扉が閉まる様子を観察した。(一連の作業は、管理業者に依頼)

得られた成果

・防災と防犯の両面から取り組みを強化することで、全体の意識向上が図れた。

課題・苦労・工夫

苦労

工夫

・毎年、教員でアイディアを出し合いながら、手作りで研修を企画している。企画や資料探しは、やりがいがあるが苦労している。

・2 学期のに生徒に、教員研修の報告をした。特に、6 月の防災訓練で 消防士の方から指摘された「先生の反省点」を改善すべく、初動訓 練と防火設備の訓練を行ったことを報告した。

記入日	2019年12月27日(2019年度のチャレンジプラン)
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校
実践番号(団体内・年度内の通し番号)	40 (日常の工夫①)
タイトル	1分間で生徒の意識を変える「いつかその時の5秒前」
	(大地震発生への自分事意識を持たせる工夫)
実践担当者のお名前	京
実践にかかった金額	ほぼ0円
実践の準備にかかった時間	なし
実践活動を実施した日時	(日々のちょっとした時間)
実践の所要時間	1分
実践の運営側で動いた人の人数	1人
防災教育の対象者の属性	中学生・高校生
防災教育の対象者の人数	約 450 人
実践を行った都道府県と市区町村	東京都世田谷区
実践を行った具体的な場所	体育館や教室など

達成目標	【目的・目標】		
	・短時間で生徒の意識を変える防災アクティビティを考案する。学校		
	現場で、ちょっとした時	閉にできるものを目指す。	
	・「まさか自分が災害に遭	うことはないだろう」「いつかその時が来る	
	かもしれないが、それは	は今日ではない」という意識を、ちょっとし	
	た工夫の積み重ねで変え	とていく。	
	【背景・経緯】		
	東日本大震災から時間が経つにつれて、「風化」という言葉を聞くよう		
	になったが、東日本大震災をきっかけとして、首都直下地震をはじ		
	め、次に起こり得る災害に向けて、防災活動を進めている立場から		
	は、「日々、次の災害に近づいていっている」という視点の転換を図り		
	たいと考えた。		
どの力を身につけよ	知識・技能	少し	
うとしましたか?	思考力・判断力・表現力	少し	
	学びに向かう力・人間性	少し	

今は、来ませんで

したね。

実践内容・方法

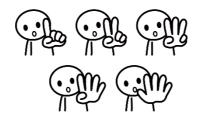
以下のやり取りを、生徒と行う。

教員 (突然、思いついたように時計を見て、)

「あ!皆さん、大変です!あと5秒で大きな地震が来ます!」

・・・教員は無言で5秒カウントする・・・

生徒 (半信半疑ながらも、空でカウントする様子)



教員 (心底、ホッとした様子で、) 「あー良かったー。今は、来ませんでしたね。」

生徒 (ニヤニヤ・・・)

教員 (ちょっと真面目な表情で、)

「でも、皆さん、2011年3月11日の地震が発生する、もしくは 緊急地震速報が鳴る5秒前に、『あと5秒で地震が来る』と予想 していた人? |

生徒 (ハッとした表情を浮かべる)

教員「先生はあの日の 5 秒前は、週末は宮城に帰るつもりで、のん気 にテストの採点を頑張っていました。」

生徒「私も気づかなかったー」

教員「今日は、たまたまそのときの 5 秒前ではありませんでした。 でも、必ずいつか私たちは、『そのときの 5 秒前』を迎えま す。だからその時までに一人一人がしっかりと備えましょう。」

①①①

- ・このやり取りを日常の中で何度か繰り返す中で、「いつか大きな災害 に直面する時が来る」という意識が、生徒の中に根付いていく。
- ・勿論、生徒を怖がらせることが目的ではなく、話のオチとしては、 防災に前向きに取り組む気持ちを持たせる。

得られた成果	・生徒が、「防災意識を変えた印象に残るアクティビティ」として、し			
	ばしば挙げてくれる。生	徒と教員間のコミュニケーションとして、		
	「お気に入りのやり取り	〕」になっていると、教員は思っている。		
	・「いつか自分が大きな地質	震に遭うかもしれないと思う人?」という問		
	いに対して、ほとんどの	生徒が即、手を挙げるようになった。		
	・揺れが発生した時に、生	・揺れが発生した時に、生徒たちがすばやく身を守る行動を取るよう		
	になった。この行動は、「いつ、5 秒前になるか分からない」という			
	意識が心のどこかにあることも、影響していると考える。			
どのくらい身につき	知識・技能	少し		
ましたか?	思考力・判断力・表現力	少し		
	学びに向かう力・人間性	かなり		
課題・苦労・工夫	今後、東日本大震災の記憶が薄い・ない生徒たちが入って来るので、			
	「東日本大震災の5秒前」のことを思い浮かべてもらうことができな			
	くなるため、表現を変えていく必要がある。			

★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ		
伝えたい相手	防災教育をちょっとやってみたいと思っている先生方	
伝えたい内容	防災教育を始めた初期の頃に考えたアクティビティです。思っていた	
課題	課題 よりも、生徒からの評判が良かったです。生徒の意識や認識を短時間	
	でひっくり返すことができるので、お薦めです。	

記入日	2019年12月18日(2019年度のチャレンジプラン)
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校
実践番号(団体内・年度内の通し番号)	41 (日常の工夫②)
タイトル	はにわ DE LED
実践担当者のお名前	市橋(社会科)
実践にかかった金額	1000 円未満/人(粘土・LEDライト・送料など含む)
	全体では、
実践の準備にかかった時間	数時間
実践活動を実施した日時	2019年9月29日~10月18日
実践の所要時間	5 時間程度
実践の運営側で動いた人の人数	6 人: 教員(2)・生徒(4)
防災教育の対象者の属性	小学生(高学年)
防災教育の対象者の人数	約10人
実践を行った都道府県と市区町村	東京都世田谷区
実践を行った具体的な場所	目黒星美学園中学高等学校 美術室
例:〇〇小学校体育館	
★実践に必要だった特定の能力を	粘土、LEDライト、オーブン
持った人・物品・ツール・知識等	

達成目標	粘土で埴輪を作ることを通じて、歴史に親しみ、さらに、LEDを埋		
	め込むことまでを考えるこ	ことで、震災時などにも卓上LEDとして利	
	用できるものとして、防災意識を高めるものとする。		
	★本プランは、小学生を対象とした本校の「体験授業・社会科」の一		
	環で、実施した。		
どの力を身につけよ	知識・技能	かなり	
うとしましたか?	思考力・判断力・表現力	少し	
	学びに向かう力・人間性	かなり	

オーブン粘土を用い、作成。



埴輪のベースを作成するために、紙コップ(予めラップを巻いてお き、粘土を剥がしやすくする)を使用して、粘土を貼り付ける(ひび 割れなどしないよう、厚さは耳たぶ程度)。

ベースが出来たら、思い思いの装飾を施し、LEDの光が洩れる穴を 開けるなどの作業を実施。粘土は水をつけて乾燥を防ぎながらつけて いった。

Û

▶高校生が作成した見本

2週間程度乾燥させてオーブンで焼く。 クッション材を入れて発送。

これだと光が外に広がらなか

ったため、本番は、側面に穴 を開けて作成した。

得られた成果	古代の営みに触れつつ、防災意識を高めることができた。	
どのくらい身につき	知識・技能	少し
ましたか?	思考力・判断力・表現力	少し
	学びに向かう力・人間性	かなり
課題・苦労・工夫	10 名程度の不慣れな児童を指導する場合は、教員 1 人では難しい(美	
		ので、高校生 4 名の助けも借りて、事前に
苦労	練習も行い実施した。また	こ、できあがったものを後日オーブンで焼い
	たが、割れないよう事前に	ドベなどで加工する手間もかかる。

★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ		
伝えたい相手 未来を担う小学生		
伝えたい内容 身近な親しみやすい題材で防災を考えていきましょう!		

記入日	2019年 12月 27日(2019年度のチャレンジプラン)	
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校	
実践番号(団体内・年度内の通し番号)	42 (日常の工夫③)	
タイトル	備蓄食料でパン食い競争!? 選ばれたのは・・・	
	(台風 19 号に伴う臨時競技の実施)	
実践担当者のお名前	太田(体育科)	
実践にかかった金額	3000 円未満(非常食のようかん)	
	※ただし、期限の近づいた備蓄食料を活用	
実践の準備にかかった時間	数時間	
実践活動を実施した日時	2019年10月15日	
実践の所要時間	20分	
実践の運営側で動いた人の人数	10人	
防災教育の対象者の属性	高校生(3年生)	
防災教育の対象者の人数	約 80 人	
実践を行った都道府県と市区町村	東京都世田谷区	
実践を行った具体的な場所	目黒星美学園中学高等学校 グラウンド	
★実践に必要だった特定の能力を	備蓄食料のようかん・パン食い競争用の棒と洗濯ばさみ	
持った人・物品・ツール・知識等		

達成目標	【目的・目標】	
	パン食い競争のパンの代替	品として、備蓄食料を使い、体育祭の種目
	とする。	
	【背景・経緯】	
	台風 19 号の影響で、体育祭(10/15 実施)のパン食い競争用のパン	
	が必要数入手できない可能性が発生した。そのため、急遽、備蓄食料	
	で使えるものがないか検討することになった。	
どの力を身につけよ	知識・技能	少し
うとしましたか?	思考力・判断力・表現力	少し
	学びに向かう力・人間性	少し

- ①パン食い競争のパンの代替品として、何が使えるかを検討した。
- ②野菜ジュースは重く、アルファ米やビスケットはサイズが大きいため、クッキーは期限が近いものがなかったため、ようかんに決定した。
- ③パン食い競争の棒に、ようかんを下げる工夫をした。
- ④当日は、準備できたパンと並べて、ようかんを設置した。





得られた成果

- ・生徒からは「ようかんは、パンよりも取りづらい」という感想もあったが、インパクトはあり、体育祭の思い出として、印象には残った様子だった。
- ・期限の近づいた備蓄食料の有効な活用になった。

どのくらい身につき
ましたか ?

知識・技能	少し
思考力・判断力・表現力	少し
学びに向かう力・人間性	少し

課題・苦労・工夫



工夫

・私立学校では、自校生徒分の食料を学校で準備するため、防災担当者からしばしば課題の1つとして挙がるのが、「水・食料の処分方法である。期限の迫った食料の有効な使い道にもなった。特に競技に参加したのは高校3年生であり、例年、卒業前に備蓄食料を配布しているので、ユニークな返還の仕方にもなった。

記入日	2019年12月23日(2019年度のチャレンジプラン)	
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校	
実践番号(団体内・年度内の通し番号)	43 (日常の工夫④)	
タイトル	誰でも防災係!日常の中で防災対策に生徒を巻き込む工夫	
	一大掃除で防災倉庫探検	
実践担当者のお名前	京(防災係)・在田(環境美化委員)	

実践にかかった金額	ほぼ0円
実践の準備にかかった時間	なし
実践活動を実施した日時	2019年7月18日9時00分~9時40分
	2019年12月21日9時00分~9時40分
実践の所要時間	30分
実践の運営側で動いた人の人数	1人
防災教育の対象者の属性	中学生・高校生
防災教育の対象者の人数	約5~10人(1回あたり)
実践を行った都道府県と市区町村	東京都世田谷区
実践を行った具体的な場所	目黒星美学園中学高等学校 防災倉庫
★実践に必要だった特定の能力を	バインダー、紙、ペン
持った人・物品・ツール・知識等	

達成目標	本校では、「一人一人が防災係」を打ち出している。学校の備蓄品の管		
	理は、「教員がすべき防災対策」の1つであるが、防災教育の一環とし		
	て、生徒と管理点検を行っている。		
どの力を身につけよ	知識・技能	少し	
うとしましたか?	思考力・判断力・表現力	全く	
	学びに向かう力・人間性	少し	

- ①大掃除の分担のときに、「防災担当」の班を作ってもらう。
- ②生徒が2人1チームになり、個数や期限などの備蓄品のチェックを行う。





得られた成果

- ・生徒からは「思ったよりも楽しかった」という感想が聞かれる。大 掃除の一環で、備蓄倉庫の点検をすることは、特別感もあり、楽し く感じる様子。
- ・チェックにあたっては、予め一覧表にしたものを渡しても良いが、 時間に余裕があるときは、白い紙を渡して、品名や期限を書き出し てもらうと、生徒はどのようなものがあるか、しっかりチェックし て、より把握できる。
- ・「防災担当の先生がいないときに、地震が起こるかもしれないから、 ここに備蓄品があることを覚えておいてね」と必ず一言加えること で、学校の防災対策に対しても、生徒に主体性を持たせる。

どのくらい身につき
ましたか?

知識・技能	少し
思考力・判断力・表現力	全く
学びに向かう力・人間性	かなり

課題・苦労・工夫

課題

備蓄食料を目にした生徒から、必ず「食べてみたい」という要望が上がるので、その声を拾って、試食会のようなイベントに繋げられると良い。

★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ		
伝えたい相手	先生	
伝えたい内容	日常のやり取りが、生徒の意識を変えるチャンスです。大きなことで	
	はなく、小さな積み重ねが一番、生徒の意識改革と成長に繋がりまし	
	た。「防災に詳しくないから、担当ではないから防災教育ができな	
	い」という声をしばしば耳にしますが、毎日、生徒と共に過ごす教員	
	が、やっぱり一番そのチャンスを握っているので、「先生は誰でも防	
	災教育担当者」だと思います。	

記入日	2019年 12月 10日(2019年度のチャレンジプラン)
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校
実践番号(団体内・年度内の通し番号)	44 (日常の工夫⑤)
タイトル	世界に向けて発信しよう!
	外国からのお客様に英語で活動紹介
実践担当者のお名前	小西 (教頭)
実践にかかった金額	ほぼ0円
実践の準備にかかった時間	数時間
実践活動を実施した日時	2019年10月16日16時10分~16時20分
	2019年10月18日15時20分~15時30分
実践の所要時間	10分(1回あたり)
実践の運営側で動いた人の人数	3人
防災教育の対象者の属性	中学生・高校生・教職員・海外
防災教育の対象者の人数	約 500 人
実践を行った都道府県と市区町村	東京都世田谷区
実践を行った具体的な場所	目黒星美学園中学高等学校ラウラメモリアルホール
★実践に必要だった特定の能力を	パワーポイント、英語
持った人・物品・ツール・知識等	

達成目標	本校は、イタリア系の修道会が母体のミッション校であり、外国から		
	の視察が来ることがある。	今年は同時期にフランス人とアメリカ人の	
	シスターの学校訪問があり、その歓迎会(学校行事)の中で、生徒の		
	代表による英語と日本語で被災地支援や防災活動の紹介を行うことに		
	なった。		
どの力を身につけよ	知識・技能	少し	
うとしましたか?	思考力・判断力・表現力	大いに	
	学びに向かう力・人間性	少し	

	1		
実践内容・方法	①スライドの作成 (10月上旬)		
	②原稿作成・英訳		
	③リハー サ ル		
	④本番(10/16・18)		
	【内容】		
	・東日本大震災について		
	・被災地ボランティア研修がはじまったきっかけ		
	(生徒が先生に活動を提案した)		
	・これまでの活動のダイジェスト版		
	・被災地ボランティア研修から広がった活動の紹介(東京での復興支		
	援イベント、地域での防災活動、地域でのボランティア活動)		
得られた成果	・全校生徒が参加する学校行事であったため、「他の生徒たちの関心を		
	高めること」にも繋がった。		
	・特に中1にとっては、震災当時を思い出したり、初めて活動の詳細		
	を知る機会となった。		
	・学校オリジナルの「携帯トイレ」をプレゼントして、生徒たちが作		
	成に至った経緯を説明したところ、大変興味を持ってくださり、イ		
	タリアやバチカンでも紹	アやバチカンでも紹介することを約束してくださった。	
どのくらい身につき	知識・技能	少し	
ましたか?	思考力・判断力・表現力	かなり	
	学びに向かう力・人間性	かなり	
課題・苦労・工夫	・準備時間が限られていたため、複数の教員・生徒で分担して、過去		
苦労	の資料やスライドを活用しながら、発表の準備を行った。		

記入日	2019年12月29日(2019年度のチャレンジプラン)
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校
実践番号(団体内・年度内の通し番号)	45 (日常の工夫⑥)
タイトル	修学旅行で「I♡防災」「We♡減災」
実践担当者のお名前	京(中3担当)
実践にかかった金額	3000 円未満
実践の準備にかかった時間	なし
実践活動を実施した日時	2019年11月16日19時00分~20時00分
実践の所要時間	60 分(小箱の制作時間)
実践の運営側で動いた人の人数	1人
防災教育の対象者の属性	
防災教育の対象者の人数	
実践を行った都道府県と市区町村	京都府京都市
実践を行った具体的な場所	宿泊先のホテル(小箱の制作→使用場所は学校内)

達成目標	防災に関することに楽しそうに取り組む教員の	2018年	
	姿を見せることで、防災に対するポジティブな	TE I AVE	
	印象を生徒に与える。	B+ 444	
実践内容・方法	修学旅行の際に、	rox	
	伝統工芸体験(小箱の絵付け)で、	W P	
	教員が防災減災デザインを制作した。	2019年	
得られた成果	小箱の日常的な使い方を生徒に考えてもらい、	anden	
	「授業で生徒の指名に使っている番号札」を	* Web	
	入れるケースにすることになった。	4 三点经	
	「生徒からの提案で使っている」ことを		
	紹介しながら、毎日持ち歩いている。		
課題・苦労・工夫	本当に小さな工夫であるが、こういったことが、●生徒が防災・減災		
	というワードを「日常のもの」として捉える積み重ねになり、また、		
	②「防災に関する提案を先生にしてみよう」という雰囲気づくりに動		
	がるので、大事にしている。		